

新潟市文化財センター年報

第10号

—令和3（2021）年度版—

2023

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第10号

—令和3（2021）年度版—



秋葉区 古津八幡山遺跡の方形周溝墓（弥生時代 令和3年撮影）

2023

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査などにより出土した考古資料の収集及び保存並びに公開、そのほかの活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る808か所の遺跡が知られています（令和4年3月末）。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業などの増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどりました。その後も継続して発掘調査は一定数行われており、毎年新たに遺跡も発見され、遺跡数も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備などに伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月に開館しました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設しており、敷地内には新潟市指定文化財の旧武田家住宅や畜動舎を移築復元しています。



新潟市文化財センター及び旧武田家住宅（2011年5月）
撮影：佐竹浩一

例 言

- ・本書は、新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）及び文化スポーツ部歴史文化課（以下「歴史文化課」）の主に埋蔵文化財に係る令和3年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノートなどの研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』（以下「年報」）は平成25年から刊行され、本書は第10号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号〔新潟市文化財センター2014〕に記載されている。
- ・本書は歴史文化課文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は執筆者が替わる各文章の末尾に記載した。
- ・本書に記載されている施設名及び所属などについては、本書刊行当時のものである。
- ・本書における調査面積などは、小数第2位を四捨五入して表記している。
- ・『年報』第6号まではⅡ2に主要な試掘・確認調査の概要を掲載していたが、『年報』第7号からは本発掘調査のみ記載している。
- ・Ⅲ2の「調査位置図」は新潟市地形図（2,500分の1）を使用しており、縮尺は5,000分の1、地図の上位が北である。
- ・図・表番号は、Ⅰ～Ⅳで章ごとに1から付けているが、Ⅴは節ごとに番号を付している。
- ・Ⅴ章で登場する遺跡名のうち、新潟市の登録している名称と異なる場合は、（ ）内に正式名を記している。
- ・掲載遺物の実測・トレースなどは文化財センターで行った。
- ・本書の編集は長谷川眞志・相田泰臣・八藤後智人・奈良佳子が行った。

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
Ⅲ 文化財センターの事業	7
1 本発掘調査の概要	7
2 令和3年度の本発掘調査	8
3 整理作業の概要	11
4 資料の収蔵・保管	12
5 資料の公開・展示	14
6 教育普及活動	18
7 保存処理	23
8 決算額	23
Ⅳ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	25
1 資料の公開・展示	25
2 教育普及活動	29
3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進	32
Ⅴ 研究活動—資料報告・研究ノートなど—	33
1 新潟市西蒲区重稲場遺跡群の前期終末縄文土器と黒曜石	33
2 試掘・確認調査からの旧地形復元	55
引用・参考文献	61
付録（各表）	62

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

概要 新潟市では、「文化財に関する事項」は『行政組織規則』により市長部局の歴史文化課が主に補助執行することとされている。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。事務分掌は、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用などを文化財センターが行っている。

開発事前審査 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日施行）に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、『文化財保護法』（以下『法』）第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に基づいて『法』に伴う指示を行っている。

本発掘調査 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。本市が原因者の場合は、関係各部署からの依頼を受託して同様に実施している。

令和3年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1のとおりである。このうち本発掘調査を実施した事業は内容欄に記載した。

埋蔵文化財 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が808か所存在する（令和4年3月31日時点）。令和3年度は、試掘調査による新発見遺跡が8か所ある。県営ほ場整備事業などに伴って大規模な試掘調査が実施され、発見される遺跡数も増加している。

本発掘調査件数 平成17年3月に広域合併が行われてから令和3年度までの本発掘調査件数は表2のとおりである。令和3年度の本発掘調査件数は2件、1事業であり、17年間で92件行っており、平均すると年間約5～6件の本発掘調査を実施していることになる。

全体の件数では、平成19・20年度が10件と最も多く、それ以降、2～8件で推移し減少傾向にあるが、1件あたりの本発掘調査の内容では、個人住宅などの小規模なものから、道路建設などの大規模なものまであり、必ずしも件数の減少が調査面積の減少を示してはいない。

種類別で見ると、新潟県地域振興局（以前は新潟県農地事務所）によるほ場整備関係や新潟市による道路改良関

係（政令指定都市指定以前は新潟県土木事務所）による本発掘調査が定期的に行われており、民間開発関係による本発掘調査は不定期に行われている（図1）。

試掘・確認調査の結果等から今後、本発掘調査件数の増加が想定される。近年、個人住宅建設に伴う本発掘調査も一定件数実施しており、民間開発によって突発的に件数が増大する可能性も十分ある。文化財センターとして本発掘調査に対応できる体制を整えていく必要がある。（遠藤恭雄）

表1 令和3年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費(円)	調査面積(m ²)	担当	
2019002	新潟市	主要地方道新潟中央環状線建設事業	道正遺跡	整理作業	126,629,812	-	高橋保雄	
2020001			道正遺跡				高橋保雄	
2020002			岡崎遺跡				奈良佳子	
2021001			道正遺跡	本発掘調査			720.0	高橋保雄
2021002			岡崎遺跡	整理作業			165.0	遠藤恭雄
2017006 2018002	個人	小規模緊急発掘調査事業	程島船跡	整理作業	2,693,473	-	畠田優子	
2018003 2020004	個人	小規模緊急発掘調査事業	原遺跡	整理作業	6,602,760	-	立木宏明 遠藤恭雄	
2019001 2020003	新潟市	横越地区雨水調整池整備事業	曾我墓所遺跡	整理作業	56,699,612	-	畠田優子	
2020005	個人	小規模緊急発掘調査事業	平遺跡	整理作業	6,337,826	-	前山精明	
合計					198,963,483			

表2 新潟市本発掘調査件数（平成17～令和3年度）

種別	年度												小計					
	平成											令和						
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		29	30	1	2	3
民間	2	5	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	3	2	0	2	0	21
県地域振興局	2	2	2	2	2	1	3	5	3	1	2	1	1	0	0	0	0	27
県土木	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
新潟市	1	1	5	7	2	3	1	3	2	2	0	2	2	3	2	3	2	41
合計	7	9	10	10	4	4	5	8	6	3	3	3	6	5	2	5	2	92

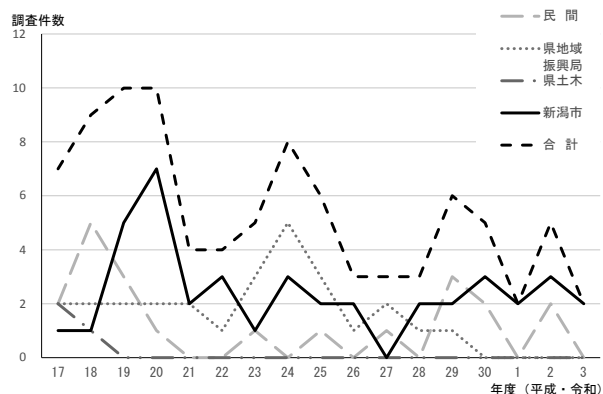


図1 新潟市本発掘調査件数の推移（平成17～令和3年度）

II 開発事前審査

1 事前審査内容

(1) 開発事前審査

概要 本市は、国内でも有数の規模を誇る越後平野に位置する。この越後平野は信濃川・阿賀野川といった大河川が長い年月をかけ運んできた土砂により形成された沖積地が大部分を占める。この広大な沖積平野を囲むように、新津丘陵や角田・弥彦といった丘陵地と、新潟砂丘（新砂丘Ⅰ～Ⅲ）に代表される砂丘地が存在する。砂丘の内陸側は鳥屋野潟や福島潟などに代表される潟湖が多数存在する低湿地帯で、かつては洪水の常襲地帯でもあった。記録に残る範囲では江戸時代以降、新田開発に伴い潟や沼などの水抜き工事が行われてきた。明治・大正・昭和と、時代と共に土木技術が発展し、特に1950年代以降の土地改良の結果、湿地帯は解消されていった。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の大半は地中に埋まっており、本市の様な沖積平野では地表面観察による遺跡の把握は困難である。長年の耕作等により地表面に露出してきた遺物を丹念に観察・収集し遺跡の把握に取り組んできたが、機械掘削が主体となっている現在の工事では、存在が把握されないまま地中にある遺跡に直接掘削が及ぶ機会が増大している。周知化されている遺跡及び未発見の遺跡の把握・周知・保護は行政の責務と考えている。

社会情勢の変化に対応しつつ迅速に保護対応を図るために、本市では以下のような取り組みを実施している。

公共事業 国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを県下の市町村に提供している。審査及び事業者との協議は該当自治体が行っている。

国・県機関実施事業のうち、令和3年度の新潟市関連分は52件で前年度より8件増加した。内訳は表1に示した。県事業中の7件はは場整備事業に係る事業で、継続して協議を行っている。遺跡に該当する工事については法第94条通知が行われている。

市の実施する土木・建築事業については、年度ごとに市内全部署へ照会をかけ、その回答をもとに協議している。

規模を問わず、原則すべての事業を取捨するため、審査件数が数百件と膨大になり、短期間での審査・協議が

困難となっている。また、年度途中で生起する小規模事業は事業課の協力を得て早期から情報提供いただき協議している。

民間事業 計画地における遺跡の有無、もしくは保護協議の対象地であるかを、歴史文化課窓口及びFAXで対応している。

建築事業については、建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があり、建築主は歴史文化課へ照会して確認番号を取得する必要がある。その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。照会目的は専用住宅建築に係る建築確認番号取得や、土地取引もしくは不動産鑑定評価など計画段階での事前調査が多く、電柱、看板などの工事がこれに続く。特にFAXでの照会は、民間事業者にかなり定着してきており、日々の審査件数は増大し、審査結果のGIS登録業務が追い付かない状況となっている。

開発行為については、各区の『開発審査協議会設置要領』に規定されているとおり『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む市内関係各課に意見照会されるため、すべての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

本市の大半を占める農地については、開発事業が計画された場合『農地法』に基づき、市内に6つ存在する農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）へ転用許可申請・届出が必要である。農業委員会で許可されたのちに土木工事が行われることが多いので、各農業委員会事務局へ依頼し、転用許可申請・届出の写しを歴史文化課へ提供をいただき、全件について審査の上、取扱い方針を決定し、必要なものについては事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可事務を担当する市内各課等と緊密に連携し、事前把握を行っている。しかし、専用住宅を含む民間事業は計画から施工までのスピードが速く、試掘・確認調

査や協議のための時間が十分に確保できず、対応に苦慮している。遺跡の適切な保護のため、制度と実行力にバランスを欠くことのないよう、体制の強化が必要とされている。

令和3年度の協議・調整の状況 ほか整備は、新潟県新潟地域振興局の所管事業である。同局農林振興部の所管区域には江南区・秋葉区が、巻農業振興部の所管区域には西区・西蒲区が含まれている。各区の計画地はいずれも大面積で、市単独の対応が困難になったことから、新潟県教育庁文化行政課・県農地部・新潟地域振興局の担当課、新潟市の4者で、例年6月上旬に埋蔵文化財保護と整備事業の進捗について調整会を持つこととなった。調整会では整備計画の全容と埋蔵文化財試掘・確認調査年次計画要望が示され、関係各課は長期的な対応が必要になることを確認している。

市事業の審査件数は423件であり、令和3年度の421件から2件の増となっている。

主な内訳としては、水道関係116件（全体の約27.4%）、道路関係167件（同39.5%）、下水道関係65件（同15.4%）、その他公共施設関係75件（同約17.7%）等となった。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であった。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。令和3年度は10,055件（令和2年度8,949件に比して1,106件の増）であった。

内訳をみると、開発行為は微増（令和2年度の59件から60件）、農地転用は微増（同561件から567件）、建築確認申請に係る審査件数は増（同3,635件から3,997件）であった。開発行為では宅地造成が最も多く、共同住宅・福祉施設がこれに続く。

(2) 試掘・確認調査

概要 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、内容が不明な場合は確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出している（事業費の約50%は文化庁の補助を受けている）。原則として事業者へ経費負担を求めている。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。以前はまれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼすべての案件で協力が得られている。試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透してきていると思われる。

令和3年度 表1・3のとおり、試掘調査31件、確認調査47件、計78件の調査を実施した。令和3年度の件数

表1 令和3年度公共事業審査事業主体別内訳

事業主体	審査件数	新発見遺跡 ()は遺跡範囲変更	試掘調査の 協議をしたもの	94条通知
国	15	0 (1)	1	1
県	37	2 (8)	5	8
市	423	2 (1)	8	8
計	475	6	14	17

表2 令和3年度民間事業事前審査件数

区名	審査種別					審査・ 照会件数	[法] 93条届出
	建築確認	窓口・FAX 照会	32条照会	農地転用	文書照会		
北区	348	490	5	82	6	931	60
東区	650	925	6	74	0	1,655	43
中央区	800	1,335	7	46	2	2,190	7
江南区	477	610	10	107	11	1,215	5
秋葉区	440	415	6	72	4	937	3
南区	245	267	9	55	3	579	11
西区	763	1,083	12	118	2	1,978	3
西蒲区	274	275	5	13	3	570	17
合計	3,997	5,400	60	567	31	10,055	149

※審査種別の各項目は次のとおりである。「建築確認」は照会用紙による建築確認申請事前調査報告書に係る照会。「窓口・FAX照会」は「建築確認」以外の照会用紙による照会。「32条照会」は「都市計画法」第32条に係る公文書による照会。「農地転用」は「農地法」第4条・第5条に係る公文書による照会。「文書照会」は「32条照会」、「農地転用」以外の公文書による照会。

表3 令和3年度試掘・確認調査、工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数		埋蔵文化財 検出件数	割合 (%)
北区	確認調査	公共	0	3	5	1
		民間	3			
	試掘調査	公共	0	2		0
		民間	2			0
工事立会	公共	2	2	4	0	
	民間	2			0	
東区	確認調査	公共	0	3	5	0
		民間	3			
	試掘調査	公共	0	2		0
		民間	2			0
工事立会	公共	0	5	5	0	
	民間	5			0	
中央区	確認調査	公共	0	0	5	0
		民間	0			
	試掘調査	公共	0	5		0
		民間	5			0
工事立会	公共※	3	1	4	0	
	民間	1			0	
江南区	確認調査	公共	7	18	30	10
		民間	11			
	試掘調査	公共	2	12		5
		民間	10			42
工事立会	公共	5	5	20	2	
	民間	15			10	
秋葉区	確認調査	公共	10	15	19	11
		民間	5			
	試掘調査	公共	1	4		2
		民間	3			50
工事立会	公共	3	7	10	2	
	民間	7			20	
南区	確認調査	公共	0	0	2	0
		民間	0			
	試掘調査	公共	1	2		0
		民間	1			0
工事立会	公共	1	2	3	0	
	民間	2			0	
西区	確認調査	公共	1	3	4	2
		民間	2			
	試掘調査	公共	1	1		0
		民間	0			0
工事立会	公共	0	1	1	0	
	民間	1			0	
西蒲区	確認調査	公共	5	6	9	2
		民間	1			
	試掘調査	公共	1	3		0
		民間	2			0
工事立会	公共	11	5	16	1	
	民間	5			6	
合計	確認調査	公共	23	47	78	26
		民間	25			
	試掘調査	公共	6	31		7
		民間	25			23
工事立会	公共	25	38	63	5	
	民間	38			8	

※名勝の現状変更に係る工事立会（法第125条関連）

表4 令和3年度経費（調査支援委託費のみ 単位：千円）

調査内容		金額
試掘・確認調査 (民間開発・公共事業)	国庫補助対応	14,561
試掘・確認調査 (ほか整備対応)	国庫補助対応	37,809

表5 令和3年度試掘・確認調査一覧(調査番号順)

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	発掘種別 調査者	調査内容	調査地	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積)(㎡)	調査担当	調査員	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考
202114	-	試掘調査	民間	内蔵	西宮区 新飯田下宿内 8031番外	-	-	-	4/23~27	3	1590 (5,997.9)	山田よりか	-	なし	なし	不要	
202117	大酒遺跡 16	確認調査	民間	個人住宅	江津区 大酒大津浦 1219番1	遺物包含地	古代	古代	4/23	1	108 (281.5)	金田拓也	長谷川真志	溝(古代)	土師器・須恵器(古代)	慎重工事	
202118	狭ヶ島地A遺跡 15	確認調査	民間	宅地造成	東山区 狭ヶ島一丁目 402番3	遺物包含地	-	-	4/26	1	34.0 (99.6)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	慎重工事
202119	-	試掘調査	民間	グランド スタンド	東山区 女池五丁目 945番1外	-	-	-	5/17、7/1	2	67.7 (2,500.8)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	
202120	木崎原遺跡 809	確認調査	民間	個人住宅	西宮区 木崎字柳原 1179番10	遺物包含地	縄文	縄文	5/19	1	1.8 (126.6)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	慎重工事
202121	(高瀬遺跡) 820	試掘調査	公共 (市)	道路	東山区 横川字西端 506番外	集落跡	奈良	奈良	5/10~17	6	261.6 (35,000.0)	牧野耕作	-	井戸・土坑・ 小土坑(奈良)	土師器・須恵器・石製品・ 鉄製品・ブラスメット(奈良)	本発掘調査	
202123	(近世新高町跡) 575	試掘調査	民間	集合住宅	東山区 東福前西寺町 294番1	港町跡	近世	近世	5/25~26	2	27.3 (47.7)	金田拓也	長谷川真志	溝・性格不明遺構・ ピット(近世)	磁器・陶器・土師器土器・ 土製品・木製品・石製品・ 金属製品など(近世)	不要	
202126	三王山遺跡 410	確認調査	民間	売買	江津区 所島一丁目 800番1	集落跡	平安・中世	中世	5/24	1	14.5 (32.0)	山田よりか	-	土坑・性格不明遺構・ 小土坑(中世)	珠洲焼	不要	売買のため、90条届出不要。
202127	-	試掘調査	民間	こども園	江津区 元町二丁目 甲59番1外	-	-	-	6/9~10	2	37.4 (2,546.2)	山田よりか	-	なし	なし	不要	
202128	砂原前郷遺跡 821	確認調査	民間	農作業 小室	江津区 砂山一丁目 731番1外	遺物包含地	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 近世	-	6/2	1	24.7 (1,989.8)	金田拓也	長谷川真志	なし	土師器・須恵器(古代) (混ざりこみ) 陶磁器・土製品(近世)	工事立会	
202129	-	試掘調査	民間	個人住宅	江津区 早通四丁目 1782番1外	-	-	-	6/8~9	2	88.4 (3,940.0)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	
202132	(五番田遺跡) 821	試掘調査	公共 (市)	市道	江津区 茅野山字西前郷 1520番1外	遺物包含地	縄文・奈良	縄文・奈良	6/3~7/14	9	259.5 (21,948.0)	牧野耕作	-	なし	縄文土器・土師器・石製品・ ブラスメット(古代)	本発掘調査	新発見
202134	下場遺跡 86	確認調査	民間	集合住宅	東山区 下場本町 210番1外	遺物包含地	平安・中世	-	6/17	1	29.5 (626.6)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	範囲変更
202136	-	試掘調査	民間	集合住宅	東山区 石山5丁目 1077番1外	-	-	-	6/18	1	40.2 (1,683.0)	山田よりか	-	なし	なし	不要	
202137	-	試掘調査	公共 (市)	市道	秋葉区 鎌倉	-	-	-	6/29~30	2	86.9 (1,200.0)	山田よりか	-	なし	なし	不要	
202138	坊主田遺跡 606	確認調査	公共 (市)	市道	長野町字 長野前 370番地先	遺物包含地	縄文・平安	縄文	6/24	1	7.7 (234.0)	金田拓也	-	なし	縄文土器	工事立会	
202140	(亀田下北遺跡) 822	試掘調査	民間	病院	江津区 萩原四丁目 3077番1	遺物包含地	平安	平安	7/6~7	2	34.7 (1,918.0)	山田よりか	-	性格不明遺構・小土坑	土師器・須恵器	工事立会	新発見
202144	下町遺跡 715	確認調査	民間	売買	西宮区 峰岡字下町 14番1	遺物包含地	縄文・古代・ 中世	-	7/13	1	16.3 (622.0)	山田よりか	-	なし	なし	不要	売買のため、90条届出不要。
202145	緑立井遺跡 115	確認調査	民間	集合住宅	西宮区 黒島字川原田 5426番34内	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安	古墳	7/6~7	2	53.8 (983.4)	金田拓也	長谷川真志	なし	土師器(土師・古代) 須恵器(平安) 石製品(古墳)	工事立会	
202148	高瀬遺跡 820	確認調査	公共 (市)	市道	東山区 横川字西端 506番外	集落跡	奈良	奈良	7/19~20	2	56.6 (15,000.0)	牧野耕作	-	井戸・小土坑	土師器	継続協議	
202149	-	試掘調査	公共 (市)	地籍測量	東山区 亀田字西宮内 185番1	-	-	-	7/26	1	25.2 (30,000.0)	牧野耕作	-	なし	なし	不要	
202150	土居内遺跡 810	確認調査	公共 (市)	市道	江津区 鶴ノ子3丁目	遺物包含地	奈良・平安	奈良・平安	7/8	1	75.1 (1,020.0)	牧野耕作	-	なし	土師器・須恵器・石製品・ 木製品(古代)	継続協議	
202155	法花島屋B遺跡 307	確認調査	民間	宅地造成	北區 太田町字島屋 甲596番1外	遺物包含地	縄文・弥生・ 奈良・平安	縄文	7/15	1	27.0 (539.9)	山田よりか	-	性格不明遺構	縄文土器・近世陶磁器	工事立会	
202157	-	試掘調査	民間	売買	江津区 茅野一丁目 882番外	-	-	-	7/29	1	17.0 (1,063.6)	山田よりか	-	なし	なし	不要	
202161	砂原遺跡 406	確認調査	民間	個人住宅	江津区 砂山一丁目 1736番2外	遺物包含地	縄文・平安	-	8/24	1	11.0 (402.0)	牧野耕作	-	なし	なし	慎重工事	
202163	築上山遺跡 25	確認調査	民間	個人住宅	北區 新築字築上山 5033番1外	遺物包含地	平安	-	8/20	1	9.5 (125.5)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事	
202164	大酒遺跡 16	確認調査	民間	店舗	江津区 大酒大津浦 1196番1内	集落跡	平安・中世・ 近世	近世	9/2	1	8.7 (215.3)	金田拓也	長谷川真志	溝・井戸(近世)	近世陶磁器	慎重工事	
202167	原遺跡 126	確認調査	民間	売買	西宮区 中村字浮海 320番5外	集落跡	縄文・弥生	縄文	9/7~8	2	26.0 (637.2)	金田拓也	長谷川真志	溝・性格不明遺構・ ピット(縄文)	縄文土器・石器	継続協議	売買のため、90条届出不要。
202175	寺裏遺跡 812	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 馬場字東 267番外	遺物包含地	中世	中世	10/1~4	2	49.2 (17,200.0)	牧野耕作	-	土坑・性格不明遺構・ 小土坑(中世)	木製品(中世)	継続協議	範囲変更
202176	茶院A遺跡 543	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 打越字沼 乙356番外	集落跡	古墳・奈良・ 平安・中世・ 近世	-	10/6~7	2	57.2 (17,000.0)	牧野耕作	-	なし	なし	慎重工事	
202177	笠木場遺跡 817	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 笠木字東 1129番外	遺物包含地	中世	中世	10/11	1	56.3 (9,000.0)	牧野耕作	-	なし	土製品(中世)	継続協議	範囲変更
202178	-	試掘調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 笠木字東 1004番外	-	-	-	10/13~18	4	180.3 (190,000.0)	牧野耕作	-	土坑・溝・ ピット(時期不明)	なし	継続協議	
202179	島田遺跡 546	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 針ヶ原 285番外	遺物包含地	平安	-	10/21~11/17	15	564.4 (420,000.0)	牧野耕作	-	なし	なし	継続協議	2021180と同一の調査
202180	穂田遺跡 547	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 針ヶ原 285番外	遺物包含地	平安・中世・ 近世	-	10/21~11/17	15	564.4 (420,000.0)	牧野耕作	-	なし	なし	継続協議	2021179と同一の調査
202181	-	試掘調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 大原字アラス 403番外	-	-	-	10/6~11/1	16	1,020.0 (640,000.0)	今井さやか	西山真耶	なし	なし	不要	
202182	御神遺跡 815	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 小川字御神 1283番外	遺物包含地	中世	-	10/8	1	27.0 (7,300.0)	山田よりか	長谷川真志	なし	珠洲焼(珠集資料)	継続協議	
202183	見取遺跡 816	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 下家字見取 463番1外	遺物包含地	古墳	古墳	10/4~5	2	81.0 (19,000.0)	山田よりか	長谷川真志	なし	土師器(古墳) 土師器(時期不明)	継続協議	
202184	萬石南遺跡 814	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 大原字万石 463番外	遺物包含地	古墳	-	11/30	1	47.3 (13,000.0)	山田よりか	長谷川真志	なし	なし	継続協議	
202185	萬石南遺跡 813	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 大原字万石 463番外	遺物包含地	弥生・古墳	弥生・古墳	11/29	1	27.0 (8,200.0)	山田よりか	長谷川真志	なし	弥生土器・土師器(古墳)	継続協議	範囲変更
202186	細池寺道土遺跡 151	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 金屋字新田道 332番外	集落跡	平安・中世・ 近世	平安・中世	10/9~11/28	28	926.6 (510,000.0)	山田よりか	長谷川真志	流路	土師器(平安) 珠洲焼(中世)	継続協議	2021221・2021247と同一の調査 範囲変更
202187	下郷遺跡 367	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 穂原字那 6942番1外	敷布地	平安・中世	平安・中世	10/18~12/9	27	963.3 (1,040,000.0)	相澤裕子	渡邊裕司	井戸・土坑・小土坑・ 溝・性格不明遺構 (平安)	土師器・黒色土器・須恵器 (平安) 中世土師器(中世) 石製品	継続協議	2021188・189・248・249・250と 同一の調査 範囲変更
202188	山のハヤバ遺跡 368	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 穂原字那 6942番1外	敷布地	平安	-	10/18~12/9	27	963.3 (1,040,000.0)	相澤裕子	渡邊裕司	なし	なし	継続協議	2021187・189・248・249・250と 同一の調査 範囲変更
202189	曾我基所遺跡 379	確認調査	公共 (市)	ほ場整備	西宮区 穂原字那 6942番1外	集落跡	奈良・平安・ 中世・近世	平安	10/18~12/9	27	963.3 (1,040,000.0)	相澤裕子	渡邊裕司	土坑・溝・ 性格不明遺構(平安)	土師器・須恵器・石製品・骨 (平安)	継続協議	2021187・188・248・249・250と 同一の調査 範囲変更
202193	尾池遺跡 59	確認調査	民間	事務所	西宮区 中池字三三池 2752番3外	遺物包含地	平安	-	9/15~16	2	24.0 (1,574.0)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	範囲変更により遺跡外
202194	-	試掘調査	民間	宅地造成	北區 太田字下黒山 甲402番外	-	-	-	10/5	1	57.9 (1,613.7)	金田拓也	-	なし	縄文土器(混ざりこみ)	不要	
202196	-	試掘調査	公共 (市)	国道	中央区 横口	-	-	-	7/13	1	42.0 (973.0)	加藤学	渡邊裕司	なし	なし	不要	新潟県教育委員会による調査
202198	所島前遺跡 754	確認調査	民間	宅地造成	江津区 所島一丁目 乙160外	遺物包含地	縄文・古代・ 中世・近世	古代	10/13~14	2	61.4 (2,737.2)	金田拓也	-	なし	土師器(古代)	工事立会	
202199	日本南遺跡 391	確認調査	民間	売買	江津区 日本南一丁目 3番3外	遺物包含地	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	平安・中世	10/19	1	9.3 (156.4)	金田拓也	-	なし	縄文土器・石器(縄文) 土師器(弥生) 土師器・須恵器(平安)	継続協議	
202199	(中新田下遺跡) 823	試掘調査	民間	倉庫	西宮区 新築東三丁目 1022番1外	遺物包含地	平安	平安	1/25~27/ 12/21	4	143.7 (15,619.0)	金田拓也	-	土坑・溝・ 耕作関連遺構・ ピット(平安)	土師器・須恵器・石製品・ 鉄器関連遺物	工事立会	
202199	-	試掘調査	民間	宅地造成	江津区 長野一丁目 1022番1外	-	-	-	11/11	1	23.0 (2,924.1)	金田拓也	-	なし	近世陶磁器	不要	
202199	(近世新高町跡) 575	試掘調査	民間	美術館	中央区 吉岡字丸形町 1480番1外	港町跡	近世	近世	11/16~17	2	30.8 (29.5)	金田拓也	-	井戸・土坑・ 性格不明遺構・ ピット(近世から近代)	磁器・陶器・土師器土器・ 土製品・木製品 鉄製品(近世から近代)	不要	
202199	-	試掘調査	民間	病院	秋葉区 観音字菅中 1947番1外	-	-	-	11/1~4	3	123.5 (45,421.4)	金田拓也	-	なし	なし	不要	
202199	平道遺跡 128	確認調査	民間	単車	秋葉区 小川字平道 1111番1内	集落跡	縄文・弥生	-	11/19	1	3.0 (35.0)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事	
202199	竹尾遺跡 30	確認調査	民間	売買	東山区 新築七丁目 5207番外	遺物包含地	中世	-	11/25	1	5.4 (162.0)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事	
202199	-	試掘調査	民間	宅地造成	江津区 榎崎町四丁目 822番1外	-	-	-	11/30、12/1	2	34.2 (2,638.3)	金田拓也	-	溝・ピット(時期不明)	なし	不要	
202199	程島遺跡 168	確認調査	民間	売買	秋葉区 程島字橋 1433番3外	城館跡	縄文・平安・ 中世	不明	12/9	1	13.7 (265.0)	金田拓也	-	溝・ピット(時期不明)	なし	慎重工事	
202199	砂原前郷遺跡 421	確認調査	民間	個人住宅	江津区 砂山一丁目 353番2外	集落跡	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 近世	平安	12/7	1	8.4 (555.0)	金田拓也	-	なし	土師器・須恵器(平安)	工事立会	

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別 事業名	調査地 内容	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積)(㎡)	調査担当	調査員	検出土遺物	出土遺物	取扱い	備考	
																	調査地 内容
2021215	-	試掘調査	民間	宅地造成	-	-	-	12/14	1	34.3 (2,280.9)	練山えりか	-	なし	なし	不要		
2021216	古津八幡山遺跡 173	確認調査	公共 (市)	保存目的	秋葉区古津地内	集落跡	縄文・弥生・古墳・平安	6/28~11/24	99	1947	相田泰臣	-	方形掘溝墓、 竪穴住居、溝、土坑 ビッド、性格不明遺構	縄文土器、弥生土器、石器、 石製品、金属製品、瓦類	現状保存	史跡整備に係る確認調査	
2021218	大瀧遺跡 16	確認調査	民間	宅地造成	江南区 大瀧字天待浦 1218番2	集落跡	平安・中世	12/23・24	2	37.6 (1,787.0)	金田拓也	-	性格不明遺構(平安)	土師器・須恵器(平安)	工事立会		
2021219	上浦A遺跡 153	確認調査	公共 (県)	農業開墾 事業	秋葉区 北浦字川原町 300番2	遺物包含地	奈良・平安・ 中世	12/13~ 2022/3/3	10	326.5 (23,100.0)	牧野耕作	-	土坑・溝・水田・ ビッド・性格不明遺構 (古代) 溝・ビッド・ 性格不明遺構(中世)	土師器・須恵器・石製品・ 木製品・畿内系土器(古代) 青磁・木製品(中世)	継続協議		
2021220	三王山遺跡 419	確認調査	民間	個人住宅	江南区 所島一丁目 800番20	集落跡	平安・中世	2022/1/7	1	9.2 (208.5)	練山えりか	長谷川真志	溝・性格不明遺構・ ビッド	土師器(平安) 青磁(中世) 鉄滓・金属製品	継続協議		
2021221	萬石遺跡 813	確認調査	公共 (県)	ほ場整備	江南区 金屋字新田道 332番外	遺物包含地	弥生・古墳	古墳	10/9~11/28	23	926.6 (510,000.0)	練山えりか	長谷川真志	なし	土師器(古墳)	継続協議	2021186・2021247と同一の調査
2021222	(近世新潟町跡) 579	試掘調査	民間	集合住宅	東区 東堀前通二番町 368番外	港町跡	近世	近世	2022/1/26・27	2	31.3 (595.8)	練山えりか	-	溝・性格不明遺構・ ビッド(近世)	陶磁器・木製品・金属製品	不要	
2021224	砂原上ノ山遺跡 401	確認調査	民間	個人住宅	江南区 砂原一丁目 649番1	遺物包含地	奈良・平安	-	2022/1/14	1	6.8 (188.9)	練山えりか	-	なし	なし	慎重工事	
2021225	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 小戸上里字浄栄 332番外	-	-	2022/1/6・7	2	56.9 (2,822.2)	金田拓也	-	土坑・性格不明遺構・ ビッド(古墳)	土師器(古代)(混ざりこみ)	不要		
2021226	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 下早通一丁目 366番外	-	-	2022/1/18	1	21.6 (1,233.1)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2021227	-	試掘調査	民間	宅地造成	東区 中央ノ 355番外	-	-	2022/1/13	1	41.7 (4,697.4)	金田拓也	-	なし	なし	不要		
2021228	高矢心遺跡 135	確認調査	民間	集合住宅	秋葉区 古津字駒田 1825番外	遺物包含地	古墳・平安・ 中世	-	2022/1/20	1	14.3 (764.0)	牧野耕作	-	なし	なし	不要	
2021231	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 丸山字居村 532-1番外	-	-	2022/2/22	1	31.0 (1,283.0)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2021232	(下瀬西遺跡) 777	試掘調査	民間	集合住宅	江南区 横越川町西丁目 5281番外	遺物包含地	中世	中世	2022/1/24	1	15.0 (786.9)	練山えりか	-	小土坑(中世)	なし	慎重工事	
2021234	-	試掘調査	公共 (県)	国道	東区 下瀬集 804番地先	-	-	-	12/3	1	23.0 (400.0)	加藤宇	渡邊裕司	なし	なし	不要	新潟県教育委員会による調査
2021235	-	試掘調査	民間	倉庫	西蒲区 漆山字砂野 8228番外	-	-	2022/2/8・9	2	95.6 (27,725.3)	金田拓也	-	なし	土師器(古代か)(混ざりこみ)	不要		
2021236	-	試掘調査	民間	集合住宅	西蒲区 菅野字江向 175番外	-	-	2022/2/4	1	40.8 (141.8)	練山えりか	-	なし	なし	不要		
2021237	-	試掘調査	民間	ゴルフ場	北區 東安町 259番外	-	-	2022/2/15~18	3	135.0 (24,157.1)	練山えりか	-	なし	なし	不要		
2021240	-	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 駒山一丁目 1288番外	-	-	不明	2022/2/17	1	15.6 (837.9)	金田拓也	-	溝・ビッド(時期不明)	なし	不要	
2021244	舟戸遺跡 132	確認調査	民間	宅地造成	秋葉区 古津字駒田 1872番外	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	弥生・弥生・ 古墳 古代	2022/3/7・8	2	60.4 (1,224.0)	金田拓也	-	溝・ビッド(古代以前) ビッド(時期不明)	弥生土器(弥生) 土師器(古墳か) 土師器(古代) 木製品(古代以前)	慎重工事	範囲変更
2021247	(塚田遺跡) 824	確認調査	公共 (県)	ほ場整備	秋葉区 金屋字新田道 332番外	遺物包含地	平安	平安	10/9~11/28	23	926.6 (510,000.0)	練山えりか	長谷川真志	溝・性格不明遺構・ ビッド・自然露頭 (平安)	土師器(平安) 珠洲焼(中世)	継続協議	2021221・2021247と同一の調査 新発見
2021248	(宮尻郷遺跡) 366	試掘調査	公共 (県)	ほ場整備	江南区 横越川町西丁目 6042番1外	散布地	古墳・奈良・ 平安	古墳・古代	10/18~12/9	27	963.3 (1,040,000.0)	相澤裕子	溝(古代)	土師器(古墳) 土師器・石製品(古代)	継続協議	2021187・188・189・249・250と 同一の調査 範囲変更	
2021249	(居附A南遺跡) 825	試掘調査	公共 (県)	ほ場整備	江南区 横越川町西丁目 6042番1外	遺物包含地	平安	平安	10/18~12/9	27	963.3 (1,040,000.0)	相澤裕子	小土坑(平安)	土師器・須恵器(平安)	継続協議	2021187・188・189・248・249と 同一の調査 新発見	
2021250	(宮尻郷南遺跡) 826	試掘調査	公共 (県)	ほ場整備	江南区 横越川町西丁目 6042番1外	遺物包含地	平安	平安	10/18~12/9	27	963.3 (1,040,000.0)	相澤裕子	なし	土師器・木製品(平安)	継続協議	2021187・188・189・248・249と 同一の調査 新発見	

と比較すると試掘調査が14件の減、確認調査が4件の増となっている。公共事業に伴う試掘調査では道路・ほ場整備事業が多い。民間事業に伴う試掘調査は宅地造成や店舗建設が多い。道路建設やほ場整備事業など事業規模(調査対象面積)が大規模なものは調査期間も長期に及ぶ場合もある。調査ごとに事業種別や調査の規模、立地環境などがそれぞれ異なるため、調査方法にも工夫が求められる。

地域別では、秋葉区・江南区での調査が多くなっている。遺跡数が多いだけでなく、両区は公共事業・民間事業ともに他の区より多いためである。

今年度新しく発見された遺跡は、^{かたはし}濁端遺跡・^{なかしんでんみち}中新田道下遺跡・^{つかだ}塚田遺跡(秋葉区)・^{かめだみちした}亀田道下北遺跡・^{こぼんだ}五番田遺跡・^{みやじりこうみなみ}宮尻郷南遺跡・^{いつけ}居附A南遺跡(江南区)の計7遺跡である。亀田道下北遺跡、中新田道下遺跡は民間事業に伴う試掘調査で発見された遺跡で、他はほ場整備や道路事業に伴う試掘調査で発見された。

開発事業における新潟市の特徴 本市の田耕地面積は約28,500ha、畑耕地面積約4,740haで、田畑の面積は市域の半分を占める。ほ場整備や農業用水路等の農業関連工事が広域に行われるといったことが本市の特徴である。また、新規の道路や民間の大規模開発なども農地であった場所で計画されることが多いことも本市の特徴と言える。

(3) 工事立会

概要 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、『法』第93条の届出に対する指示として、同第94条の通知に対する取扱い勧告として事業者へ通知する。原則として事前の試掘・確認調査結果や周辺調査履歴を精査し、遺跡の内容を十分把握したうえで、『埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について(通知)』(平成10年9月29日付庁保記第75号庁保記第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知、以下『文化庁標準』)及び『発掘調査の要否等の判断基準』(平成11年9月10日付教文第578号、以下『新潟県基準』)に従って実施している。具体的には、以下のとおりの判断基準で実施している。

- ・土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小(『新潟県基準』により原則として掘削幅1m以下)であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの。
- ・掘削が遺物包含層等に及ばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計どおりであるか立会によって確認する必要がある場合、等である。

工事立会となった場合、事業者は工事日程が決まり次第、当課へ連絡する必要がある。新潟市の埋蔵文化財担当の専門職員は、工事の日程に合わせて現場を訪れるこ

となる。

特に長期間にわたる大規模な工事の場合は、現地立会職員の負担が大きくなるため、事業者の協力を得て、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、保護施策の意義を理解してもらうことができ、工程の一部変更等の早期連絡体制が強化されてきている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。

近年の課題は、ほ場整備等に伴う工事立会期間の長期化である。市職員の人数に限られる中、特に3月下旬の工事立会是对応に困難な場合が生じている。また作業員を委託するなど経費も相当にかかっている。

一方で、工事立会の指示などを失念し、事後連絡してくる例は年々減少してきている。事業者の理解と協力が欠かせないので、今後も丁寧な説明を心掛けていく必要がある。

令和3年度 表3・6のとおり63件の工事立会を行った。令和2年度の57件から6件の増である。西蒲区のほ場整備に伴う工事立会は長期間対応が必要となっている。

(朝岡政康)



確認調査風景 (木崎柳原遺跡 2021120)



工事立会風景 (茶院A遺跡 2021223)

表6 令和3年度工事立会一覧 (調査番号順)

調査番号	遺跡名 遺跡番号	開発種別		所在区	調査期間	調査担当	調査員	検出 遺構	出土 遺物
		事業者	内容						
202101	狭ヶ所堀A遺跡 15	民間	個人住宅 解体	東区	4/15	金田拓也	-	×	×
202102	川上甲遺跡 192	民間	集合住宅	秋葉区	6/7-10	鎌山えりか	-	×	○
202104	結七島遺跡 209	公共 (外)	電話柱	江南区	9/9	鎌山えりか	-	×	×
202105	下郷南遺跡 758	公共 (外)	電話柱	江南区	5/25	鎌山えりか	-	×	×
202106	正尺A遺跡 291	公共 (外)	電話柱	北区	-	-	-	-	-
202107	結七島遺跡 209	公共 (外)	電話柱	秋葉区	-	-	-	-	-
202108	上向遺跡 541	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	4/16	鎌山えりか	-	×	×
202109	鎌山上田遺跡 750	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	4/16	鎌山えりか	-	×	×
202110	高瀬遺跡 623	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	4/16	鎌山えりか	-	×	×
202111	狐島遺跡 792	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	2022/2/14-16, 6/6	鎌山えりか	-	×	×
202112	飛騨遺跡 811	民間	福祉施設	西蒲区	5/18	鎌山えりか	-	×	×
202113	居前遺跡 17	民間	個人住宅	東区	6/28	鎌山えりか	-	×	×
202115	八幡前遺跡 415	民間	農舎	江南区	5/1	鎌山えりか	-	×	×
202116	一心作遺跡 818	民間	店舗	西蒲区	4/28・30, 5/24	鎌山えりか	-	×	×
202122	赤錦砂山遺跡 778	民間	店舗	西蒲区	4/26	鎌山えりか	-	×	×
202124	堀屋敷遺跡 563	公共 (外)	電話柱	西蒲区	7/7	鎌山えりか	-	×	×
202125	木所居館跡 84	民間	個人住宅	東区	8/24	鎌山えりか	-	×	×
202130	前山遺跡 11	公共 (市)	上水道	江南区	6/16-18	鎌山えりか	-	×	×
202131	味方用水路遺跡 512	民間	ガス管	南区	7/12	鎌山えりか	-	×	×
202133	三上山遺跡 419	民間	排水管	江南区	5/29	鎌山えりか	-	×	×
202135	砂洲前遺跡 421	民間	農舎	江南区	6/25, 7/2	鎌山えりか	-	×	×
202139	千日遺跡 522	公共 (限)	ほ場整備	南区	12/8・24	鎌山えりか	-	×	×
202141	馬場上組遺跡 806	民間	ガス	西蒲区	8/16	金田拓也	-	×	×
202142	横川浜(海外)遺跡 248	公共 (限)	橋	秋葉区	7/16, 9/14・15・20・21	鎌山えりか	-	×	×
202143	赤錦砂山遺跡 778	民間	看板	西蒲区	9/22	鎌山えりか	-	×	×
202146	宅地遺跡 785	公共 (市)	下水道	江南区	8/17, 9/14-17	鎌山えりか	-	×	×
202147	法花鳥居D遺跡 309	公共 (市)	水道	北区	9/27	鎌山えりか	-	×	×
202151	三上山遺跡 419	民間	個人住宅	江南区	8/17	鎌山えりか	-	×	×
202152	狭ヶ所堀A遺跡 15	民間	個人住宅	東区	9/13	鎌山えりか	-	×	×
202153	坊主田遺跡 606	公共 (市)	道路	西蒲区	2022/1/27・28・31, 2/1・9	鎌山えりか	-	×	○
202154	地蔵腰遺跡 632	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	11/16, 2022/2/7・8	鎌山えりか	-	×	×
202156	法花鳥居B遺跡 307	民間	宅地造成	北区	8/2・4	鎌山えりか	-	×	×
202158	結七島遺跡 209	民間	水道	秋葉区	8/6	鎌山えりか	-	×	×
202159	榎立日遺跡 115	民間	集合住宅	西区	2022/1/26・27	鎌山えりか	-	×	×
202160	原遺跡 126	民間	水道	秋葉区	8/17	金田拓也	-	×	○
202162	砂洲前遺跡 421	民間	農業用水路	江南区	12/13	鎌山えりか	-	×	×
202165	曾我墓所遺跡 379	公共 (限)	農業用水路	江南区	10/11・22・25・26	鎌山えりか	-	×	×
202168	道正遺跡 795	民間	農業用水路	江南区	2022/2/4・5・7・8・14-16・18・21	鎌山えりか	-	×	×
202169	岡崎遺跡 794	民間	用水路	江南区	9/14・24・25	鎌山えりか	-	×	×
202170	結七島遺跡 209	民間	下水道	江南区	9/10	鎌山えりか	-	×	×
202171	亀田道下北遺跡 822	民間	病院	江南区	7/29・30, 10/1・2, 12/6・8・16, 2022/1/14	鎌山えりか	-	○	○
202172	塚ノ山遺跡 407	民間	個人住宅	江南区	8/30, 9/14	鎌山えりか	-	×	×
202173	真木江向遺跡 801	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	10/11・22	鎌山えりか	-	×	×
202174	竹尾遺跡 30	民間	個人住宅	東区	10/15	鎌山えりか	-	×	×
202190	山崎遺跡 127	民間	農舎	秋葉区	11/26	鎌山えりか	-	×	×
202191	法花鳥居D遺跡 307	民間	個人住宅	北区	10/8	鎌山えりか	-	×	×
202192	大沢谷内遺跡 342	公共 (市)	農業排水路	秋葉区	11/17-20・22, 12/3・6・7・9・10・14	鎌山えりか	-	×	×
202195	川口甲遺跡 192	民間	電柱	秋葉区	10/28・29	鎌山えりか	-	×	×
202199	茶院A遺跡 543	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	10/4-6, 11/9・10・16・19・20・29・30, 12/1・3・6-10・14-16・20・22-24, 2022/1/5-7・11・13-15・17-21・24-29, 2/1-5・7・8・21・22・24・25, 3/1・3・7-10, 4/18, 5/16・17・24	鎌山えりか	-	○	○
2021203	中新田久保遺跡 208	民間	個人住宅	秋葉区	11/11	鎌山えりか	-	×	×
2021206	海潮遺跡 234	民間	個人住宅	南区	2022/3/4	鎌山えりか	-	×	×
2021207	神岡上町遺跡 731	公共 (外)	電話柱	西蒲区	11/5	鎌山えりか	-	×	×
2021209	白山公園 (名勝)	公共 (市)	整備	中央区	11/4・5	朝岡政康	-	×	×
2021217	日本街遺跡 391	民間	個人住宅	江南区	12/27	鎌山えりか	-	×	×
2021223	茶院A遺跡 543	公共 (限)	ほ場整備	西蒲区	2022/2/7-9	鎌山えりか	-	×	×
2021229	近世新町跡 575-9	民間	電柱	中央区	2022/3/7・14	金田拓也	-	×	×
2021230	砂洲前遺跡 421	民間	個人住宅	江南区	2022/2/10	鎌山えりか	-	×	×
2021238	岡崎南遺跡 800	民間	土地区画整理	江南区	2022/1/18・20・21	鎌山えりか	-	×	×
2021239	下郷中遺跡 239	民間	電柱	江南区	2022/2/9	鎌山えりか	-	×	×
2021241	岡崎遺跡 794	民間	土地区画整理	江南区	2022/2/16	鎌山えりか	-	×	×
2021242	旧齋藤氏別邸(名勝)	公共 (市)	整備	中央区	2022/2/2・8・14・16・22	長谷川真志	朝岡政康	×	×
2021243	白山公園 (名勝)	公共 (市)	整備	中央区	2022/2/28	長谷川真志	-	×	×
2021246	草水町1丁目跡 194	民間	個人住宅	秋葉区	2022/3/22	鎌山えりか	-	×	×

Ⅲ 文化財センターの事業

1 本発掘調査の概要

(1) 本発掘調査について

埋蔵文化財包蔵地は法により保護の対象となっている。現状のまま保存され、後世に継承されることが望ましいが、工事によって掘削されるなど、現状保存が不可能な場合は、記録による保存を目的とした発掘調査が必要となる。これを本発掘調査と呼んでいる。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。

新潟市では、『法』第94条の通知については、事前に試掘・確認調査を実施して遺跡の内容などを把握し、文化庁の示した標準（『文化庁標準』）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（『新潟県基準』）に則して取り扱い意見を付して県教育委員会へ副申している。

一方、『法』第93条の届出については、『新潟県基準』とこれを参考に新潟市が定めた『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に則して取り扱いを決定し、届出者へ通知している。

本発掘調査が必要な場合は、最小限の規模を目指して開発事業者などと遺跡の取扱いについて協議しているが、公共事業では各種法令に基づき設計されていることから、設計変更し遺跡の現状保存を図ることが困難な場合が多い。民間事業でも大規模な設計変更はできないのが現状である。

本発掘調査実施にあたっては、『法』第99条により、新潟市教育委員会が直営体制で実施している。

新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行しており、歴史文化課埋蔵文化財担当が本発掘調査について事業者との全体協議を担当し、文化財センターが本発掘調査を担当している。しかし、調査の件数・規模に

対し、現体制では調査担当（正）及び調査員（副）となる市職員は人数が限られている。また、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も進める必要があるため、正副職員体制で本発掘調査を行うことが困難となっている。このため、民間調査組織を導入し、調査員として調査業務の一端を担ってもらっている。調査担当は、本発掘調査全体管理のほか民間調査組織の監理も求められることから、負担が大きくなっている。（朝岡政康）

(2) 令和3年度の本発掘調査

江南区の2遺跡で本発掘調査を実施した（表1）。いずれも新潟中央環状線建設にかかる調査である。

道正遺跡は、道路本線部分について令和元年度に上層の平安時代（第2次）、令和2年度には下層の古墳時代・縄文時代（第3次）の調査を行っている。第2・3次調査の結果、道路本線南側側道部に遺跡の広がり確認されたことから、調査区を拡張して引き続き実施したものである。調査面積は240㎡×3面で720.0㎡である。

岡崎遺跡は道正遺跡に隣接し、平安時代を主体とする。新潟中央環状線建設にかかる用水路移設に伴い165.0㎡を調査した。

(3) 令和3年度の本発掘調査現地説明会

令和3年度は、道正遺跡において本発掘調査に伴う現地説明会を開催した（表2）。151名の参加があり、水田下に埋没した遺跡の様子を多くの人に見ていただくことができた。なお、岡崎遺跡については、面積が狭小であるため、現地説明会は行わなかった。（遠藤恭雄）

表2 令和3年度本発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数（人）
2021/6/12（土）	道正遺跡	151

表1 令和3年度新潟市本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査回数 (次)	発掘調査 面積（㎡）	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘 調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物	位置番号 (図1)
2021001	道正遺跡 795	4	720.0	江南区 割野字道正 2962外	道路整備 (公共事業)	高橋保雄	遠藤恭雄 山崎一貴	4/1～ 6/25	縄文(晩期) 古墳(前期) 古代(平安)	堅穴建物・土坑・ 溝状遺構・ピット (古墳) 掘立柱建物・ 土坑・溝状遺構・ 性格不明遺構・ ピット(古代)	縄文土器・石器・ 石製品(縄文) 土師器(古墳) 土師器・須恵器・ 土製品・石製品・ 木製品(古代)	1
2021002	岡崎遺跡 794	5	165.0	江南区 割野2741-1外	道路整備に 伴う 用水路移設 (公共事業)	遠藤恭雄	山崎一貴	12/6～ 12/28	縄文(後期) 弥生(中期) 古代(平安)	土坑・ピット(古代) 土坑(時期不明)	縄文土器・石器・ 石製品(縄文) 弥生土器(弥生) 土師器・須恵器・ 土製品・石製品(古代)	2

2 令和3年度の本発掘調査

令和3年度に本発掘調査を行った遺跡は2遺跡（道正遺跡・岡崎遺跡）である。調査概要を調査番号順に次項よ

り記す。

なお、概要掲載遺跡の位置を図1、一覧を7ページ表1に示した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。（遠藤恭雄）

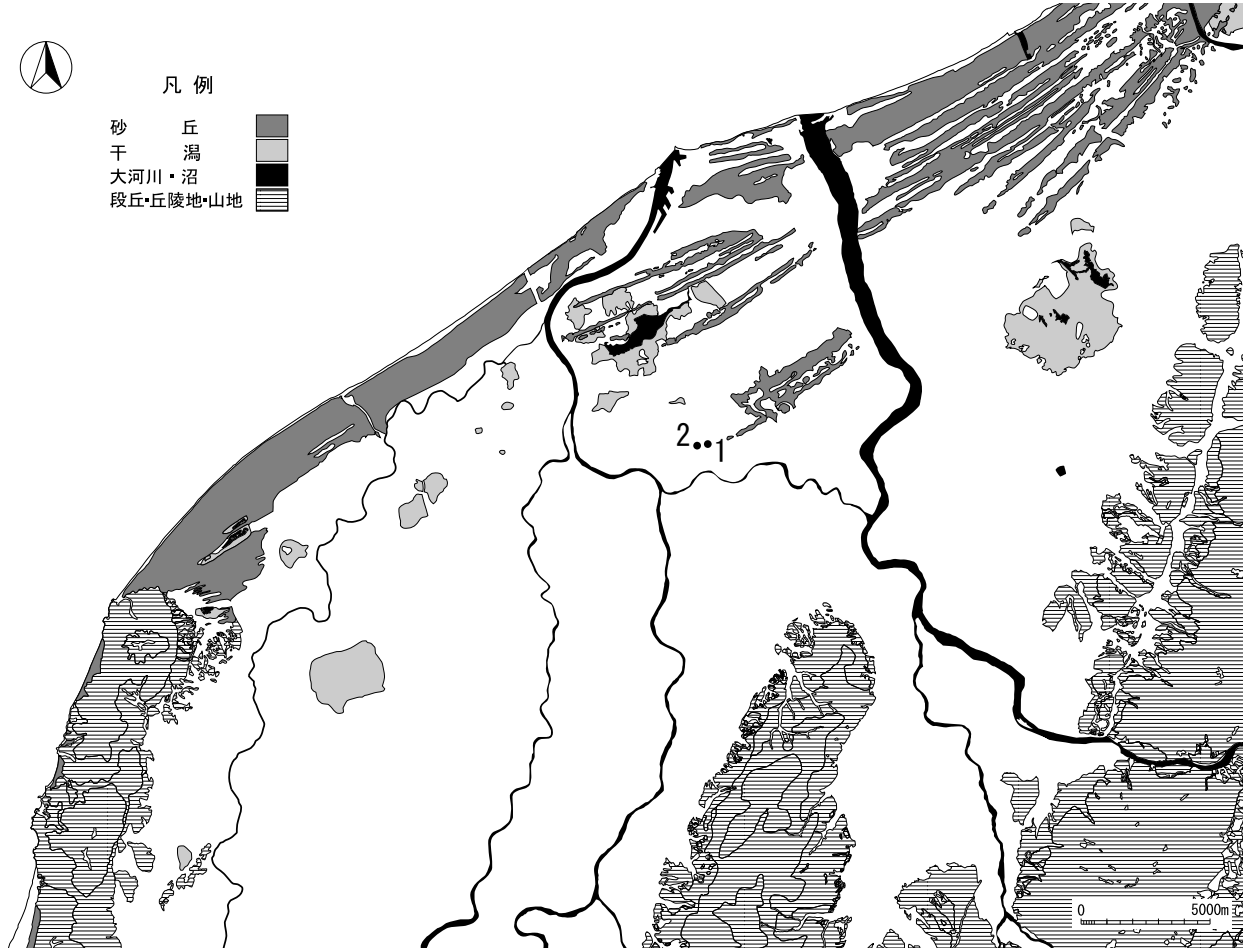


図1 令和3年度本発掘調査位置図 (1/300,000)



現地説明会の様子（道正遺跡第4次調査）

(1) 道正遺跡 第4次調査 (2021001)

所在地 新潟市江南区割野字道正2962外
調査の原因 主要地方道新潟中央環状線道路改良工事
(公共事業)
調査期間 令和3年4月1日～6月25日
調査面積 720.0㎡
調査担当 高橋保雄
調査員 遠藤恭雄・山嵜一貴
処置 記録保存

調査に至る経緯 主要地方道新潟中央環状線道路改良工事に先立ち平成30・令和元(2018・2019)年度に行った試掘調査で新たに発見された縄文時代から平安時代に至る遺跡である。発掘調査は令和元・2年度に道路本線部分を対象に実施した。3年目の本年度は、側道部分が対象となり、令和3年4月1日付で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した。

位置と環境 遺跡の周辺は、東に阿賀野川、西に信濃川、南に小阿賀野川が流れる沖積地であり、付近一帯は標高1m前後の水田地帯である。調査地内で見つかった埋没砂丘は、その立地から北東方向に連なる亀田砂丘前列(新砂丘I-2、形成年代約6,900～6,600年前)の延長線上に位置する砂丘列の一部である。

層序 基本層序はI層が客土(盛土層)、II層が旧耕作土、III層が水田床土、IV層が灰色シルト層で河川の洪水堆積層、V層がシルト層と未分解植物層の互層で最下層の黒灰色シルト層が平安時代の遺物包含層、VIa層が黄灰色シルト層で上部が平安時代、下部が古墳時代の遺物包含層である。平安時代の遺構確認面はVIa層中である。VIb層は砂丘縁辺部から周辺の低地に広がる黄灰褐色腐植土層である。VIc層は褐灰色砂質シルト～シルト質砂で、上部(VIc1層)が古墳時代、下部(VIc2層)が縄文時代の遺物包含層である。古墳時代の遺構確認面はVIc層中である。VIIa層は植物の腐植に由来する黒色砂で上部が縄文時代の遺物包含層及び遺構確認面である。

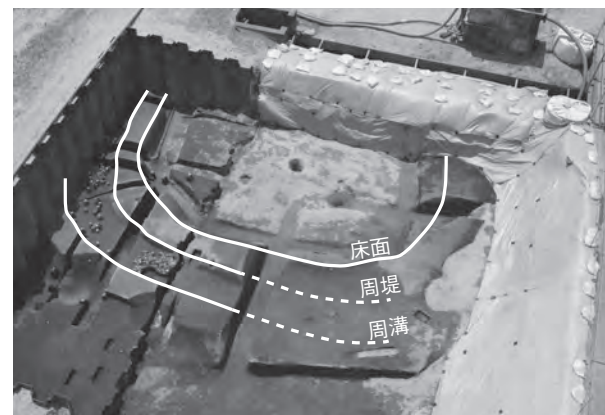
検出遺構 縄文時代晩期：確認できなかった。古墳時代前期：竪穴建物1棟、土坑10基、溝4条、ピット47基などが見つかった。竪穴建物は昨年度からの継続調査で、一辺8.6m(推定面積73.96㎡)を測る大型である。床面は黒色シルト質砂で整地され、壁外には周堤(盛土)、周溝(溝)が巡る。また床堀方は中央部が高く壁際に向かって低くなるという湿気に配慮した構造を持つものと思われる。炉は確認できなかった。平安時代：掘立柱建物2棟、土坑3基、溝8条、ピット114基などが見られた。掘立柱建物は昨年度の調査区から続くもので、すべて総柱建物で、これまで見つかったものと合わせ倉庫群



図2 道正遺跡第4次調査位置図(1/5,000)



調査地全景(西から)



古墳時代前期の大型竪穴建物(東から)

を形成したものである。またすべて北西方向に主軸を揃えたもので、冬の季節風を意識したものと考えられる。

出土遺物 遺物はコンテナにして90箱出土した。約6割以上が古墳時代前期、約2割が平安時代、ほかは縄文時代晩期中葉である。昨年度と同様に充実した資料になる。希少品では古墳時代前期の管玉が2点出土している。

まとめ 縄文時代晩期中葉、古墳時代前期、平安時代(9世紀後半)の時期が限定されたまとまりのある遺構と遺物はこの地域の基準資料になりえるものである。また砂丘の先端部に立地した遺跡の性格を考えると重要である。(高橋保雄)

(2) 岡崎遺跡 第5次調査 (2021002)

所在地 新潟市江南区割野2741-1外
 調査の原因 主要地方道新潟中央環状線新設に伴う
 用水路工事（公共事業）
 調査期間 令和3年12月6日～12月28日
 調査面積 165.0㎡
 調査担当 遠藤恭雄
 調査員 山嵯一貴
 処置 記録保存

調査に至る経緯 岡崎遺跡は、平成30年主要地方道新潟中央環状線（嘉瀬・割野地区）道路改良工事に伴う試掘調査（2018128・新歴B第26号）で新たに発見され、地下に埋没した砂丘上に立地する古墳時代・平安時代の複合遺跡とされた。令和2年2月12日から13日にかけて行われた主要地方道新潟中央環状線（割野地区）に伴う現道部内への用水路切り回し工事に伴う確認調査（2019211）により調査地北側に遺跡範囲が拡大することが確認された。事業者側との協議の結果、用水路工事の掘削深度が遺跡に影響を及ぼすため、令和3年11月26日付け新歴B第112号の7で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した。

位置と環境 岡崎遺跡は亀田砂丘西端部の先の沖積地に立地する。道路を挟んで東側には道正遺跡が存在する。標高は約-2.1～0.5mである。また、南側には平成30年度土地地区画整理事業に伴う試掘調査（2018236）で新たに発見された岡崎南遺跡が存在する。

概要と層序 主要地方道新潟中央環状線新設工事に先立ち令和2年度に本発掘調査（第4次調査）を実施し、埋没砂丘北側の頂部から低湿地に至る斜面を検出した。今年度の調査地は第4次調査地の東側に隣接する、中央環状線道路新設に伴う用水路移設工事部分の幅3m、延長約60mの区間を対象とした。原因者側の事前工事で鋼矢板の打設及び遺跡に影響のない深度までの掘削を実施したのち調査に着手した。

調査区中央やや南東寄りの地点で埋没砂丘北側の頂部及び斜面と湿地が検出された。南側では砂丘基盤層が露出し、砂丘頂部は削平されていた。

基本層序は、連続した層序の観察ができなかったため、第4次調査の成果を準用する。I層が水田耕作土及び床土、II層・IV層が河川堆積層、III層が薄い腐植土層、Va層が複数の洪水堆積層と薄い腐植土層、Vb層が厚い腐植土層、Vc層が平安時代の遺物包含層である。VI層は古墳時代以前の遺物包含層、VIa層が洪水堆積層で平安時代の遺構確認面、VIb層が腐植土層と洪水層の互層、VIc層がシルト質黒色砂、VII層は砂丘表層の黒色砂



図3 岡崎遺跡第5次調査位置図 (1/5,000)



調査区全景 (北西から)

で縄文時代の遺構確認面、VIII層が黄褐色砂層で砂丘基盤層である。

検出遺構 平安時代・時期不明の遺構を計3基検出した。平安時代：VIa層上面で土坑1基、ピット1基。時期不明：VIII層上面で土坑1基を検出した。

出土遺物 平安時代を主体に縄文時代・弥生時代・古墳時代の遺物が出土した。平安時代の土師器、黒色土器、須恵器が主体である。これらは砂丘斜面から縁辺部のVc層から出土しており、第4次調査などで確認された砂丘頂部からの廃棄・流れ込みと思われる。須恵器の多くは佐渡小泊窯跡群産と推定され、9世紀後半に所属する。VII層では、縄文時代後期・晩期の土器及び石器が少量出土した。

まとめ 今回の発掘調査により、第4次調査区で検出された埋没砂丘の北側斜面の一部が改めて確認されたほか、IV・V層を切る形で旧流路（NR1）も検出された。これまでの試掘・確認調査及び第4次調査の所見と合わせ、今回の調査地点が遺跡範囲の北端及び東端と推定される。報告書は道正遺跡第2～4次調査、岡崎遺跡第4次調査の内容と合わせて、令和5年度に刊行予定である。

(山嵯一貴)

3 整理作業の概要

令和3年度に文化財センターが実施した本発掘調査などの整理作業の一覧を、調査番号順に表3に示した。

(1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の整理・再整理事業

試掘・確認調査、工事立会は、基本的に歴史文化課埋蔵文化財担当で実施し、出土遺物は調査担当の指示により文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

令和2年度に引き続き、県営ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査の対象面積が広大なため、一部調査は文化財センター職員が担当した。調査結果の概要は調査担当が県教育委員会に報告しているが、報告書の形では公開していない（年報6号までは主要な遺跡について概要や出土遺物などを記載していたが、整理に要する時間の都合などからその後は割愛している）。

令和3年度は、令和2年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物の整理を行い、44調査分、コンテナ11箱を収蔵した（古津八幡山遺跡確認調査を除く）。報告書刊行済みの掲載遺物は、コンテナへの再収納と各種台帳の内容確認及び修正作業・未入力項目の入力などを行った。

(2) 整理作業

整理作業の概要 表3に示したとおり、6遺跡の本発

掘調査について基礎整理作業・報告書作成作業を行った。

曾我墓所遺跡の整理作業 曾我墓所遺跡は江南区横越に位置し、雨水調整池新設工事に伴う本発掘調査が令和元・2年度に実施されている〔澤野2021・龍田2022〕。2か年に及ぶ現地調査とその後の整理作業によって、遺跡の様相が徐々に明らかになってきている。

本発掘調査では、複数の掘立柱建物・堅穴建物・土坑のほか、丸木舟を井戸側に転用した井戸などが検出された。また、8世紀後半に位置付けられる古代土器を中心に、非常に多くの遺物が出土した。錫杖や鉄鐸、須恵器環状瓶、鳥形製品など類例の少ない遺物がまとまって出土するなど、祭祀的な利用が窺える。

調査成果については一冊の報告書にまとめて刊行する予定である。令和3年度は、須恵器大甕をはじめとした遺物の接合・復元、実測作業のほか、遺構・遺物・写真図版の作成、報告書原稿執筆業務を行った。また、新潟県工業技術総合研究所下越技術支援センターで、一部の金属製品、須恵器環状瓶、鳥形製品などのX線CT撮影も行った。出土金属製品は文化財センターでもX線撮影を行っているが、X線CT撮影では錆を透過した状態の3D画像を作成できる。本来の形状や内部の劣化状況、製作技法などをより詳細に観察でき、貴重な知見を得ることができた。（西山美那）

表3 令和3年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
程島館跡	7・9	2017006・2018002	個人住宅建設	龍田優子・相澤裕子	報告書作成
原遺跡	10・11	2018003・2020004	個人住宅建設	立木宏明・遠藤恭雄	報告書作成
曾我墓所遺跡	2・3	2019001・2020003	雨水調整池整備	龍田優子・西山美那 中川晃子・高柳俊輔（(株)吉田建設）	基礎整理・報告書作成
道正遺跡	2・3・4	2019002 2020001 2021001	道路整備	高橋保雄 金内元・櫻井和哉（(株)ノガミ）	基礎整理・報告書作成
岡崎遺跡	4・5	2020002・2021002	道路整備	奈良佳子 櫻井和哉（(株)ノガミ）	基礎整理・報告書作成
平遺跡	9	2020005	個人住宅建設	前山精明	報告書作成
試掘調査・確認調査・工事立会 本発掘調査再整理事業	-	-	各種事業	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成・ 遺物修復

表4 令和3年度刊行発掘調査報告書等一覧

書名	発行年月日	執筆者
令和3年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集	2022年3月25日	相田泰臣・平山千尋・八藤後智人（編集）

4 資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014a〕。

(1) 収蔵方針

文化財センターは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。

また、文化財センター開館前の平成22年以前の発掘調査によらない考古資料は、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫はⅢ4(6)に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器など温湿度変化の影響を受けにくい資料を収蔵している。令和4年3月末時点でコンテナ・段ボール箱12,886箱収蔵されている。なお、年報第9号では12,074箱と記載しているが、12,564箱の誤りであり訂正する。

特別収蔵庫1・2 保存処理が完了した木製品や金属製品などを収蔵している。令和4年3月末時点で特別収蔵庫1にコンテナ1,098箱（木製品）、特別収蔵庫2にコンテナ189箱（金属製品95箱、骨・骨製品94箱）収蔵されている。特別収蔵庫1では55箱増加、特別収蔵庫2では4箱減少した。特別収蔵庫2では箱数が減少しているが、収蔵スペース確保のため小形品についてはコンテナから引き出し収納へ移行したためである。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・測量成果簿、CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

図書室 Ⅲ6(6)に記載した。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内におけるすべての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、そのほかに工事立会を含む）に対して年度ごとに調査番号（7桁）を付けている。

(4) 再整理作業

過去の調査資料について、令和3年度も継続して台帳整備などの作業を行っている。また、報告書刊行済みの資料は、細池寺道上遺跡を中心に約200箱について収蔵作業を行った。このほかに接着剤や充填材の経年劣化による破損が認められるものについて適宜修復をした。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺物・遺構に関しては台帳を作成し、図面や写真などの記録類はデジタル化されている。

発掘調査図面は、ほとんどが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にPDFデータを作成している。しかしながら、PDFデータの形態が不統一であり、職員以外の外部執筆者からインターネット公開の許諾をとっていなかったため市ホームページや全国遺跡報告総覧での公開に至っていなかった。そこで、直近に刊行した64冊（3分冊は3冊としてカウント）を業者に委託し、公開に適したPDFデータに統合した。令和4年3月末時点でインターネット公開の承諾を得られたもの117冊を市ホームページと全国遺跡報告総覧で公開している。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。（相澤裕子）



埋蔵文化財収蔵庫



特別収蔵庫1（木製品）

(6) 民俗資料等

民俗資料収蔵庫には、旧黒埼町で使用され保管されてきた農具・漁労具・生活用具等の民具が収蔵されている。平成23年の開館以来、民俗資料に関しては整理作業がほぼ手つかずのままであったが、平成29年10月より本格的に再整理作業を開始した。

民俗資料収蔵庫内を11のブロックに分け、ブロックごとに所在確認や、旧黒埼町時代に作成された台帳との照合作業を進めている。台帳に掲載されている整理番号の重複や、実物の所在が確認できないもの、添付されている写真と実物との相違など、今後解決しなければならない諸問題が明らかになっている。当センターの令和3年度における民具の収蔵数は台帳に記入が確認できる範囲で2,123件であり、未整理分も含めると約3,000件になる。令和4年3月時点で、1,312件の所在確認と台帳の照合作業が終了した。これとは別に、作業の過程で台帳に掲載されていない民具が542件あることも判明している。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。文化財センターの民具も20件所蔵されている。(久住直史)



民俗資料収蔵庫

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、平成27年6月1日から『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

システムの機能としては、GIS機能とデータベース機能から成る。前者は、遺跡・史跡・発掘調査・開発事前審査などの範囲や旧地形図等を地図上に表示するものである。後者は、遺跡内容・調査結果・開発事前審査での回答内容などの各種記録をGIS情報と紐付けて登録・編集・閲覧できるものである。図面や文書などの電子データの添付機能や図書管理機能も含まれる。

開発事前審査など事業者からの問い合わせでは、対象地周辺の遺跡の有無や調査履歴を迅速に確認する際に必要不可欠なツールとなっている。また、遺跡範囲や発掘調査履歴など頻繁に更新されるデータを、歴史文化課と文化財センター間で情報共有する際に、紙媒体に比べ効率的である。6万件を超える蔵書の検索・管理にも活用されている(Ⅲ6(7)を参照)。

遺跡の所在など一部のデータは、市民向けに公開されている新潟市のe-mapに反映されている。(長谷川真志)



民俗資料収蔵庫

全国遺跡報告総覧(奈良文化財研究所)での公開例

掲載された報告書のうち、著作権者に許諾を得たものは閲覧とダウンロードが可能。

『新潟市文化財センター年報 第1号』2013年



『駒首湯遺跡第3・4次発掘調査』2009年



※リンク先ページの閲覧及びデータのダウンロードには、ご利用端末のデータ通信を利用します。

5 資料の公開・展示

(1) 展示概要

『新潟市文化財センター条例』の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針及び概要については、『年報』第1号に記載している〔渡邊2014b〕。

平成26年度から文化財センター企画展を開催し、令和3年度で8年目を迎えた。内容については、市内の遺跡について時代や地域に偏りがないようテーマを選ぶ。

今年度は、全市域の低湿地に立地する遺跡を紹介する企画展1、報告書刊行がすべて終了し再整理を行っている細池寺道上遺跡の古代の成果についての企画展2、文化財センターが開館10年を迎えたことから10年を振り返る企画展3を行った(表5)。なお、経費の50%について国の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

展示室1 導入展示室兼展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器、縄文時代から近世の木製品を、壁一面に展示している。また、平面ケースにて緒立遺跡出土の網代や市内出土の木簡レプリカ104点、近世新潟町出土の陶磁器を展示している。御井戸遺跡の大形木柱4点も導入展示室での展示である。令和3年度は展示の変更を行わなかった。

展示室2 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。「新潟市文化財センターの活動」の一角には平成28年度より「日本遺産関連展示」コーナーを設置し、日本遺産「なんだこれは！信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」について紹介している。「秋葉遺跡」では王冠型土器と火焰型土器片を展示し、「大沢谷内遺跡」では縄文時代のアスファルト利用の資料を通年展示している。展示室中央の企画展示コーナー

では3回の企画展を開催した。各展示詳細についてはIII 5(2)~(4)に記載する。

エントランス エントランスでは、須恵器大甕・旧小澤家住宅出土の肥前系陶器大甕などの大形土器や速報性のある出土品を展示している。令和3年度中に展示変更は無かった。

館外展示 令和3年度は館外展示を行わなかった。

まとめ 来館者アンケートからいくつか紹介する。「常設展示の映像内で使用されている言葉が専門的すぎて難しかった」「展示が隙間なく並べられていてごちゃついた印象。遺物のそばに解説が欲しい」「何回も来ているが展示解説シートがあることに(今回)初めて気が付いた。もう少し位置に工夫を」「遺物をつなぎ合わせる作業場を見学できるといい」「(武田家住宅に)横田切れの展示があるかと期待したが、無くて残念」等、具体的な改善を要望する声が寄せられた。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当館では令和3年9月3日から9月16日までを臨時休館とした。なお、感染症対策として、アルコール消毒液の設置、展示室空調の外気取り入れ機能を開館時間中常時稼働し換気を行う、展示室の入場上限人数の設定を行った。

(今井さやか)



エントランスでの展示説明

表5 令和3年度文化財センター企画展一覧

企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			
				演目	年月日	講師	参加者数(人)
地下2メートルの考古学	2021/4/20(火)～9/5(日)	今井さやか	3,466	新潟県内の低湿地遺跡と遺跡の総合理解へのアプローチ	2021/5/16(日)	荒川隆史氏(新潟県埋蔵文化財調査事業団)	50(オンライン含む)
細池寺道上遺跡からさぐる能代川流域の古代	2021/9/17(金)～12/19(日)	奈良佳子 相澤裕子 今井さやか	2,251	やきものから考える古代の新津丘陵周辺	2021/11/7(日)	奈良佳子	39(オンライン含む)
開館10周年 文化財センターの10年と発掘調査史	2022/1/8(土)～2022/3/27(日)	相澤裕子 今井さやか	1,015	小さな発見から大きな成果へー市内の縄文遺跡からー	2022/1/16(日)	寺崎裕助氏(前新潟県考古学会会長)	49(オンライン含む)

(2) 企画展1 「地下2メートルの考古学」

会 期 令和3年4月20日(火)～9月5日(日)

※期間中8月21日から9月10日まで

緊急事態宣言に伴い臨時休館

担 当 今井さやか

入館者数 3,466人

展示概要 新潟市は、信濃川と阿賀野川が運ぶ土砂が厚く堆積した沖積地に立地する。このため地下深くから遺跡が見つかることが多く、台地上では残りにくい種子や木製品が多く出土する。これらの有機質遺物は土器や石器だけでは知ることのできない情報を得ることができ、当時の暮らしをより豊かに我々に知らせてくれる。本展では、県内・市内の低湿地遺跡の調査から分かったことを紹介した。

展示構成

- 1) 沈む越後平野
- 2) 低湿地遺跡調査のパイオニア青田遺跡
- 3) 角田山麓周辺の低湿地遺跡
- 4) 沈んだ砂丘の遺跡
- 5) 信濃川周辺の低湿地遺跡

主要展示 1) 導入として越後平野の沈むメカニズム(長岡西縁断層帯と分厚い沖積層)を紹介した。エントランスの大ケースでは、近年の西蒲区でのほ場整備に伴う発掘調査において新たに深層で発見のあった下新田遺跡・仲歩切遺跡・茶院A遺跡・萱中遺跡を紹介した。

2) 県内での低湿地遺跡の代名詞ともいえる青田遺跡から出土した遺物と写真パネルを展示した。

3) 角田山麓の遺跡では丘陵上ではなく、裾部の水田下に埋没した中田割遺跡・南赤坂遺跡について紹介した。

4) 沈んだ砂丘の遺跡として、江南区の亀田砂丘に立地する砂崩前郷遺跡と西郷遺跡を紹介した。地下2メートルの深さを体感していただくため、西郷遺跡の剥ぎ取り標本を展示した。

5) 信濃川周辺の低湿地遺跡として馬場屋敷遺跡と浦廻遺跡を取り上げた。馬場屋敷遺跡では、立ったままの柱や床の敷物など出土状況がわかる写真パネルを多く展示した。また、メインの展示ではないが、「思い出の2メートル」と題して職員から2メートル以下の調査のエピソードを募り、パネルで紹介した。「地下2.8mで古墳時代の土器に遭遇」「油まみれの土器と私」など、知られざる苦労と感動の話を紹介した。

関連講演会

演 目 新潟県内の低湿地遺跡と遺跡の総理解へのアプローチ

講 師 荒川隆史氏(新潟県埋蔵文化財調査事業団)

日 時 令和3年5月16日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 50人(うちオンライン17人)

青田遺跡をはじめとする県内の低湿地遺跡を紹介し、氏がこれまで進めてきた地質などの他分野との共同研究による成果について紹介していただいた。参加者からは「調査成果がグラフと図で大変わかりやすかった」「地質など他分野との共同した成果が読み取れてよかった」「興味深い内容だったので、もっと長い時間・回数を増やして聞いてみたいと思った」との感想が寄せられた。

また、今回初めて講演会の会場・オンラインの同時開催を試みた。オンラインについては、県外からの参加もあり、一定の効果があった。

展示解説 講演会終了後に企画展担当者による展示解説を実施した。

参加者の声 展示内容に関して「低湿地だからこそ残っているものがあってすごいと思った」「西蒲区の平野部の深層に古墳時代の遺跡が見つかったことに驚いた」などの感想をいただいた。

まとめ 低湿地に立地する遺跡は、発掘調査において期間と経費が膨大になりがちであるが、丁寧な調査を行うことによって、新たな発見が多く見込まれる遺跡である。低湿地遺跡こそが、新潟市のアイデンティティーであると再認識した。(今井さやか)



企画展1 ポスター

(3) 企画展2「細池寺道上遺跡からさぐる能代川流域の古代」

会 期 令和3年9月17日(金)～12月19日(日)

担 当 奈良佳子・相澤裕子・今井さやか

入館者数 2,251人

展示概要 令和2年度に県営ほ場整備に伴う20年に及ぶ調査の報告書刊行を終了した秋葉区細池寺道上遺跡を中心に、能代川流域の古代に焦点を当てた展示を行った。

展示構成 1) ほ場整備と細池寺道上遺跡の調査 2) 細池寺道上遺跡の古代遺構 3) 細池寺道上遺跡の土器と土製品 4) 河との共存 5) 新津丘陵窯跡群 6) 能代川中流域の遺跡

主要展示 1) 細池寺道上遺跡の調査履歴、ほ場整備に伴う遺跡調査の進め方をパネルで紹介。2) 横板組井戸側と水溜の曲物、削り貫き井戸側の構造と大きさを実物と実物大模型により体感していただいたほか、当遺跡に集中するが類例の少ない遺構であるカマド状遺構について紹介。3) 当遺跡の主体時期である9世紀を中心とした土器の様相を概観。特に多量に出土した特色ある須恵器「稜椀」については、文化財センターが所蔵する生産地と目される新津丘陵窯跡群の発掘資料と当遺跡出土資料、類例として借用した村上市元山窯跡群、福島県会津若松市大戸古窯跡群出土資料を同時に観察でき、特に断面がよく見えるよう工夫して展示した。大戸古窯跡群からはほかにも当遺跡周辺との類縁関係をもつものとして長頸瓶や長頸瓶の焼台、鳥形瓶も借用展示した。また須恵器貯蔵具の多さも当遺跡の特色であること、用途が定め切れていない円筒形土製品の存在などを紹介。4) 阿賀野川・能代川に挟まれた土地柄から逃れられない河との共存の様相について、遺構と河の出土品からさぐった。5) 細池寺道上遺跡は新津丘陵に近く、普通、窯跡でしか出土しない焼台が出土するなど新津丘陵窯跡群との薄くない関連が考えられることから、文化財センター所蔵の新津丘陵窯跡群の採集資料をこの機会に見ていただいた。6) 能代川流域ではより上流にあたる五泉市域で多くの古代遺跡の調査が行われており、窯跡・消費地両者の資料を借用・展示し、細池寺道上遺跡周辺とはやや異なる様相がみられることを紹介した。

関連講演会 文化財センター研修室において対面で開催するとともにオンライン配信を行った。

演 目 やきものから考える古代の新津丘陵周辺

講 師 奈良佳子(新潟市文化財センター)

日 時 令和3年11月7日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 39人(うちオンライン12人)

細池寺道上遺跡第44次調査出土資料を中心に、焼き物から当時の人々の活動にどれだけ迫れるのかを考えた。主な内容は、カマド状遺構の集中や須恵器稜椀・貯蔵具の多量出土から、細池寺道上遺跡は地域単位での饗宴・会食に供する食器の保管や、それに伴う頻繁な調理に関わる場所であったと考えられないか、また、側面に穿孔のある焼台や鳥形製品は阿賀野川右岸・福島県会津地域と共通する要素であり、阿賀野川の南北は隔絶しておらず、流域は結びついていることなどである。

古代の飾り気のないやきものが材料で、やきものの細かい見方の話が主体となったため、見方がわかってよかったという声があった反面、やや専門的すぎるのではとの意見もいただいた。

展示解説 講演会終了後に企画展担当者(奈良)による展示解説を行った。

ま と め 県特別警報の発出により開幕日変更、他市からの借用も延期せざるを得なくなるなど新型コロナウイルスの影響があったが、10月上旬には予定の遺物をすべて展示して予定どおり終了することができた。

細池寺道上遺跡の遺構・遺物には、官衙・寺院・富裕層・有力者の存在をうかがわせるものはなく、展示できるものといえば実用品ばかりで、一般の方におもしろいと思っていただけるのか悩みどころであった。今回の展示・講演を通して、多数の須恵器貯蔵具を使い、須恵器「稜椀」やカマド状遺構といった特徴的なものが集中し、新津丘陵窯跡群との関連もあるかもしれないという様相は、その性格を一般集落という言葉でくくってしまうにはやや特殊ではないか、類例の増加を待つとともに、より多くの遺跡との比較を通してその位置づけを考えていく必要があると感じた。また、古代の細池寺道上遺跡周辺は、違いが強調されることの多い阿賀野川右岸地域とも共通性をもつこと、新津丘陵周辺と阿賀野川をさかのぼった福島県会津地方との関係は古代においても緊密なものであったことを確認することができた。(奈良佳子)



展示風景

(4) 企画展3 「文化財センター10年のあゆみ」

会 期 令和4年1月8日(土)～3月27日(日)

担 当 今井さやか・相澤裕子

入館者数 1,015人

展示概要 旧埋蔵文化財センターが現在地に移転し、文化財センターとしてオープンして令和3年7月に開館10周年を迎えた。これまで多くの遺跡発掘調査を実施し、国内初・県内初となるような大きな発見をはじめ、さまざまな発見があった。それらを振り返るとともに文化財センターの活動や市民の方から寄せられた寄贈品の一部などを紹介した。

展示構成

- 1) 活動紹介
- 2) 発掘調査史
- 3) 寄贈品

主要展示 1) では、職員の仕事やイラストで表現し、これまでに印象に残ったことなどを紹介した。イベントで活躍いただいているボランティアさんが製作した土器や裂き織りなどを展示した。

2) では、文化財センターのあゆみと主な発掘調査を年表にまとめ、出土した遺物とともに展示した。市内で行政が実施した初めての発掘調査として緒立遺跡を取り上げた。近年の発掘調査成果では、新聞やテレビで報道され、話題となった曽我墓所遺跡出土の鳥足付き環状瓶などを展示した。また、小さな発見でも蓄積することにより地域の歴史を物語る大きな成果に繋がるということを動植物遺体などで示した。デジタル技術の進展によって屋外での遺跡発掘調査や室内での整理作業においてもその恩恵を受けているが、時とともに変化したもの、変化していないものを紹介した。

3) では個人の方が採集した土器や石器などの考古資料、稀少な書籍を展示した。

関連講演会

演 目 小さな発見から大きな成果へ

—市内の縄文遺跡から—

講 師 寺崎裕助氏(前新潟県考古学会会長)

日 時 令和4年1月16日(日)

午後1時30分～午後3時

参加者数 49人(うちオンライン24人)

注目の遺跡・出土遺物として、味方排水機場遺跡、(仮称)角田沖海底遺跡、干納遺跡、南赤坂遺跡を取り上げ、市内の縄文時代の遺跡についてその魅力に迫った内容であった。会場での聴講のほかオンライン配信も行った。

展示解説 講演会終了後に講師による展示解説を実施した。解説動画を新潟シティチャンネルにてYouTube

配信している。

来館者の声 素人にも比較的分かりやすい内容との感想があった。また、職員の多くはバックヤードで仕事をしており、来館者の目に触れないため職員の似顔絵入りパネルを見てこんなにたくさんの職員が働いていることに驚いたという声もあった。

まとめ 10年間の活動やこれまでの発掘調査を振り返る機会となった。寄贈資料の中には自治体史に掲載されているものもあり、これらを紹介する良い機会となった。これからの10年、どのような発見・成果に出会えるのか楽しみである。(相澤裕子)



展示解説の様子



チラシ表

6 教育普及活動

(1) 公開講座

文化財は地域の成り立ちなどを知る上で重要な役割を担っている。文化財センターでは市民が地域の歴史や文化に対する理解を深められるように、収蔵している考古資料・民俗資料を積極的に公開・活用し、様々な講座・体験イベントを実施している。以下、令和3年度に実施した公開講座の概要について述べる(表6)。

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では企画展の内容に関連した講座を行った。詳細は各企画展の頁を参照いただきたい。また、考古学関連の講座では、オンラインによる同時配信を行った。民俗学講座については、専門家を講師に招き1回の講座を行った。オンラインによる配信は好評で、コロナと関係なく今後も継続して欲しいという声が続出した。一方で、アーカイブ配信の要望も多数寄せられており、今後の課題と言える。

体験イベント 子ども向け歴史体験として「[の]字状石製品を作ろう」「藍の生葉染め体験」を夏休みに開催した。の字状石製品は、新潟市内で4点出土し、市を代表する遺物であるとともに市オリジナルの体験である。

旧武田家住宅を会場に地域の方々との交流を目的としたイベントとして長年開催してきた、「旧武田家住宅で

民具とお茶を楽しむ会」と「民具と民話を楽しむ会」についても、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和3年度も引き続き開催を見送った。

速報会 令和3年度の遺跡発掘調査速報会では、午後からの開催とし、講演の部では「角田浜妙光寺山古墳をめぐる諸問題」と題し橋本博文氏から講演いただいた。続く報告の部として古津八幡山遺跡・道正遺跡の報告を行った。開催に際しては、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として、定員を半減・事前申込への変更・オンラインによる同時配信を実施した。参加者のアンケートからいくつか紹介する。「角田浜妙光寺山古墳について、橋本先生から色々な角度から説明いただき、古墳の存在が身近に感じられた(会場参加者)」「遺跡(古墳)の概要についてのみの報告にとどまらず、県内での位置づけや日本の歴史全体での意味や関係性について教えていただけると興味わくと思う(会場参加者)」「考古学素人でも楽しめる分かりやすい話だった(オンライン参加者)」「新潟県内でも移動が大変なのでオンライン配信はありがたい(オンライン参加者)」「使われた資料について可能な限りWEBで閲覧できるようにして欲しい。文化財センターのホームページは見づらく探しづらい(オンライン参加者)」などの声を頂いた。

なお、オンライン参加者は78名であった。

出前講座・職員派遣 文化財センターでは、依頼に応

表6 令和3年度公開講座一覧

講座・イベント

年月日	内容	講師	人数
2021/8/25 (水)	大人の藍の生葉染め	今井さやか	16
2021/10/28 (木)	縄文モチーフの切り絵講座	坂井輪切り絵同好会	11
2021/11/27 (土)	民俗講座「新潟の食と民俗」	大楽和正氏(新潟県立歴史博物館)	22

夏休み子ども歴史体験

年月日	内容	講師	人数
2021/7/25 (日)	藍の生葉染め体験	龍田優子・文化財センターボランティア	26
2021/8/1 (日)	「の」字状石製品を作ろう	今井さやか	11

新潟市遺跡発掘調査速報会

年月日	内容	パネリスト・発表者	人数
2022/2/27 (日)	講演 角田浜妙光寺山古墳をめぐる諸問題	橋本博文氏(新潟大学名誉教授)	175 (オンライン含む)
	報告 古津八幡山遺跡 —発見された弥生時代のお墓・古津八幡山遺跡最大の方形周溝墓—	相田泰臣	
	報告 道正遺跡 —水田下に埋没した砂丘の遺跡—	高橋保雄	

じて研究団体、地方自治体、市民団体などへ職員派遣を行っている。令和3年度は、19団体931人の利用があった。新型コロナウイルス感染拡大のため、市役所全体で職員派遣を自粛した時期が9月と1月にあり、特に冬季に利用が集中する小学校3学年の「昔の暮らし」の出前は影響が大きく、延期を余儀なくされるなどした。コロナ禍をふまえオンラインでの授業依頼も3件あった。いずれも学校の総合学習での利用であった(表7)。

(2) 施設利用

文化財センターでは、展示室のほかに「体験コーナー」として研修室を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している。体験コーナーでは、「いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として人気のある新潟市から出土した土器をもとにした「土器パズル」については、接触感染防止の観点から、令和3年2月から利用を休止している。

令和3年度の体験参加者数は個人1,519名(前年度682名)、団体1,889名(前年度1,185名)であり、回復傾向にある。

また、旧武田家住宅及び体験広場(芝生)の貸出(有料)を行っている。利用状況は表9のとおりである。

(3) 入館者数

当センターの入館者数は表10のとおりで7,469人である。令和2年度の5,893人に比べてやや増加した。

令和3年3月末までの開館からの累計入館者数は115,688人である。

(4) 団体見学・施設見学

小学校が見学と体験活動で利用することが多い。特に小学校では社会科の授業として春先には6学年の歴史で、秋から冬にかけては3学年の昔の暮らしの学習で利用する傾向にある。令和3年度では、小学校の利用は27校あった。なお、展示室・研修室での密を避けるため、120名を超える学校について2日間に分けて来館していただく対策をとった。

(5) その他

コロナ禍で外出が控えられる状況をふまえ、令和2年度から、市ホームページで「学芸員コラム」の連載を開始し、令和3年度も引き続き発信を行った。月に2回のペースで、日々の業務や注目される遺物などの内容で職員が輪番で記事を執筆した。また、「曾我墓所遺跡の鋸杖3D復元」「企画展3展示解説」について動画を自作し、市の公式YouTubeチャンネルにて公開を行った。

(今井さやか)

表7 令和3年度職員派遣・出前講座一覧

年月日	内容	会場	依頼者	派遣職員名
2021/5/30 (日)	郷土史講座「曾我墓所遺跡発掘調査成果」	江南区郷土資料館	江南区郷土資料館	龍田優子
2021/6/9 (水)	亀田砂丘について	亀田西中学校	亀田西中学校	今井さやか
2021/7/8 (木)	菖蒲塚古墳について	リモート	巻南小学校	今井さやか
2021/7/27 (火)	勾玉づくり	江南区郷土資料館	江南区郷土資料館	今井さやか
2021/8/2 (月)	勾玉づくり	小針青山公民館	小針青山公民館	相澤裕子
2021/8/5 (木)	勾玉づくり	関屋地区公民館	関屋地区公民館	今井さやか
2021/8/10 (火)	勾玉づくり	中地区公民館	中地区公民館	今井さやか
2021/9/21 (火)	総合学習「新潟フィールドワーク」	リモート	木戸中学校	今井さやか
2021/9/28 (火)	調査指導	上野遺跡(村上市)	(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	田中耕作
2021/10/21 (木)	勾玉づくり	中之口東小学校	中之口東小学校ものづくりクラブ	相澤裕子
2021/11/10 (水)	地下2メートルの考古学	亀田市民会館	亀田福寿大学探訪部	今井さやか
2021/11/13 (土)	新潟市の遺跡について(大江山の遺跡)	大江山農村環境改善センター	大江山地域学習会	今井さやか
2021/12/11 (土)	わくわくランド「土鈴づくり」	関屋地区公民館	関屋地区公民館	今井さやか
2022/1/18 (火)	昔の暮らし	上所小学校	上所小学校	久住直史・平山千尋
2022/1/19 (水)	昔の暮らし	大形小学校	大形小学校	今井さやか・久住直史
2022/1/20 (木)	昔の暮らし	新津第三小学校	新津第三小学校	久住直史・平山千尋
2022/1/21 (金)	昔の暮らし	新津第三小学校	新津第三小学校	久住直史・平山千尋
2022/1/25 (火)	昔の暮らし	新津第三小学校	新津第三小学校	久住直史・平山千尋
2022/1/26 (水)	昔の暮らし	新津第三小学校	新津第三小学校	久住直史・平山千尋
2022/1/28 (金)	総合学習「仕事とやりがい」	リモート	亀田東小学校	今井さやか
2022/2/18 (金)	市町村文化財専門職員実務研修	リモート	新潟県教育庁文化行政課	相田泰臣
2022/2/22 (火)	昔の暮らし	濁川小学校	濁川小学校	今井さやか・久住直史・平山千尋
2022/2/24 (木)	昔の暮らし	青山小学校	青山小学校	久住直史
2022/2/25 (金)	遺跡について	坂井輪地区公民館	きままクラブ	今井さやか

表8 令和3年度体験利用人数

個人

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	28	39	33	143	183	16	46	62	18	28	33	105	734
和同開珎づくり(5・8・2月)	-	35	-	-	184	-	-	-	-	-	26	-	245
弓矢体験(4・3月)	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	166	193
火起こし(6・7月)	-	-	30	143	-	-	-	-	-	-	-	-	173
裂き織り(11・12月)	-	-	-	-	-	-	-	55	26	-	-	-	81
土鈴・土偶づくり(9・10・1月)	-	-	-	-	-	32	41	-	-	20	-	-	93
合計	55	74	63	286	367	48	87	117	44	48	59	271	1,519

団体

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	-	-	281	290	5	-	79	-	25	-	-	-	680
和同開珎づくり	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	7	18
土器・土鈴・土偶づくり	-	-	113	-	0	-	-	-	-	-	-	-	113
弓矢体験	-	-	21	-	11	124	-	15	42	-	-	7	220
火起こし	-	-	374	290	5	-	79	68	42	-	-	-	858
合計	-	-	789	580	32	124	158	83	109	-	-	14	1,889

※出前講座分は含まない

表9 令和3年度旧武田家住宅・体験広場利用状況

年月日	利用者名	目的
2021/7/3(土)	サークル	昔語り発表会
2021/11/28(日)	個人	写真撮影会

表10 令和3年度文化財センター入館者数

月	開館日数(日)	入館者数(人)		
		個人	団体	計
4	25	336	0	336
5	26	592	95	687
6	26	490	556	1,046
7	27	582	305	887
8	26	766	20	786
9	13	223	170	393
10	27	490	354	844
11	23	552	350	902
12	23	275	226	501
1	20	217	0	217
2	22	311	15	326
3	27	532	12	544
合計	285	5,366	2,103	7,469

表11 令和3年度団体利用一覧

団体利用(学校)			
年月日	団体名	利用内容	人数
2021/6/4(金)	亀田西小学校(江南区)	見学・火起こし・勾玉	92
2021/6/9(水)	笠木小学校(西区)	見学・火起こし・弓矢	11
2021/6/10(木)	西内野小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	60
2021/6/11(金)	西内野小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	59
2021/6/17(木)	木山小学校(西区)	見学・火起こし・弓矢	10
2021/6/18(金)	葛塚東小学校(北区)	見学・火起こし・勾玉	115
2021/6/23(水)	湯東小学校(西蒲区)	見学・土偶	41
2021/6/29(火)	巻南小学校(西蒲区)	見学・火起こし・土偶	72
2021/6/30(水)	紫山小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	70
2021/7/6(火)	五十嵐小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	67
2021/7/7(水)	五十嵐小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	71
2021/7/8(木)	東山の下小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉	92
2021/7/9(金)	東山の下小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉	60
2021/9/28(火)	小針小学校(西区)	見学・土鈴	62
2021/9/29(水)	小針小学校(西区)	見学・土鈴	62
2021/9/30(木)	沼垂小学校(東区)	見学・民具学習・武田家	46
2021/10/13(水)	南万代小学校(中央区)	見学・勾玉・火起こし	63
2021/10/15(金)	中之口東小学校(西蒲区)	見学・民具学習・武田家	16
2021/10/15(金)	新津第一小学校(秋葉区)	見学・民具学習・武田家	67
2021/10/27(水)	小瀬小学校(西区)	見学・民具学習・武田家	12
2021/11/2(火)	真砂小学校(西区)	見学・民具学習・武田家	51
2021/11/9(火)	新津第二小学校(秋葉区)	見学・民具学習・武田家	69
2021/11/9(火)	大手町小学校(上越市)	見学・火起こし	53
2021/11/16(火)	坂井東小学校(西区)	見学・民具学習・武田家	65
2021/11/26(金)	南万代小学校(中央区)	見学・民具学習・武田家	63
2021/12/7(火)	湯東小学校(西蒲区)	見学・民具学習・武田家	37
2021/12/14(火)	山の下小学校(東区)	見学・民具学習・武田家	37
2021/12/14(火)	金津小学校(秋葉区)	見学・弓矢・火起こし	42
2021/12/21(火)	桃山小学校(東区)	見学・民具学習・武田家	73
2021/12/22(水)	升湯小学校(西蒲区)	見学・民具学習・武田家	12
2022/2/3(木)	松野尾小学校(西蒲区)	見学・民具学習	15
合計			1,665

団体利用(学校以外)

年月日	団体名	利用内容	人数
2021/5/2(日)	新潟大学考古学研究室	見学	11
2021/7/15(木)	縄文を旅する新潟・上越の旅	見学	15
2021/8/8(日)	動く市政教室	見学・和同開珎・弓矢	15
2021/8/20(金)	東地区公民館	見学・勾玉・火起こし	5
2021/11/6(土)	エコ・インターナショナル	見学・弓矢・火起こし	15
2021/12/1(水)	けやきの会	見学・勾玉	13
2021/12/19(日)	美里子供会	見学・勾玉	12
2022/3/29(火)	放課後等デイサービスキャンブエるも	見学・和同開珎・弓矢	12
合計			98



団体利用での弓矢体験



新潟市遺跡発掘調査速報会



新潟市遺跡発掘調査速報会



縄文モチーフの切り絵講座



ボランティアによる展示解説（団体利用）

(6) 資料利用

A 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影などを行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出などをする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書などを新潟市教育委員会宛に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続き、写真データの提供及び掲載許可申請については『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』で対応している。

B 利用件数

以下、令和3年度の各利用件数について記す（表12）。

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は11件（前年度比6件増）である。

貸出許可 考古資料と民俗資料の貸出許可は、博物館などでの常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展などの短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館などでは地域の歴史に親しみを感じてもらふ観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。

資料の貸出期間などは『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。

常設展示に伴う長期貸出6件（前年度比増減なし）、企画展などに伴う短期貸出6件（前年度比1件増）である。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書などの掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物などで使用する場合はある。利用件数は12件（前年度比4件減）であった。

寄附申込 採集資料や歴史関係書籍などを個人から4件受理した（前年度比増減なし）。（平山千尋）

表12 令和3年度資料利用対応件数一覧

考古資料
特別利用許可

件数	申請者	資料	数量(点)	来館日	備考
1	個人	B29関連資料	6箱	2021/6/20(日)	個人研究に係る資料調査
2	個人	御井戸遺跡 木器	12	2021/6/22(火)	個人研究に係る資料調査
3	個人	駒首遺跡 他 土器	5	2021/8/2(月)	個人研究に係る資料調査
4	個人	松影A遺跡 土器	2	2021/8/16(月)	個人研究に係る資料調査および掲載写真の撮影
5	個人	石動遺跡 土器 他	469	2021/9/19(日)～9/22(水)・ 9/24(金)	個人研究に係る資料調査
6	個人	馬場屋敷遺跡 漆器	1	2021/11/27(土)	個人研究に係る資料調査
7	個人	神谷内遺跡 他 土器	22	2021/12/1(水)	卒業論文執筆に係る資料調査
8	個人	大沢遺跡 土偶	2	2021/12/5(日)	レポート作成に係る資料調査
9	個人	南赤坂遺跡 土器 他	373	2021/12/16(木)	個人研究に係る資料調査
10	個人	古津八幡山遺跡 土器 他	2016	2022/2/1(火)～2/15(火)	個人研究に係る資料調査
11	個人	南赤坂遺跡 土器 他	203	2022/2/19(土)・2/20(日)	個人研究に係る資料調査

貸出許可

件数	申請者	資料	数量(点)	貸出期間	備考
1	医療法人社団 福慈会 理事長 坂本長逸	諏訪畑遺跡 土器	5	2021/4/1(木)～2022/3/31(木)	常設展示
2	新潟市北区郷土博物館 館長 木村隆行	鳥屋遺跡 石器 他	35	2021/4/1(木)～2022/3/31(木)	常設展示
3	新潟市歴史博物館 館長 伊東祐之	笹山前遺跡 他 土器 他	84件	2021/4/1(木)～2022/3/31(木)	常設展示
		的場遺跡 土錘・石錘	48		
		近世新潟町遺跡 陶磁器・泥面子	27		
		山木戸遺跡 陶磁器	19件		
4	中之口資料館 市長 中原八一	茶院A遺跡 土器 他	8	2021/4/1(木)～2022/3/31(木)	常設展示
5	江南区郷土資料館 市長 中原八一	砂崩遺跡 他 土器 他	78	2021/4/1(木)～2022/3/31(木)	常設展示
6	新潟大学学術情報基盤機構 旭町学術資料展示館 館長 郷見	大沢遺跡 他 土器 他	117	2021/4/1(木)～2022/3/31(木)	常設展示
7	村上市教育委員会 教育長 遠藤友春	西郷遺跡 他 土器 他	18	2021/7/6(火)～2021/11/30(火)	村上市縄文の里朝日における企画展 「縄文モードと弥生トレンド ～縄文時代・弥生時代の装飾品～」展示
8	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 稲荷善之	正尺C遺跡 土器	1	2021/7/19(月)～2021/12/14(火)	企画展「倭国大乱 ～律令国家成立までの越後平野」 展示および図録掲載用の写真撮影
9	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館 館長 藤森照信	御井戸遺跡 木器	7	2021/9/22(水)～2021/12/28(火)	企画展「縄文2021—東京に生きた縄文人—」展示
10	津南町教育委員会 教育長 高田敏夫	古津八幡山遺跡 土器	4	2021/8/10(火)～2021/11/30(火)	農と縄文の体験実習館なじもんにおける企画展 「魚沼地方の古代～山里のなりわいと交流～」 展示および図録掲載用の写真撮影
11	新潟県立歴史博物館 館長 齋藤良人	峰岡上町遺跡 陶器	9	2021/11/16(火)～2022/3/18(金)	テーマ展「やきもの産地・新潟」 展示および解説パネル用の写真撮影
12	信濃川火焔街道連携協議会 会員(新潟市長) 中原八一	角田浜沖発見の縄文土器深鉢	1	2022/2/2(水)～2022/3/6(日)	信濃川火焔街道・新潟県立歴史博物館主催 「冬季展示 やきもの産地新潟」展示

掲載許可

件数	申請者	資料	数量(点)	許可日	備考
1	株式会社悠工房 代表取締役 清水証善	大沢谷内遺跡 木簡 写真データ	1	2021/4/27(火)	中学生向け教育教材(PDF)に掲載
2	見附市民俗文化資料館(みつけ伝承館) 館長 森澤亜土	林付遺跡 土器 写真データ	1	2021/4/27(火)	企画展「耳取遺跡周辺の遺跡vol.1 —土井荘推定地としての上田遺跡を考える—」 展示パネルに使用
3	村上市教育委員会 教育長 遠藤友春	西郷遺跡 他 土器 他	18	2021/6/3(木)	村上市縄文の里朝日における企画展 「縄文モードと弥生トレンド ～縄文時代・弥生時代の装飾品～」 図録(電子書籍)に掲載
4	鳥取市稲葉万葉歴史館 館長 金指真澄	大沢谷内遺跡 木簡 赤外線写真データ	1	2021/7/6(火)	企画展「文字を楽しむ(仮称)」展示パネルに使用
5	株式会社ムーブ 代表取締役 加藤亜佳峰	古津八幡山遺跡 他 空中写真データ 他	2	2021/8/6(金)	新刊書籍「新潟のトリセツ」に掲載
6	株式会社雄山閣 代表取締役社長 宮田哲男	古津八幡山遺跡 他 空中写真データ 他	3	2021/9/13(月)	『季刊考古学 157号』に掲載
7	株式会社新潟藤田組 取締役社長 藤田直也	曾我墓所遺跡 空中写真データ 他	2	2021/10/19(火)	横越排水区雨水調整池築造工事 現場脇に設置する看板に掲載
8	公益財団法人日本陶磁協会 理事長 梅澤信子	峰岡上町遺跡 陶胎染付碗 写真データ	1	2021/12/21(火)	「陶説」2月号における 他館企画展紹介に伴う図版掲載
9	株式会社ベネッセコーポレーション 著作権申請窓口責任者 源根秀実	大沢谷内遺跡 木簡 赤外線写真データ	1	2021/12/21(火)	中学生向け教育教材に掲載
10	阿賀野市教育委員会 教育長 神田武司	秋葉遺跡 他 土器 他 写真データ	6	2022/2/18(金)	新潟県・下越5市町村合同企画展 「地味にすごい下越の縄文時代」 図録および関連講演会資料等に掲載
11	FILE Publications,inc. 代表取締役 平尾太一	古津八幡山古墳 他 墳丘測量図 他	10	2022/3/8(火)	書籍「全国古墳図鑑」に掲載
12	株式会社ザ・ワークス 千葉紋巳	古津八幡山遺跡 発掘調査風景 写真データ	1	2022/3/25(金)	NHK総合「有吉のお金発見 突撃!カネおくん」 番組内で参考画像として使用

寄附申込

件数	申込者	資料	数量(点)	申込日	備考
1	個人	新谷遺跡採集石器 他	1791	2021/5/11(火)	
2	個人	豊原遺跡出土土器 写真データ 他	8	2021/5/18(火)	
3	個人	歴史関係書籍	10,632	2021/8/10(火)	
		視聴覚資料	29		
4	個人	歴史関係書籍	551	2021/10/21(木)	

(7) 図書の収蔵と閲覧

A 収 蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書は、埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きし、登録の終わったものから順次配架している。

図書の収蔵と配架場所は、基本的に文化財センター図書室としている。しかし、複本があり利用頻度の高い報告書は、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。また、県内外の研究者などから寄贈される本が増大したため、埋蔵文化財収蔵庫の一角にも配架している。

書誌情報の入力作業は、司書（会計年度任用職員）1名を雇用して継続して行っている。書誌情報の入力については、埋蔵文化財情報管理システム（Ⅲ4(7)参照）を利用しており、この入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、2段ないし3段ラベルとバーコードを貼っている。なお、令和4年3月末までの入力数（複本は除く）は60,491冊である。

B 利用状況

図書室には2名分の閲覧スペースがあり、平成24年6月から閲覧と著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）を開始した。なお、利用に関しては平成28年4月から、土曜・日曜日、祝日の利用を事前申し込み制とした。また、令和2年4月から利用時間を9：30～12：00、13：00～16：00に変更、6月からは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、火曜から金曜日の利用も事前申し込み制とした。令和4年1月8日からは文化財センターの土曜・日曜日、祝日の開館時間短縮に伴い、同曜日の利用時間を10：00～12：00、13：00～16：00に変更した。

令和3年度の図書室利用人数とコピーサービス利用人数は表13のとおりである。前年度比では利用者数は12人増、コピーサービス利用人数は2人増である。なお、収蔵図書の大半が発掘調査報告書などの発行部数の少ない稀観本のため、館外貸出は行っていない。（八藤後智人）

表13 令和3年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用（人）	コピー利用（人）
4	0	0
5	11	2
6	0	0
7	0	0
8	0	0
9	0	0
10	2	2
11	2	2
12	0	0
1	1	1
2	3	2
3	3	1
合計	22	10

7 保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っている。また、PEG法では漆被膜がはがれてしまう漆器、PEGの色により墨痕が見えにくくなってしまう墨書のある遺物、金属と一体となっている木製品についてはトレハロース含浸法で行っている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。

令和3年度 令和3年度には24遺跡60調査分358点の木製品の保存処理を行った（表14）。御井戸A遺跡（1994002）など市町村広域合併前の2調査のほか、大沢谷内遺跡（2012001）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。これらの処理はPEG含浸処理装置において行うが、厚みが5cm以下の小形木製品については、プラスチック製密閉容器を使用しPEG含浸を温風定温乾燥機内で行っている。また、近世新潟町跡などの近世以降の木製品と漆器について、トレハロース含浸法で処理を行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。また、本調査において脆弱遺物が出土した際の取り上げやバインダーを用いた土器の強化を行っている。

令和3年度 令和3年度は、鉄製品は細池寺道上遺跡（2009003）など14遺跡27調査分299点の保存処理を行った（表15）。青銅製品は、若宮様遺跡（1983004）など11遺跡16調査分29点の保存処理を行った。

(3) 保存処理外部委託について

大形の木製品など文化財センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。令和3年度は茶院A遺跡（2019127）の田下駄1点と細池寺道上遺跡（2014001）の井戸側部材2点の保存処理を外部に委託した（表16）。（今井さやか）

8 決算額

令和3年度における文化財センター決算額は表17のとおりである。（飯塚和美）

表14 令和3年度木製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
御井戸A遺跡	1994002	木製品	礎板ほか	PEG	3	本発掘調査
御井戸B遺跡	1997002	木製品	柱根ほか	PEG	17	本発掘調査
松影A遺跡	1997106	木製品	棒状ほか	PEG	2	確認調査
秋葉区天ヶ沢上谷内地区	2004158	木製品	田下駄ほか	PEG	2	確認調査
道上遺跡	2005003	木製品	柱根	PEG	2	本発掘調査
沖ノ羽遺跡	2006005	木製品	板状	PEG	1	本発掘調査
巻船跡	2006132	木製品	曲物側板	PEG	1	確認調査
沖ノ羽遺跡	2007004	木製品	柱根ほか	PEG	2	本発掘調査
沖ノ羽遺跡	2008002	木製品	棒状ほか	PEG	3	本発掘調査
大沢谷内遺跡	2008005	木製品	柱根	PEG	1	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2008006	木製品	井戸側部材ほか	PEG	13	本発掘調査
大沢谷内遺跡	2009002	木製品	板状	PEG	1	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2009003	木製品	板状ほか	PEG	11	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2009003	木製品	板状	トレハロース	1	本発掘調査
林付遺跡	2010001	木製品	柱根	PEG	1	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2010003	木製品	柱根ほか	PEG	14	本発掘調査
鳥瀬瀬遺跡	2011134	木製品	柱根	PEG	2	確認調査
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	柱根ほか	PEG	45	本発掘調査
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	炭化井戸側部材ほか	トレハロース	1	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2012006	木製品	柱根ほか	PEG	6	本発掘調査
下新田遺跡	2013005	木製品	柱根ほか	PEG	18	本発掘調査
仲歩切遺跡	2014178	木製品	柱根	PEG	1	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2015002	木製品	柱根ほか	PEG	7	本発掘調査
秋葉区天ヶ沢上谷内地区	2015160	木製品	曲物底板ほか	PEG	4	試掘調査
大沢谷内遺跡	2016001	木製品	板状ほか	PEG	52	本発掘調査
茨木遺跡	2016003	木製品	棒状ほか	トレハロース	7	本発掘調査
近世新潟町跡	2016116	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
上町遺跡	2016120	木製品	下駄	トレハロース	1	確認調査
近世新潟町跡	2016121	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
近世新潟町跡	2016176	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
宮下遺跡	2016180	木製品	板状	PEG	1	確認調査
福島遺跡	2016181	木製品	棒状	PEG	1	確認調査
近世新潟町跡	2016192	木製品	蓋ほか	トレハロース	6	工事立会
仲歩切遺跡	2016191	木製品	板状	PEG	1	工事立会
近世新潟町跡	2016214	木製品	曲物底板	トレハロース	1	試掘調査
赤船跡	2017001	木製品	柱根	PEG	2	本発掘調査
浦木東遺跡	2017003	木製品	板状ほか	PEG	4	本発掘調査
亀田道下遺跡	2017004	木製品	棒状ほか	PEG	22	本発掘調査
亀田道下遺跡	2017004	木製品	櫛ほか	トレハロース	8	本発掘調査
近世新潟町跡	2017129	木製品	底板ほか	トレハロース	2	工事立会
正尺A遺跡	2017160	木製品	柱根	PEG	1	工事立会
近世新潟町跡	2017167	木製品	箸	トレハロース	1	試掘調査
秋葉区小須戸地区	2017186	木製品	板状	PEG	1	試掘調査
砂前前遺跡	2018005	木製品	板状ほか	PEG	2	本発掘調査
近世新潟町跡	2018114	木製品	漆器	バインダー	1	試掘調査
近世新潟町跡	2018114	木製品	漆器	トレハロース	1	試掘調査
近世新潟町跡	2018123	木製品	板状	PEG	1	試掘調査
近世新潟町跡	2018123	木製品	漆器	トレハロース	1	試掘調査
岡崎遺跡	2018128	木製品	棒状ほか	PEG	6	試掘調査
近世新潟町跡	2018130	木製品	箸	PEG	6	確認調査
近世新潟町跡	2018130	木製品	漆器	トレハロース	2	確認調査
細池寺道上遺跡	2018152	木製品	板状	PEG	1	工事立会
茶院A遺跡	2018170	木製品	棒状ほか	PEG	9	確認調査
茶院A遺跡	2018170	木製品	漆器	トレハロース	1	確認調査
岡崎遺跡	2018213	木製品	棒状ほか	PEG	5	確認調査
中央区明石一長嶺地区	2018226	木製品	棒状	PEG	1	試掘調査
茶院A遺跡	2019127	木製品	底板ほか	PEG	31	工事立会
茶院A遺跡	2019127	木製品	漆器	トレハロース	4	工事立会
西蒲区馬場地区	2019168	木製品	下駄前歯ほか	PEG	5	確認調査
近世新潟町跡	2020158	木製品	漆器軸ほか	トレハロース	8	試掘調査
合計					358	

表15 令和3年度金属製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
若宮様遺跡	1983004	鉄製品	鉄洋	クリーニング	1	本発掘調査
大入遺跡	1988115	鉄製品	不明	クリーニング・樹脂含浸	1	確認調査
細池寺道上遺跡	1990110	鉄製品	不明	クリーニング・樹脂含浸	2	確認調査
秋葉区東島地区	1997133	鉄製品	板状	クリーニング・樹脂含浸	1	試掘調査
山城遺跡	1998104	鉄製品	鉈ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	試掘調査
城山遺跡	2001132	鉄製品	鉄洋ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	確認調査
城所道下遺跡	2004154	鉄製品	鋳造品	クリーニング・樹脂含浸	1	試掘調査
沖ノ羽遺跡	2007143	鉄製品	刀子	クリーニング・樹脂含浸	1	工事立会
沖ノ羽遺跡	2007242	鉄製品	紡錘車ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	工事立会
細池寺道上遺跡	2008006	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	5	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2009003	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	44	本発掘調査
中谷内遺跡	2009205	鉄製品	板状ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	工事立会
前田遺跡	2009209	鉄製品	鉄洋	クリーニング	1	確認調査
細池寺道上遺跡	2010003	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	41	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2011005	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	本発掘調査
諏訪遺跡	2011149	鉄製品	棒状ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	確認調査
細池寺道上遺跡	2012006	鉄製品	刀子	クリーニング・樹脂含浸	1	本発掘調査
日本南遺跡	2012159	鉄製品	鋸	クリーニング・樹脂含浸	1	確認調査
大間湯遺跡	2012176	鉄製品	刀子	クリーニング・樹脂含浸	1	確認調査
峰岡町遺跡	2013003	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	95	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2013004	鉄製品	鉄線ほか	クリーニング・樹脂含浸	6	本発掘調査
下新田遺跡	2013106	鉄製品	輪型滓ほか	クリーニング・樹脂含浸	4	試掘調査
細池寺道上遺跡	2014001	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	53	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2015002	鉄製品	鋸	クリーニング・樹脂含浸	2	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2016002	鉄製品	鉄線ほか	クリーニング・樹脂含浸	18	本発掘調査
前山遺跡	2018001	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	6	本発掘調査
西大畑地区	調査外	鉄製品	板状ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	寄附
合計					299	

青銅製品

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
若宮様遺跡	1983004	青銅製品	古銭ほか	クリーニング・樹脂含浸	6	本発掘調査
草水町2丁目跡	1992129	青銅製品	留金具	クリーニング・樹脂含浸	1	確認調査
山崎遺跡	1998104	青銅製品	煙管	クリーニング・樹脂含浸	1	試掘調査
原遺跡	2000134	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	1	工事立会
手代山北遺跡	2007002	青銅製品	煙管	クリーニング・樹脂含浸	1	本発掘調査
沖ノ羽遺跡	2008002	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	1	本発掘調査
手代山北遺跡	2008003	青銅製品	煙管	クリーニング・樹脂含浸	1	本発掘調査
近世新潟町跡	2008142	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	1	確認調査
細池寺道上遺跡	2009003	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	4	本発掘調査
細池寺道上遺跡	2011005	青銅製品	留金具	クリーニング・樹脂含浸	1	本発掘調査
峰岡城山遺跡	2012002	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	2	本発掘調査
近世新潟町跡	2012142	青銅製品	煙管	クリーニング・樹脂含浸	1	確認調査
近世新潟町跡	2012191	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	1	工事立会
日本南遺跡	2012159	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	1	確認調査
峰岡町遺跡	2013003	青銅製品	煙管ほか	クリーニング・樹脂含浸	3	本発掘調査
亀田道下遺跡	2017004	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	3	本発掘調査
合計					29	

表16 令和3年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
茶院A遺跡	2019127	1	田下駄	(公財)元興寺文化財研究所	759,000	2,757,700
細池寺道上遺跡	2014001	2	井戸側部材	(公財)元興寺文化財研究所	1,998,700	

表17 令和3年度新潟市文化財センター決算額

■歳入

(一般会計)

区分	決算額(円)
○使用料及び賃借料	1,018,717
文化財センター設備使用料	5,700
行政財産使用料	1,013,017
○国庫補助金	25,465,000
小規模緊急発掘調査	7,700,000
史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	4,365,000
文化財センター保存処理・活用事業	10,974,000
古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の保存・活用事業	2,426,000
○諸収入	832,830
受託事業収入	0
小規模緊急発掘調査	0
雑入	832,830
コピー代実費	3,530
文化財センターその他雑入	451,500
弥生の丘展示館その他雑入	377,800
合計	27,316,547

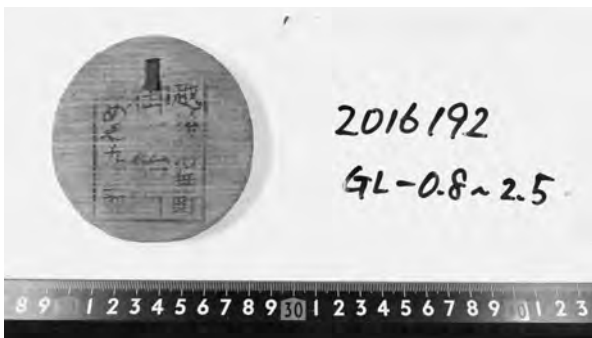
■歳出

(一般会計)

区分	決算額(円)
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	15,634,059
小規模緊急発掘調査費	15,634,059
○史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	8,813,449
○文化財センターの管理運営	60,131,109
○古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の管理運営	16,424,159
合計	101,002,776



木製品 保存処理前(近世新潟町跡)



木製品 保存処理後(同上・トレハロース処理)

IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

史跡古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期・終末期の高地性環濠集落及び新潟県内最大規模の古津八幡山古墳などからなる遺跡であり、平成17年7月に国史跡に指定されている（平成23年2月に追加指定）。

現在は「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として保存・活用が行われており、環濠や竪穴住居、古墳などを復元整備した「史跡公園」と、そのガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」からなる。

平成28年度には史跡の保存・活用の指針となる保存活用計画を策定し〔新潟市教委2017〕、平成29年度から「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」（以下「推進委員会」）及びその下部組織である「古津八幡山遺跡調査指導部会」によって保存・活用を推進している。推進委員会の詳細についてはIV 3に記載している。

なお、史跡古津八幡山遺跡及び「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」のこれまでの保存・活用などの概要については、『年報』第1号〔渡邊2014c〕や整備報告書〔新潟市教委2013・2015〕、保存活用計画〔新潟市教委2017〕などで記載されている。

1 資料の公開・展示

(1) 概要

古津八幡山遺跡の麓に位置する弥生の丘展示館は、展示室と体験学習室などからなり、古津八幡山遺跡のガイダンス施設として活用事業の核となる施設である。

常設展 展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器などを約500点展示するほか、弥生時代のムラの様子を再現した復元ジオラマ模型や、古津八幡山遺跡やこれまでの発掘調査成果などを見ることができるガイダンスシアターなどがある。また、低年齢層にも遺跡への親近感や興味を持ってもらえるよう、考古イラストレーターの早川和子氏によ

る時代ごとの復元画を展示室壁面に展示している。

企画展 令和3年度は3回の企画展を開催した。企画展2は（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団との共催で、新潟県埋蔵文化財センターを第1会場、弥生の丘展示館を第2会場として開催した。また、各企画展において展示解説を行ったほか、関連講演会を2回実施した（表1）。各企画展の詳細についてはIV 1(2)～(4)に記載している。

2回の関連講演会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場の定員を収容人員の半分（40人）とし、事前申し込み制にするとともに、オンラインでの同時配信も行った。なお、2回目の講演会は「まん延防止等重点措置」が県内全域に適用されていたこともあり、オンライン配信での聴講の方が多かった。会場ではアクリル板での仕切りや、空調・窓を開放しての換気のほか、検温やアルコール消毒、マスク着用などの対策を講じた。

講演会内容やアンケート結果などをまとめた記録集〔新潟市文化財センター2022〕を刊行したほか、講演会の資料等をホームページで一部公開している。記録集は2回の講演会に参加し、かつ希望する方へ贈呈したほか、市内の図書館や関係機関などへ配布した。（相田泰臣）



古津八幡山遺跡航空写真（南から）

表1 令和3年度弥生の丘展示館企画展一覧

年度 毎の 番号	企画展名	会期	企画担当	来館者数	開催講演会・イベント			
					演目・イベント名	開催日	講師	参加者数（人）
1	古津八幡山遺跡発掘調査速報展 —令和2年度の発掘調査成果—	2021/4/27（火） ～9/5（日）	相田泰臣	11,541	展示解説	2021/5/23（日）	相田泰臣	21
2	倭国大乱～律令国家成立までの越後平野	2021/9/14（火） ～12/12（日）	相田泰臣	6,823	関連講演会 「東海からみた邪馬台国時代の新潟 —登呂の洪水以後の東日本—」	2021/10/17（日）	篠原和夫氏 （静岡大学人文社 会科学部教授）	65 （うちオンライン 29）
					展示解説①	2021/10/17（日）	相田泰臣	20
					展示解説②	2021/11/28（日）	相田泰臣	7
3	新津丘陵の縄文遺跡 ～文様と形のうつり変わり～	2022/1/5（水） ～3/27（日）	田中耕作	5,379	関連講演会 「新津丘陵の縄文遺跡 ～縄文土器の形と文様の変化～」	2022/2/6（日）	田中耕作	70 （うちオンライン 45）
					展示解説	2022/2/13（日）	田中耕作	15

(2) 企画展1「古津八幡山遺跡発掘調査速報展 —令和2年度の発掘調査成果—」

会 期 令和2年4月27日(火)～9月5日(日)

担 当 相田泰臣

入館者数 11,541人

展示概要 史跡古津八幡山遺跡では、史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡外における遺跡のさらなる状況把握を目的とした発掘調査を行っている。

令和2年度は、標高約25mの史跡指定地外において発掘調査を行い、古津八幡山遺跡で最大の大型竪穴建物の内部構造などが明らかになった。この建物は一辺9.5mと建物の規模が大きく、6本柱構造であること、炉や貯蔵穴を伴わないことなどから、一般的な居住用の建物ではなく、特別な目的で利用された建物と推測され、弥生時代から古墳時代へと移行する社会の激動期を反映したシンボリックな建物であったと考えられる。

企画展では大型竪穴建物から出土した土器や鉄器、石器など約100点のほか、これまでの調査で出土した遺物などを展示するとともに、調査写真やイラストなどを掲示し、展示・解説を行った。

なお、令和3年度の発掘調査では、この大型竪穴建物の北西約150mの場所で遺跡内最大の方形周溝墓が新たに1基発見され、その内部で3基の埋葬施設が確認された。調査成果については、今後も速報展やホームページなどで公開していきたい。

展示構成

1) はじめに 2) これまでの調査経緯 3) 弥生時代の建物 4) 令和2年度の発掘調査成果 5) 県内における大型竪穴建物 6) 北陸における大型竪穴建物 7) 県内・北陸における大型竪穴建物の比較 8) 古津八幡山遺跡の大型竪穴建物の性格と遺跡の動向

主要展示 3) 弥生時代の建物では、古墳時代の鏡に描かれた建物を示し、当時、どのような建物が存在したのかを紹介した。

4) 令和2年度の発掘調査成果では、古津八幡山遺跡で最大の一辺9.5mの大型竪穴建物について、炉や貯蔵穴を伴わず、多柱(6本柱)構造で排水溝を伴うなど、明らかになった調査成果について、イラストを交えて説明した。

5) 県内における大型竪穴建物・6) 北陸における大型竪穴建物・7) 県内・北陸における大型竪穴建物の比較では、県内や北陸における大型竪穴建物を提示し、6) で県内や北陸の主要な大型竪穴建物を集成するとともに、古津八幡山遺跡と対比した。

さらに、8) 古津八幡山遺跡の大型竪穴建物の性格と

遺跡の動向では、古津八幡山遺跡における大型竪穴建物の出現や土地利用の動向について考えた。

展示解説 展示担当による解説を1回開催した。

日 時 令和3年5月23日(日)午後1時30分～

会 場 弥生の丘展示館展示室

参加者数 21人

まとめ 平成29年度から古津八幡山遺跡北域の史跡指定地外で行っている保存・活用目的の発掘調査は令和4年度で一旦終了することになるが、今後もタイムリーな情報を発信していく予定である。

(相田泰臣)



展示風景 (展示室)



展示風景 (展示室)



展示解説風景 (展示室)

(3) 企画展2「倭国大乱～律令国家成立までの越後平野」

会 期 令和3年9月14日(火)～12月12日(日)

担 当 相田泰臣

入館者数 6,823人

展示概要 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団と弥生の丘展示館の2館が共催して実施した初の企画展である。新潟県埋蔵文化財センターを第1会場、弥生の丘展示館を第2会場として開催した。対象とした時期は、倭国を卑弥呼が治めたとされる弥生時代後期から、国家が成立する7世紀までとした。

当時の越後平野は、西側から情報やモノが伝播する日本海側最北の地である一方、北海道あるいは東北北部など北方の情報やモノが分布する最南の地でもあり、ほかにもさまざまな地域の情報やモノが伝わってきた地域である。

弥生の丘展示館の裏山にある国史跡古津八幡山遺跡は弥生時代後期の高地性環濠集落の北限域に位置する。また、菖蒲塚古墳は日本海側における前方後円墳の分布の北限域でもある。

一方、弥生時代後期から古墳時代にかけて、「続縄文土器」と呼ばれる北海道や東北北部の系譜の土器が出土する。また、飛鳥時代にも北方系土器が出土しており、淳足柵が設置されるなど中央政権の日本海側の最北地でもあり、南北の境界域として位置づけられる。

企画展では、越後平野の遺跡や出土品を展示・紹介するとともに、それらを通して国家形成段階の激動期における越後平野の重要性について整理した。

展示遺物は土器を中心に土製品、石器・石製品、木製品、金属製品など両会場合わせて約500点を数えた。

展示構成(第2会場のみ)

1) はじめに 2) 北限の高地性環濠集落 3) 北限の前方後円墳 4) 布留系甕 5) 底部穿孔土器 6) 線刻土器 7) 続縄文土器 8) 北限の城柵 9) おわりに

主要展示 2)・3)では、日本海側北限域の高地性環濠集落である古津八幡山遺跡や、同じく北限域の前方後円墳である菖蒲塚古墳などを紹介した。

また、4)では新潟市内の遺跡から出土した布留系甕や山陰系土器を、6)では道正遺跡で出土した準構造船の線刻土器などを展示した。

7)・8)では、北方系遺物である続縄文土器を展示するとともに、7世紀に設置された淳足柵と同時期の資料や北方系土器などについて展示、紹介した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 東海からみた邪馬台国時代の新潟
一登呂の洪水以後の東日本一

講 師 篠原和大氏(静岡大学人文社会科学部教授)

日 時 令和3年10月17日(日)

午後1時30分～3時30分

会 場 新潟県埋蔵文化財センター研修室

参加者数 65人(うちオンライン29人)

展示解説 担当による展示解説を2回開催した。

日 時 10月17日(日)午後3時45分～

11月28日(日)午後1時30分～

参加者数 20人、7人

ま と め 新潟県埋蔵文化財センターと弥生の丘展示館は「花と遺跡のふるさと公園」内にあり、徒歩で約5分程の場所に位置する。両館とも展示スペースは広いとは言えないため、共催することで企画に沿った資料をより多く展示することができた。また、見学者もより多くの資料を近接した展示会場で見学することができた。

なお、両館で同じチラシやポスター、パンフレットを活用し、広報することでの相乗効果や、費用面での削減があった。(相田泰臣)



展示風景(展示室)



講演会風景(新潟県埋蔵文化財センター)

(4) 企画展3「新津丘陵の縄文遺跡 —文様と形のうつり変わり—」

会 期 令和4年1月5日(水)～3月27日(日)
担 当 田中耕作
入館者数 5,379人

展示概要 新津丘陵の東西両側には、信濃川と阿賀野川という大河の作った平地が広がり、ここを見下ろす丘陵の平坦面には、縄文時代前期から晩期の遺跡が数か所で発見されている。縄文時代は主食であるドングリ類などの植物採集と、狩猟・漁労による生活が約13,000年間続いた。

展示では、新津丘陵とその周辺の遺跡から出土した縄文土器に焦点を当て、土器の形や文様の変化、製作方法と使われ方などについて紹介した。

展示構成

- 1) 縄文時代の時期区分と歴史のモノサシ
縄文土器の作り方と文様の付け方、使用痕
- 2) 縄文前期から晩期の遺跡と遺物の紹介
各時期の遺跡分布図と土器型式の分布圏
- 3) 複製模型とパネルによる解説

主要展示 縄文時代が始まる約15,500年前から現在までを1mの年表として作製したところ、縄文時代と弥生時代以降の割合が5:1にもなり、縄文時代がいかに長かったかを視覚的に実感できるようにした。

縄文前期の土器は、居村遺跡E地点と草水町2丁目窯跡から少量出土している。丘陵東端の平遺跡は中期初め頃と中期終わりから後期前半の大きな遺跡である。丘陵北端の秋葉遺跡は中期初めから後期初め頃で、深鉢の上半が王冠型ながら下半が縄文という王冠型類似土器が出土している。この遺跡には、東北北部の中期前半の円筒上層d式土器があり、西蒲区の大沢遺跡採集の円筒上層c・d式も展示した。中期から晩期の原遺跡は丘陵西端に立地する。晩期後半の大沢谷内遺跡は丘陵から西へ1kmの平地にあり、天然アスファルトを精製している。

模型資料には、粘土板に縄や竹管などの施紋具を使って文様を再現し、土器底面の敷物圧痕は油粘土で型取りして並べた。敷物の参考として、クズ・カラムシ・ホウ・クサギ・ササの葉は押し葉にしてからラミネートし、網代はマタタビ、スダレ状編物はカラムシで作製した。

「土器実測図作製のしくみ」では、素焼きの複製土器を縦方向に1/4カットし、外面・内面・断面の位置を実測図と対比させ、マコ・キャリパーの使い方を示した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 新津丘陵の縄文遺跡
講 師 田中耕作(新潟市文化財センター)

日 時 令和4年2月6日(日)
午後1時30分～午後3時30分

会 場 文化財センター研修室
参加者 70人(うちオンライン45人)

展示解説 展示担当者による解説を行った。

日 時 令和4年2月13日(日)
午後1時30分～

参加者 15人

考古学や縄文土器に興味のある市民向けに、土器を扱う上での基本的な考え方や約束事といった専門知識をやさしく解説することを講演の主目的とした。土器は時代のモノサシと言われるが、土器の新古と同時性について、層位学・型式学・一括遺物という方法で説明した。

また、土器の作り方に関連し、粘土採掘坑や保存状態の粘土塊、縄文土器の文様の付け方や、深鉢の形が後期中頃から大きく変わることなどを紹介した。

ま と め 日本の考古学界をけん引された佐原真氏が常々言われていた「考古学をやさしくしよう、楽しくしよう」を念頭に、難しい専門用語をなるべく簡単な言葉に置き換えて、展示や講演会に反映させた。展示では、解説パネルと共に模型を用いて縄文人の技術を伝えるよう工夫したが、特に「土器実測図作製のしくみ」は、考古学研究者にとって常識である実測図の描き方を市民に理解してもらえる独創的な模型展示と言えよう。

(田中耕作)



展示風景



展示：土器実測図作成のしくみ

2 教育普及活動

(1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる有料・無料の体験学習メニューを月ごとに決め(表2・3)、季節やこれまでの利用状況、体験者のアンケートなどから、必要に応じて年初に見直しを行っている。

令和3年度の体験学習の参加者数は、個人1,403人(前年度比58人減)、団体400人(同70人増)、全体1,803人(同12人増)であり、多少の増減はあるものの、全体の利用者数は横ばいとなっている。

個人の体験学習では、なるべく多くのメニューを体験してもらうために、今年度から午前は無料体験を、午後は有料体験を人数・時間制限付きで実施するという対応を行った。なお、長期休暇のため体験人数が増加する8月中は午前午後ともに有料体験とするなど例外もある。体験者数をみると、特に5月の連休(5/1~5/5)が顕著で、5日間の合計利用人数が242人であった。連休期間中は有料体験を休止し、無料体験のみ実施したことが要因として挙げられる。

団体の利用は、おおむね10人以上の場合に事前の申し込みをお願いしている(表4・5)。令和3年度は団体利用件数19件(前年度比4件増)、利用人数560人(同88人増)と増加傾向にある。団体分類別にみると、小学校の利用は前年度比で、件数増減なし、利用人数10人増であった。中学校の利用は0件(前年度比増減なし)、高校の利用が1件(前年度比1件増)あった。学校以外の団体利用は、前年度比3件増、利用者数43人増と前年度に比べやや増加した。令和2年度は、比較的団体利用の多い5・6月に新型コロナウイルス感染拡大防止を理由とした臨時休館期間が設けられた。そのため、令和3年度は相対的に利用数が増加したのだと推測される。

(2) イベントなど

令和3年度も引き続きイベントや体験学習、企画展の情報などをまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育庁文化行政課が年2回発行している『新潟まいぶんナビ』に企画展やイベントなどの情報を提供し掲載してもらっている。

イベントは、市報や新潟市の公式ホームページなどで広報し、参加者を事前に募集して月に1回程度実施している(表6)。前年度に引き続き、許容人数と新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、募集定員を減らして各回のイベント参加者数が10人程度になるよう調整を行った。今年度は、前年度に比べ、各イベントの応募者数が増加傾向にあった。中でも「発掘体験」、「ミニチュ

ア土器を焼こう」は多数の応募があったため、2日間に分けて実施した。

また、例年弥生の丘展示館では、新潟県立植物園をメイン会場として行う「にいつ花ふるフェスタ」の協賛イベント、「花と遺跡のふるさとフェスタ」と、新潟県埋蔵文化財センターと連携したイベント「まいぶん祭り」を開催しているが、今年度は前年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。

(3) 入館者数

令和3年度の弥生の丘展示館来館者数(表7)は、個人26,184人(前年度比2,447人減)、団体560人(前年度比88人増)、全体26,744人(前年度比2,359人減)であった。前年度よりも団体の入館者数は増加したが、個人の入館者数は減少、入館者数全体も減少した。

個人の入館者数の減少は隣接する施設の催し等によって左右される傾向にある。特に、新潟市新津美術館において親子連れを対象とした展覧会が開催されると、弥生の丘展示館の入館者数・体験者数も増加する傾向にある(図1)。今年度は「リサ・ラーソン展」「MINIATURE LIFE展2」の影響が大きく、大型連休や学校の長期休暇もあった5・3月の入館者数が増加している。

団体入館者数の増加については、前述のとおり5・6月の利用の影響が大きいと考えられる。(平山千尋)



春の染めあそび



発掘体験

表2 令和3年度弥生の丘展示館体験学習一覧

無料/有料	メニュー	料 金 (円)	所要時間 (分)
無料	火起こし体験	-	20
	弓矢体験	-	10
	石斧体験	-	10
有料	土笛・土鈴・土面を描こう	200	30~50
	勾玉・管玉づくり	200	50
	鹿角ペンダントづくり	200・500	30
	銅鏡づくり	800	50
	銅鐸づくり	1,300	30
	古代のプレスレットづくり	200	30
	土面を描こう	200	30



ミニチュア土器を焼こう

表3 令和3年度弥生の丘展示館体験学習参加者数
(一人で複数の体験した場合などは別個にカウントしているため、来館者数より多い場合がある)

月	体験学習メニュー		参加者数(人)				
	屋内体験 (有料)	野外体験 (無料)	個人	団体	合計	1日 平均	累計 (開館から)
4月	土鈴・土笛・古代のプレスレット	火起こし	137	0	137	5.5	65,288
5月※	土鈴・土笛・古代のプレスレット	石斧	336	32	368	14.7	65,656
6月	勾玉・管玉	弓矢	176	174	350	13.5	66,006
7月	勾玉・管玉	弓矢	155	18	173	6.9	66,179
8月	銅鏡・銅鐸	-	90	0	90	3.5	66,269
9月	土鈴・土笛・土面を描こう	火起こし	68	0	68	3.6	66,337
10月	土鈴・土笛・土面を描こう	火起こし	91	102	193	7.1	66,530
11月	銅鏡・銅鐸・鹿角ペンダント	-	60	74	134	5.8	66,664
12月	銅鏡・銅鐸・鹿角ペンダント	-	22	0	22	1.3	66,686
1月	勾玉・管玉・土面を描こう	-	55	0	55	2.3	66,741
2月	勾玉・管玉・土面を描こう	-	34	0	34	1.5	66,775
3月	銅鏡・銅鐸・古代のプレスレット	火起こし	179	0	179	6.6	66,954
合 計/平 均			1,403	400	1,803	6.3	

※5月の連休(5/1~5/5)は無料体験の「石斧体験」と「キーホルダーづくり」(雨天日のみ)を実施

表4 令和3年度弥生の丘展示館団体利用一覧

小・中学校・その他学校

来館日	団 体 名	人数 (人)
5月14日(金)	県立出雲崎高校	35
6月3日(木)	庄瀬・新飯田・茨曾根小学校	37
6月18日(金)	新潟小学校	91
6月22日(火)	升潟小学校	16
6月29日(火)	金津小学校	43
7月6日(火)	小合東小学校	11
7月13日(火)	阿賀小学校	48
10月15日(金)	三条市大島小学校	12
10月21日(木)	大野小学校	79
11月5日(金)	早通小学校	39
合 計		411

小・中学校以外

来館日	団 体 名	人数 (人)
5月21日(金)	ホテル小柳	11
5月26日(水)	亀田福寿大学	22
5月28日(金)	西遊旅行	7
6月3日(木)	シニアカレッジ	9
7月4日(日)	ボーイスカウト新潟第5団ビーバー隊	19
7月31日(土)	柏崎市立博物館少年郷土探検教室	35
10月1日(金)	西区南ヶ丘信和会	18
10月10日(日)	県少年少女考古学教室	18
10月19日(火)	秋葉里山ガイド	10
合 計		149

表5 令和3年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数(件)	人数
保育施設・幼稚園	0	0
小学校	9	376
中学校	0	0
大学	0	0
その他学校	1	35
動く市政教室	0	0
行政・議会関係	0	0
自治会・町内会など地域コミュニティ関係	2	37
各種サークルなど	1	10
企業企画ツアーなど	1	7
企業	1	11
福祉施設	0	0
その他	4	84
合計	19	560

表6 令和3年度弥生の丘展示館イベント・公開講座一覧

開催日	内容	人数
5月15日(土)	発掘体験1	15
5月22日(土)	発掘体験2	9
5月23日(日)	展示解説①	21
6月12日(土)	春の染めあそび	14
7月14日(水)	アンギン編み①	9
9月1日(水)	アンギン編み②	8
9月29日(水)	アンギン編み③	6
10月10日(日)	古津八幡山遺跡発掘調査現地説明会	171
10月13日(水)	はじめての土器づくり	12
10月17日(日)	展示解説②	20
11月13日(土)	秋の染めあそび	12
11月28日(日)	展示解説③	7
12月4日(土)	木と実のクラフト	9
2月13日(日)	展示解説④	15
3月12日(土)	ミニチュア土器を焼こう1	9
3月19日(土)	ミニチュア土器を焼こう2	9
合計		346

表7 令和3年度弥生の丘展示館来館者数

月	開館日数	来館者数(人)				累計(開館から)
		個人	団体	全体	1日平均	
4	25	2,360	0	2,360	94	380,980
5	25	3,701	75	3,776	151	382,396
6	26	2,402	196	2,598	100	381,218
7	25	2,053	113	2,166	87	380,786
8	26	2,639	0	2,639	102	381,259
9	19	1,389	0	1,389	73	380,009
10	27	2,748	137	2,885	107	381,505
11	23	2,166	39	2,205	96	380,825
12	17	600	0	600	35	379,220
1	24	1,383	0	1,383	58	380,003
2	22	890	0	890	40	379,510
3	27	3,853	0	3,853	143	382,473
合計/平均	286	26,184	560	26,744	94	405,364

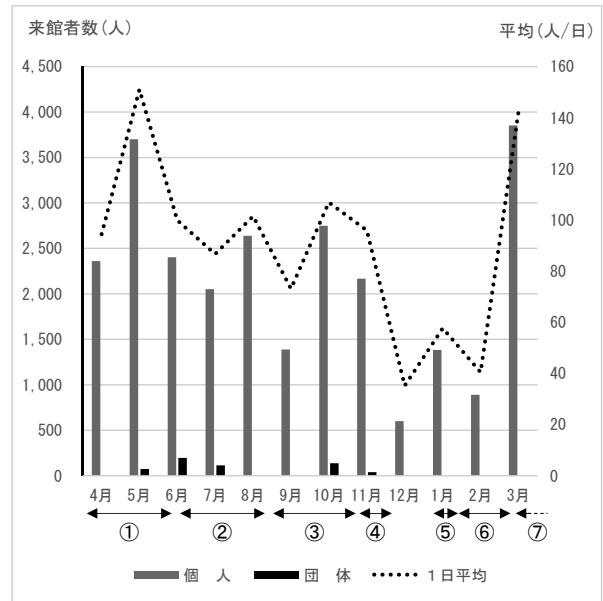


図1 令和3年度弥生の丘展示館来館者数の推移

※グラフ下の矢印は新津美術館で行われた展覧会の期間を示す

①リサ・ラーソン展 創作と出会いをめぐる旅

4月10日～6月13日

②創業200周年記念 フィンレイソン展

6月26日～8月29日

③富野由悠季の世界

9月4日～11月7日

④第15回秋葉区美術展覧会

11月20日～11月28日

⑤第17回新潟教育アート展

1月4日～1月9日

⑥秋葉区ゆかりの作家たち

1月22日～3月6日

⑦MINIATURE LIFE展2 田中達也見立ての世界

3月19日～5月15日



団体利用での展示解説の様子

3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進

(1) はじめに

平成28年度に策定した『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』（新潟市教委2017）（以下、保存活用計画）などを推進していくため、令和3年度は昨年度に引き続いて古津八幡山遺跡の確認調査を実施した。

また、古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会（以下、推進委員会）を1回、「古津八幡山遺跡調査指導部会」（以下、調査指導部会）を2回開催した（表8）。

なお、3月の推進委員会及び調査指導部会の2回目については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、郵便やメールを利用して議題報告、委員意見の聴取などを行った。

(2) 令和3年度古津八幡山遺跡確認調査

保存活用計画に則し、史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡指定地外における遺跡の状況把握を目的とした確認調査を平成29年度から実施している。

令和2年度に引き続き遺跡北東域の史跡指定地外、標高約50mの遺跡最高所から北東へ一段下がった丘陵中腹域、標高約25mの平坦面及び緩斜面域において確認調査を実施した（第24次調査）。

調査の結果、周溝内側で長軸9.6mと古津八幡山遺跡で最大となる弥生時代後期の方形周溝墓や、1辺約5mと推定される弥生時代後期の竪穴建物1棟などが新たに確認された。丘陵中腹域において墓や弥生時代後期の建物が発見されたのはいずれも初となる。また、方形周溝墓の内部からは3基の埋葬施設が確認され（令和4年度の調査でさらに1基の埋葬施設を追加で確認）、弥生時代の墓としては県内で初の複数埋葬事例となった。なお、うち1基の埋葬施設は木槨もしくは木槨状施設の可能性がある。

上記調査成果については、10月10日（日）の現地説明会や、2月27日（日）の市文化財センター主催の遺跡発掘調査速報会などで報告した。現地説明会には174人、速報会には会場97人、オンライン78人の参加があった。

令和4年度は方形周溝墓の各埋葬施設の規模や構造の把握および周辺における墓の有無などを確認する計画である。

(3) おわりに

平成29年度からの丘陵中腹域における調査によって、古津八幡山遺跡で最大となる大型竪穴建物や方形周溝墓が新たに発見されるなど、古津八幡山遺跡や当時の社会を考えるうえで重要な情報が得られた。古津八幡山遺跡の新たな価値が発見されたといえる。（相田泰臣）

表8 古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会・同調査指導部会の経過

開催月	名称	開催数 (通算)	報告・協議・検討事項
2021年9・10月	調査指導部会	第9回	・発掘調査の現地指導
2022年3月	推進委員会	第6回	・令和3年度の発掘調査結果、整備・活用関係、運営・連携体制関係の報告
	調査指導部会	第10回	・令和4年度の発掘調査計画、整備・活用関係、運営・連携体制関係について



方形周溝墓調査風景



方形周溝墓 周溝遺物出土状況



竪穴建物



現地説明会の様子

V 研究活動—資料報告・研究ノートなど—

1 新潟市西蒲区重稲場遺跡群の前期終末縄文土器と黒曜石

—信州産黒曜石を多用する縄文時代前期終末集落の位置づけ—

前山 精明

(1) はじめに

日本海に接して連なる「弥彦・角田山塊」の北端「角田山」の東麓には、縄文時代前期終末の遺跡が10箇所あまり分布し、新潟県内におけるこの時期の遺跡密集地帯をなしている。中でも重稲場（おもいなば）遺跡は、上原甲子郎氏による報告〔上原1956〕以来、新潟県内を代表する当該期の遺跡として知られてきた。本遺跡については土器の一部がしばしば取り上げられてきたが〔山口1981、新潟県1983、新潟大学考古学研究部1995〕、1995年に刊行された『巻町史 通史編1 考古』において遺跡の概要を筆者が示し、その実態が明らかになった〔前山1995〕。同書では重稲場遺跡に隣接する道上（どうだ）・上田（うえた）の2遺跡を含めて「重稲場遺跡群」としてとらえ、重稲場を第1遺跡、道上を第2遺跡、上田を第3遺跡と呼称した。その理由は、三遺跡が互いに接近しながら前期終末の短期間に形成され、いずれの遺跡も信州産黒曜石の多用を特徴とするからである。現在これらは別個の遺跡として登録されているが、上記のような名称が既に一般化しているため〔寺崎1999、大工原2002、今村2006bなど〕、本稿でもこれを用いる。

巻町史では二つの課題が残った。第一点は主要資料の一部が提示できておらず、土器群全般の理解も十分でなかったこと、第二点は本遺跡群で多用される黒曜石について具体的な言及ができなかったことである。よって本稿では、重稲場遺跡群の概要を(2)で記した後、前期終末土器と黒曜石の主要資料を(3)・(4)で提示し、角田山麓の前期終末における本遺跡群の位置づけを考える。

(2) 重稲場遺跡群の概要

角田山周辺の縄文時代前期終末（真脇式～朝日下層式平行期）遺跡の位置を第1図上、本遺跡群付近の地形を同図下に示した。図のように、第1遺跡～第3遺跡は南北300mの範囲に分布しており、北から順に概要を記述する。

重稲場第1遺跡（重稲場遺跡）

本遺跡は、上原甲子郎氏によって1940年代に発見された。同氏の記述〔上原1956〕によれば、遺跡は通称「木島山」の一角に広がりを持ち、時期を異にする複数地点に分かれたという。しかし、巻町史編纂にあたり実見した上原氏所蔵資料から、そうした記述を検証することは

できなかった。

遺跡が立地する木島山では1960年代中ごろに土砂採取が行われ、ほぼ全域が削平された。本稿で示す遺物の大半は南端に残る丘陵斜面の末端から山口栄一氏と筆者が1960年代末から1970年代にかけて採集したもので、「南部地区」と呼称する。これとは別に南部地区の北方100mほどの削平地北端付近でも遺物を採集しており、「北部地区」と呼称する。採集遺物は前期終末土器、石鏃、礫石錘、石核・剥片、玦状耳飾などからなる。

重稲場第2遺跡（重稲場西遺跡）

木島山の西方に連なる細長い低丘陵、通称「道上」地内に所在する。1960年代に行われた土砂採取で全域が失われ、現在は削平区域が畑地として利用されている。現存する遺物は削平以前に若月昭宏氏が採集したもので、前期終末土器、石鏃、礫石錘、磨製石斧、石匙、石鏃、石核・剥片、骨針からなる。本遺跡は、その後2016年に「重稲場西遺跡」として登録された。

重稲場第3遺跡（上田遺跡）

第2遺跡の南西に隣接する東西100m・南北80mほどの台地上に立地する。上原甲子郎氏によって1940年代に発見され、同氏によって概要が報告されている〔上原1956〕。本遺跡は果樹園や畑として利用され、本遺跡群の中で主要部分が残る唯一の地区となっていたが、1990年に土砂採取の計画が明らかになり、同年10月に確認調査を実施した。調査は1m四方の試掘地を40箇所設け、北東部と南西部で遺物包含層の遺存を確認した。この結果をうけて、北東地区122㎡、南西地区192㎡を対象とした発掘調査を1991年6月上旬から8月下旬までの間に行った。

遺跡が広がる台地は標高13～14m台を測り、沖積地との比高3mほどの平坦地をなす。遺物包含層が比較的良好に遺存していた南西地区では、基盤層（赤褐色粘土）上に30cmほどの腐植土が堆積し、I層（黒褐色表土）下のII層（暗褐色軟質土）が本来の遺物包含層にあたる。

遺構は北東地区から竪穴住居跡1棟・土坑2基など、南西地区から竪穴住居跡状遺構2箇所・土坑6基などを確認した。北東地区の竪穴住居跡は、長軸5.5m以上・短軸3.8mの楕円形を呈する。主柱穴とみられる4基のピットを確認したが、炉跡を見出すことはできなかった。

- 1 重稲場第1遺跡 (重稲場遺跡)
- 2 重稲場第2遺跡 (重稲場西遺跡)
- 3 重稲場第3遺跡 (上田遺跡)
- 4 大沢遺跡
- 5 さかしの遺跡
- 6 前表遺跡
- 7 中田割遺跡
- 8 南赤坂遺跡
- 9 峰岡城山遺跡
- 10 豊原遺跡
- 11 御井戸A遺跡

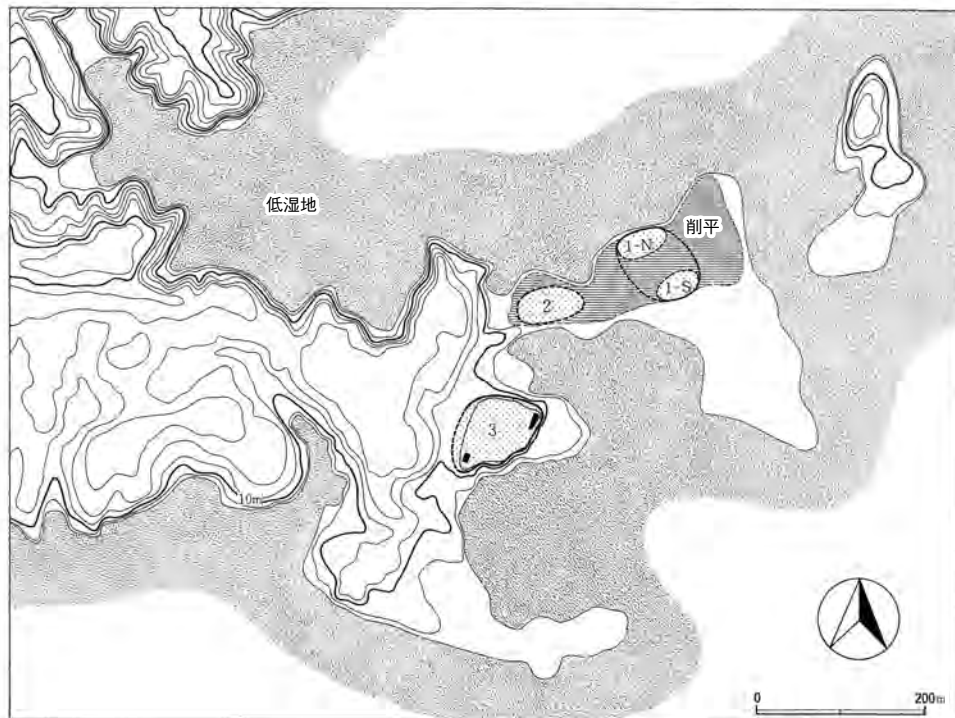
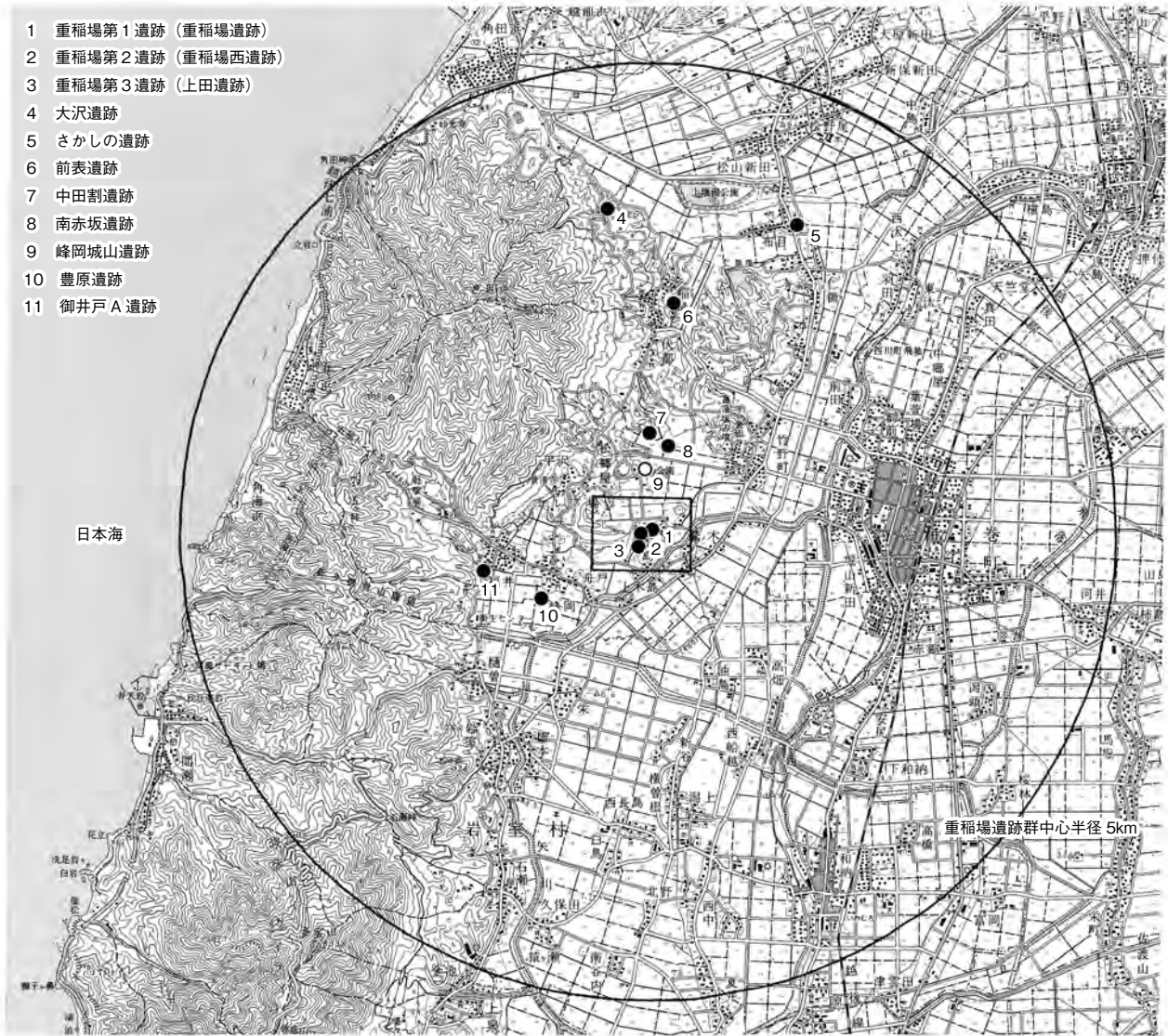


図1 縄文時代前期終末(真脇式~朝日下層式期)の遺跡(●)と峰岡城山遺跡(○)の位置

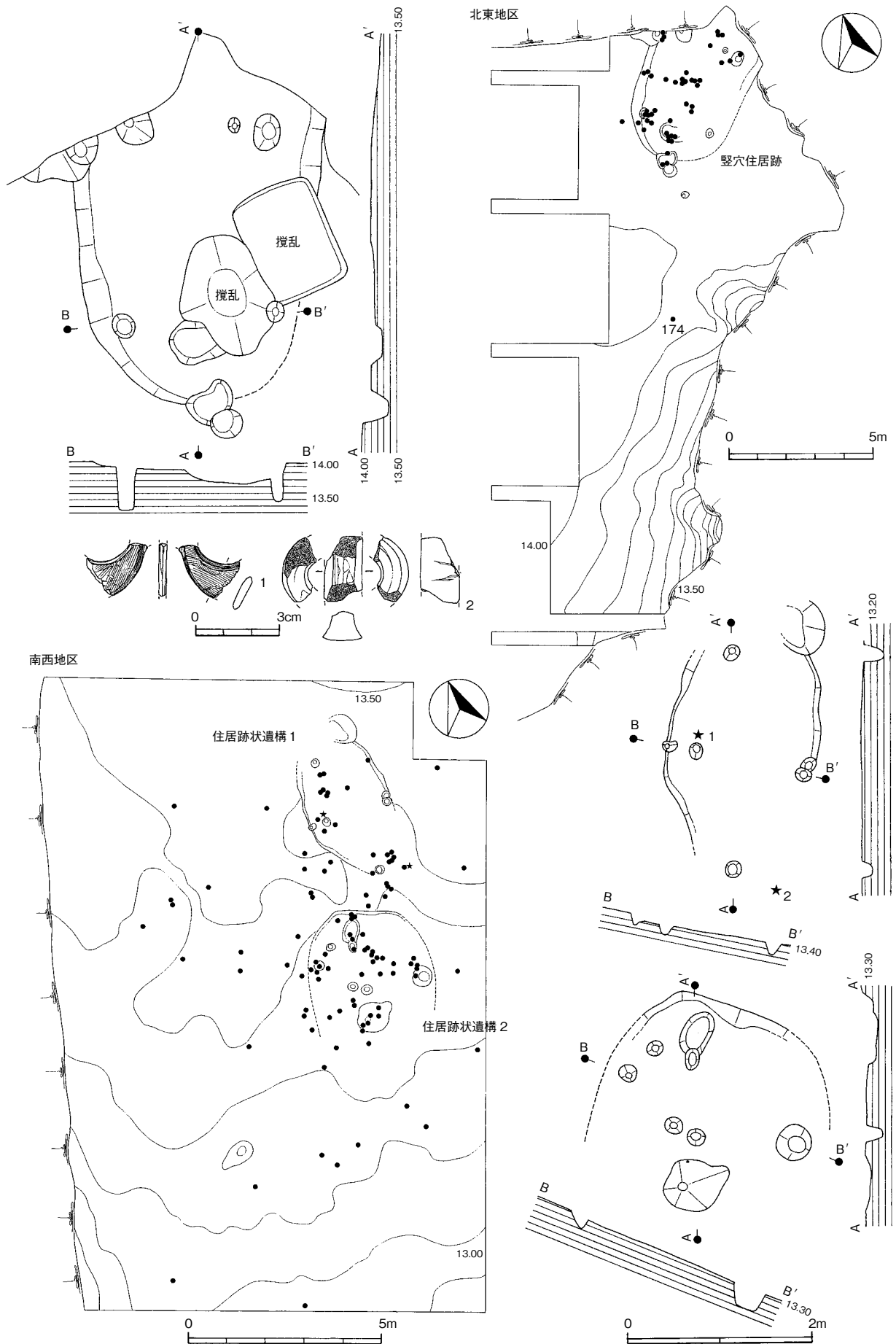


図2 重稲場第3遺跡（上田遺跡）の遺構と掲載土器・装身具の出土地

(第2図左上)。南西地区の竪穴住居跡状遺構は、ともに浅い落込で、明確な柱穴や炉跡の確認には至らなかった。北側の遺構1は、長軸4m前後・短軸2.3mの楕円形をなす。遺構2の全体形は不明であるが、海拔13.2mラインに認める緩やかな窪みを南端部と見なした場合、北東地区と類似規模の楕円形住居の可能性がある(第2図右下)。

北東地区からは、竪穴住居跡内を中心に93個体以上の前期終末土器と石鏃3点、磨石・敲石類3点、石皿1点、砥石6点、石核・剥片類799点が出土しており、第2図右上に本稿掲載土器の出土位置を示す。南西地区からは竪穴住居跡状遺構の周辺を中心に414個体以上の前期終末土器と石鏃7点、礫石錘3点、打製石斧1点、磨石・敲石類10点、石皿3点、石錐7点、砥石4点、石核・剥片類1928点、「の」字状石製品1点(第2図1)、土製球状耳飾1点(同図2)が出土した。土製球状耳飾は中間部破片で、角田山麓では所属時期が前期終末に特定できる唯一の資料である。同図左下に「の」字状石製品・土製球状耳飾と本稿掲載土器の出土位置を示す。以上のような出土遺物の他に南西地区隣接地から磨製石斧1点が採集されており、当該期の集落における基本的な用具を網羅する内容となっている。

(3) 前期終末土器

A 重稲場遺跡群の土器

第3図～5図に出土・採集地が明らかでない294点を示す。新潟市文化財センターが所蔵する第1遺跡採集資料と第3遺跡出土・採集資料については、未報告資料96点を加えて新たに図化した。巻町史掲載資料の中には器形などにいくつかの誤認があったため、本稿ではこれを修正した。

重稲場遺跡群の前期終末土器は、地区によって様相が異なる。筆者はこれを時期差と見なし、第1遺跡の主要部分を十三菩提式中葉のI群土器、第3遺跡南西地区出土資料を後葉古段階のII群土器とした〔前山1995〕。北陸編年に照らせば、前者は「真脇式」、後者は「朝日下層式」の古段階にあたるものである。

巻町史編纂から四半世紀以上が経過した中で、本遺跡群を取り巻く状況は大きく変化した。とりわけ第1遺跡の北1kmに位置する南赤坂遺跡で1993年に行った発掘調査において多量の前期終末土器が出土し、重稲場遺跡群の位置づけにあたり重要な知見がえられた。本遺跡群や南赤坂遺跡の前期終末土器については広域的な視点に基づく今村啓爾氏の論考〔今村2006b〕があり、これをふまえながら重稲場遺跡群の土器を再検討する中で、I群土器とII群土器がそれぞれ新旧二段階に区分できると考

えるに至った。

本遺跡群の土器は、大半が小破片によって占められる。そのため分類は文様に基づき、粘土紐貼付による浮線文を1類、浮線文と竹管沈線文を複合する2類、竹管沈線文に限定される3類、口縁部に隆帯・肥厚帯・沈線文・刺突文を施す4類、縄文のみの5類に区分する。このうち量的主体を占める1類・3類と土器含有物の特徴を個別資料の記述に先立ち以下に記す。

1類土器の施文手法はバラエティーに富んでおり、粘土紐に竹管工具の腹面を押し当て連続的な刺突を加えるA種(結節状浮線文)、粘土紐を竹管腹面で押し引くB種、粘土紐の裾に竹管工具の背面をなぞるC種、ソーメン状の粘土紐を貼付するD種、指頭によって粘土紐を成形するE種に大別できる。A種については、刺突角度が器面に対し鋭角なA1種と鈍角なA2種に区分する。後者は東北地方南部の大木式土器に特徴的な施文手法で、福島県法正尻遺跡〔福島県教委ほか1991〕や阿賀野川流域の猿額遺跡〔新潟県教委1995〕などで類例が出土している。D種については直線・曲線的に貼付するD1種と環状をなすD2種に細分する。後者は「チューブ・デコレーション」の可能性を指摘した資料である〔前山・龍田2017〕。

1類は施文法が時期的に変化する。太さ3～4mmのA1種はI群土器、B種・C種・D2種はII群土器の指標となる。B種とC種については、施文部位を断面図もしくは拓本に示した。●はB種、○はC種を表す。D1種による「波状浮線文」はI群土器、「鋸歯状浮線文」はII群土器を特徴づける文様である。南赤坂遺跡での知見に基づけば、浮線A1種に太目の粘土紐を並走させるもの、浮線A種による菱形文、波状口縁の中間部が緩やかに内折するもの、浮線E種はI群土器の中でも新段階の資料と見なされる。浮線文土器の多くは縄文を地文とする。その在り方はI群・II群で異なり、前者は横位施文の単節斜縄文が卓越する。後者は縦位施文の結束羽状縄文を多用し、II群新段階に至り木目状撚糸文が付随するようになる。

3類の中には前期終末前葉の「鍋屋町系土器」が含まれるが、主体をなすのは集合沈線文や竹管沈線文を施す「池田系土器」・「松原系土器」である〔今村2006a〕。このうち異方向の竹管沈線を集合施文するものや連続山形文はI群～II群古段階、格子目文やV字文はII群新段階の指標となる。

土器の含有物はバラエティーに富んでおり、ここでは次の3種に大別する。磨耗または破碎した多種にわたる岩石粒子と共に微細な石英を概して多く含むA種、破碎

した凝灰岩を多量に含むB種、石英の粗大な破碎粒子を多量に含むC種の別である。第3図～6図掲載資料の番号末尾には、A種を●、B種を○、C種を◎で示した。三者の中で主体を占めるのはA種である。その在り方は角田山麓の沢砂と特徴を異にし、現在の信濃川下流域の川砂と類似する。遺跡形成当時角田山の東麓付近に流れた旧信濃川またはその分流から採取した可能性を指摘したい。4類・5類の中には植物繊維を含む資料が見られる。角田山麓の豊原遺跡〔小野・前山ほか1987〕、南赤坂遺跡〔巻町教委2002〕や新発田市二夕子沢A遺跡〔新発田市教委2004〕の東北南部系土器に類例が確認されており、該当資料の断面図を網点で示す。このほか、微細な土器破片や黒曜石を含むものもあり、掲載番号末尾に前者を□、後者を★で示す。なお、実測図内の砂目は破損部位を表す。

①第1遺跡（重稲場遺跡）南部地区

150個体以上の前期終末土器が採集されており、第3図1～第4図102に主要資料を示す。このうち33点を新たに提示した。本地区採集資料は重稲場遺跡群の成立期から終末段階までの土器からなるが、I群古段階の資料が大半を占める。

1類（第3図1～45）

全体の60%あまりを占める主体グループである。I群古段階を主とし、これに若干のII群土器が付随する。

1～33・39～42はI群土器。1～19は幅3mmほどの浮線A1種を数条一単位で密集させ、山形・弧状・環状などの帯状文様を描く。1～6は正面形が台形をなした「裁頭波状口縁土器」。巻町史で器形を誤認していたため、図のように訂正する。1～3は筒状に作出された頂部資料で、3はその内面にあたる。4～6は中間部の内折口縁。4は波頂部付近の資料で、上端に透かしの一部が残る。17は中空に作出された突起が粘土帯で剥落する資料。三角形や楕円形の透かしと楕円形の彫去が施されており、前者を網点で示す。

20～31は浮線A1種を等間隔または単一に施す。このうち23は西日本的な色彩を認める資料である。24～31は、これに接して浮線D1種による波状文を配す。39～42は、浮線D1種のみで文様を描くグループで、39は裁頭波状口縁の中間部、41は注口と透かしをもつ。以上はI群古段階の浮線文土器を代表する資料となる。このほか、浮線A1種を菱形風に配す33は、I群新段階に属す可能性が高い。これらの資料は横位施文による単節斜縄文を地文とするケースが一般的で、縄文欠落個体（19・32）は少数例にとどまる。

以下の7資料は、本地区で数少ないII群土器である。

34は幅2mm弱の浮線A1種を帯状の横位文様下に等間隔に垂下させる。35～38は、浮線A1種による区画内に斜行格子目浮線文や鋸歯状浮線文を施す。35の鋸歯状文は、浮線B種による。43は球胴形土器の頸部に橋状把手を配し、把手上に横位、把手下に鋸歯状浮線文を施す。44は粘土紐が剥落するが、浮線B種によってV字文が描かれる。45の球胴形土器は、波状口縁の中間部資料。南赤坂遺跡の第8図97などに類似した橋状突起をもち、突起上の口端に二つの珠文、口縁部区画内に縦位の浮線C種を密集施文する。

2類（第3図46・47）

図示した2点のみで、ともにII群に属す資料である。球胴器形をなす46は、肥厚する口端に浮線C種を密に施し、口縁部の横位区画内に竹管集合沈線を充填する。47は縦位の竹管集合沈線下に短い粘土紐を斜位に貼付し、下端の竹管沈線上に連続的な刺突を加える。

3類（第3図48～70）

全体の30%あまりにとどまり、本遺跡群の中では最も占有率が低い点が特徴である。48・49は結節状沈線文と鋸歯状の三角形彫去を複合する鍋屋町系土器。本遺跡群において最も古様相を認める資料である。

50～58は集合沈線文を施し本地区の主体をなすグループで、I群古段階に属す資料と考えられる。50は南赤坂遺跡の第7図31に類似した突起をもつ。各資料は横位区画内に斜位や縦位沈線を施すものが一般的であるが、斜位や弧状の集合沈線を異方向に密接させ、水平感に欠ける58のような例も見られる。57は微細な土器片（シャモット）を多量に含む。

64～68は縄文を地文とし竹管沈線を施すグループで、本地区では連続山形文施文例が多い傾向にある。地文はいずれも横位施文によっており、65は結束羽状縄文、66は端部に結節をもった斜縄文を施す。これらはI群古段階～II群古段階までの資料と考えられる。

59～63はII群段階の資料である。59は球胴形土器の頸部に配した橋状把手が剥落したもの。把手上に横位の竹管沈線を密に施し、下端に楕円形突起を付す。60～63は集合沈線の上に浅い沈線を加えた格子目土器。いずれも格子目文を施した後、横位・斜位・弧状の竹管平行沈線を加える。

68～70は、上記グループとは特徴を異にする土器である。68は無文帯の下端に単沈線と竹管沈線、69はラフなタッチで竹管集合沈線を施す。70は単沈線によって帯状文様を描く唯一の例であるが、便宜的に本類に含めた。

4類（第4図71～83）

本類は当地区に限定されており、主としてI群古段階

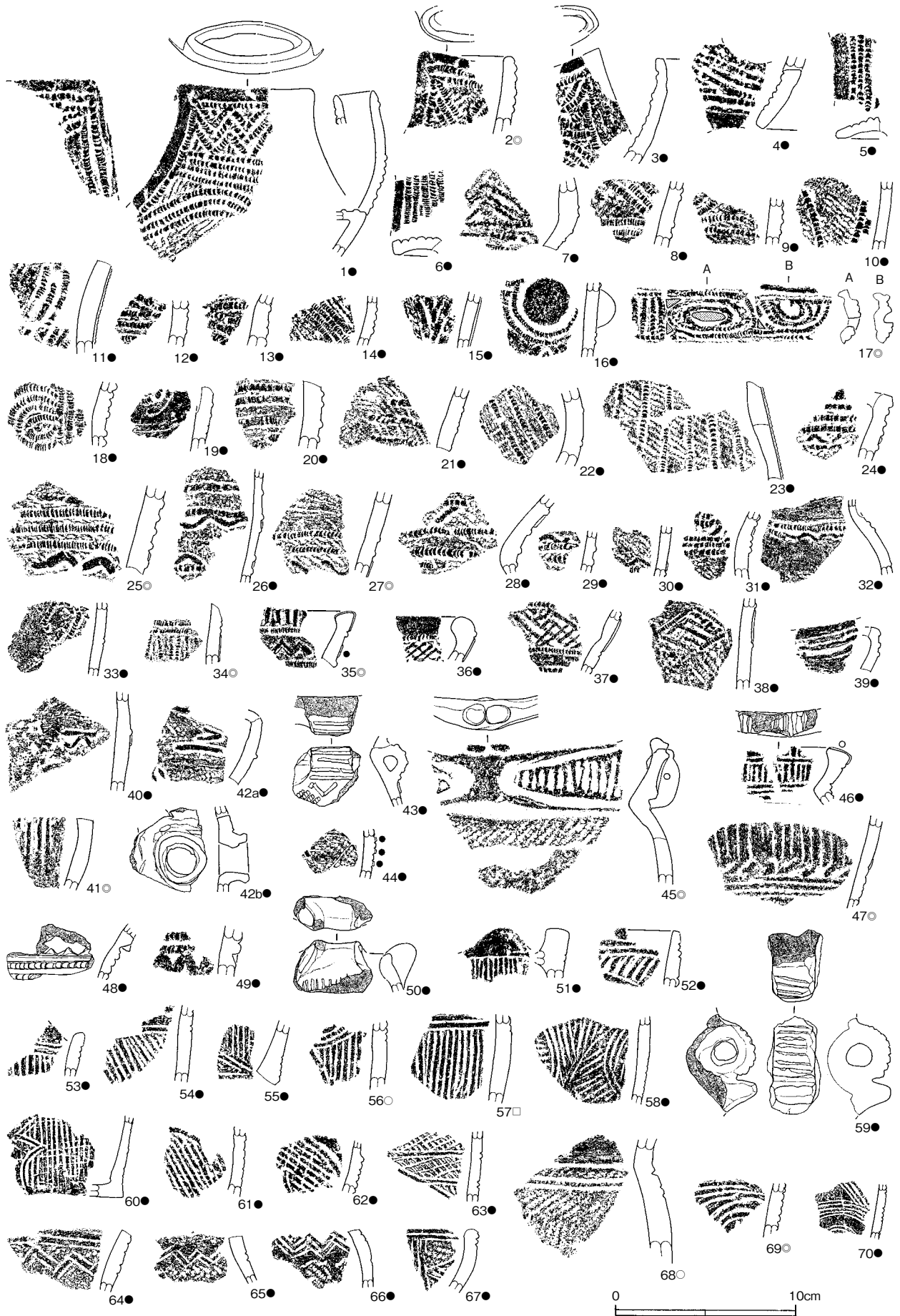


図3 重稲場第1遺跡(重稲場遺跡)南部地区の土器

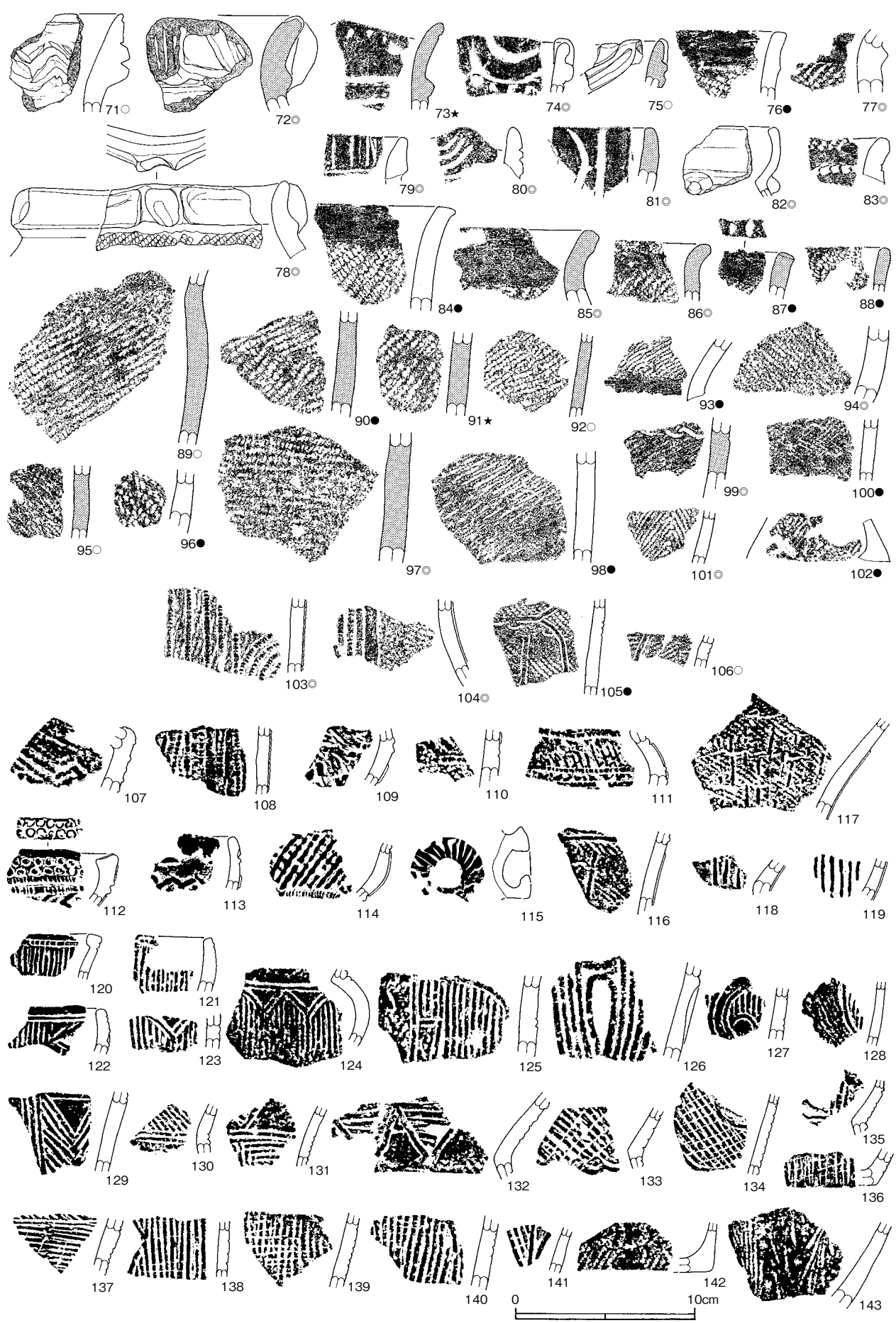


図4 重稲場第1遺跡(重稲場遺跡)南部地区・北部地区と第2遺跡(重稲場西遺跡)の土器

の一部を構成する土器と見なされる。

71～82は、東南北部のな色彩をもつ在土器である。71～78は隆帯文を配し、その形状から3種に区分できる。71・72は太い隆帯を配すもので、前期終末前葉に遡る資料である。前者は鋸歯状をなした隆帯にラフなタッチの単沈線、後者は垂下隆帯に3条の浅い凹線が観察できる。73～75の隆帯は丸味を帯びる。73は波状口縁の無文帯下、74・75は口端に隆帯を配し、75の隆帯上に単沈線、73の口端と74の隆帯下に刺突文を施す。75の内面には、擦痕が顕著に残る。76～78は中央に綾をもつ小隆帯を無文帯下にめぐらす。隆帯下にはいずれも単節縄文を横位施文する。79～81は口縁部の肥厚帯などに縦位や弧状の単沈線を施す。82は口縁部に無文帯を設ける球胴形土器で、頸部に円形突起を配す。以上の中で、72・73・75・81の器壁内外面には粗大な植物繊維痕が観察できる。

83は単節縄文を付した口端下に無文帯を設け、一列の刺突文を施す。前期後葉の「刈羽式」の系譜を引く在土器で、前期終末前葉に遡る可能性がある。

5類 (第4図84～88)

口端が遺存する5点を示す。いずれも単節原体LRを横位施文し、84～87の口縁部には幅広い無文帯を配す。このうち端部に刻目を加える87は、内面に斜位の擦痕が顕著に残る。85～88は植物繊維を含む。

体部縄文 (第4図89～102)

89～95・99は横位施文による単節斜縄文で、本地区の大多数を占める。使用原体は、89～93・99がLR、94・95がRL。93は台付土器の体部下端にあたる。96は複節原体、98は「直前段反撚」原体を用いる。97はLR原体を斜位施文し、雲母を多量に含む異質な土器である。以上の中で、89～92・95・97・99は植物繊維を含み、4類もしくは5類の体部資料と見られる。91は微細な黒曜石を多量に含む。粉碎した黒曜石を混和材として利用した資料である。

101・102は縦位施文による結束羽状縄文で、後者は両端に結節をもつ。横位施文による100も結節をもち、結束原体を使用する可能性が高い。これら3点は、II群土器と特定できる数少ない資料である。102は台付土器の下端部にあたる。

②第1遺跡(重稲場遺跡) 北部地区

第4図103～106に示す4点が総てで、104を新たに図示した。資料数は少ないものの、I群古段階からII群新段階までの期間にわたる点の特徴である。

1類 (第4図103・104)

103・104は横位施文による単節斜縄文上に浮線A1種を施す。前者は等間隔に縦位や曲線的に配し、後者は縦

位の帯状浮線文に太目の粘土紐を添える。前者はI群古段階、後者はI群新段階の土器である。

3類 (第4図105・106)

105は結節を付したLR原体を横位施文した後、竹管沈線を縦位・横位・弧状に施す。106は竹管集合沈線によってV字文を描くII群新段階の土器である。

③第2遺跡(重稲場西遺跡)

51個体以上が採集されている。第4図107～143に巻町史掲載資料の中から37点を再掲した。本遺跡採集資料は、大半がII群新段階に属す。分類別に見た出現率は3類が主体を占め、後述の第3遺跡南西地区に類似する。詳細は巻町史に譲り、概略のみを記す。

1類 (第4図107～119)

107・108は浮線A1種を帯状または密集施文するもので、本遺跡の中では数少ないI群土器となる。前者は裁頭波状口縁の中間部で、連続山形文を描くI群古段階の資料。

109～119は、いずれもII群土器の特徴を備える。109～111・113は浮線D1種による鋸歯状文、111・114は斜行格子目文、112は浮線D2種を施す。115は円形突起上、117～119は体部に浮線D1種を密集もしくは等間隔に垂下させる。以上のようなII群土器の中で、浮線B種やC種が本遺跡で欠落する点は留意すべき特徴と言える。

3類 (第4図120～141)

本遺跡の3類土器は、いずれも竹管集合沈線文を施す。120～132は集合沈線文、133～141は斜行格子目または格子目文を施すグループ。前者の中には、山形文を複合する122～124やV字文を施す131・132が定量存在する。第1遺跡(重稲場遺跡)南部地区や後述の第3遺跡(上田遺跡)北東地区に見られる連続山形文施文資料が欠落する点も第3遺跡南西地区に類似した様相と言える。

体部縄文 (第4図142・143)

142は結束羽状縄文、143は木目状撚糸文を縦位に施す。ともにII群土器にあたり、後者は本遺跡と第3遺跡南部地区に限定される。143は単軸に一孔を穿ち、二本の縄を深く挿入した後左右同一方向に巻くもので、新潟県内の前期終末から中期初頭における最も一般的な木目状撚糸文原体である。

④第3遺跡(上田遺跡) 北東地区

93個体以上の前期終末土器が出土しており、第5図144～189に46点を示した。このうち22点は新たに提示する資料である。174以外は堅穴住居跡覆土とその周辺から出土した。本地区出土土器は大半がII群に属すが、第2遺跡(重稲場西遺跡)や第3遺跡(上田遺跡)南西地区に較べ第1遺跡南部地区に近似する要素も見られ、II群



図5 重稲場第3遺跡(上田遺跡)北東地区・南西地区の土器

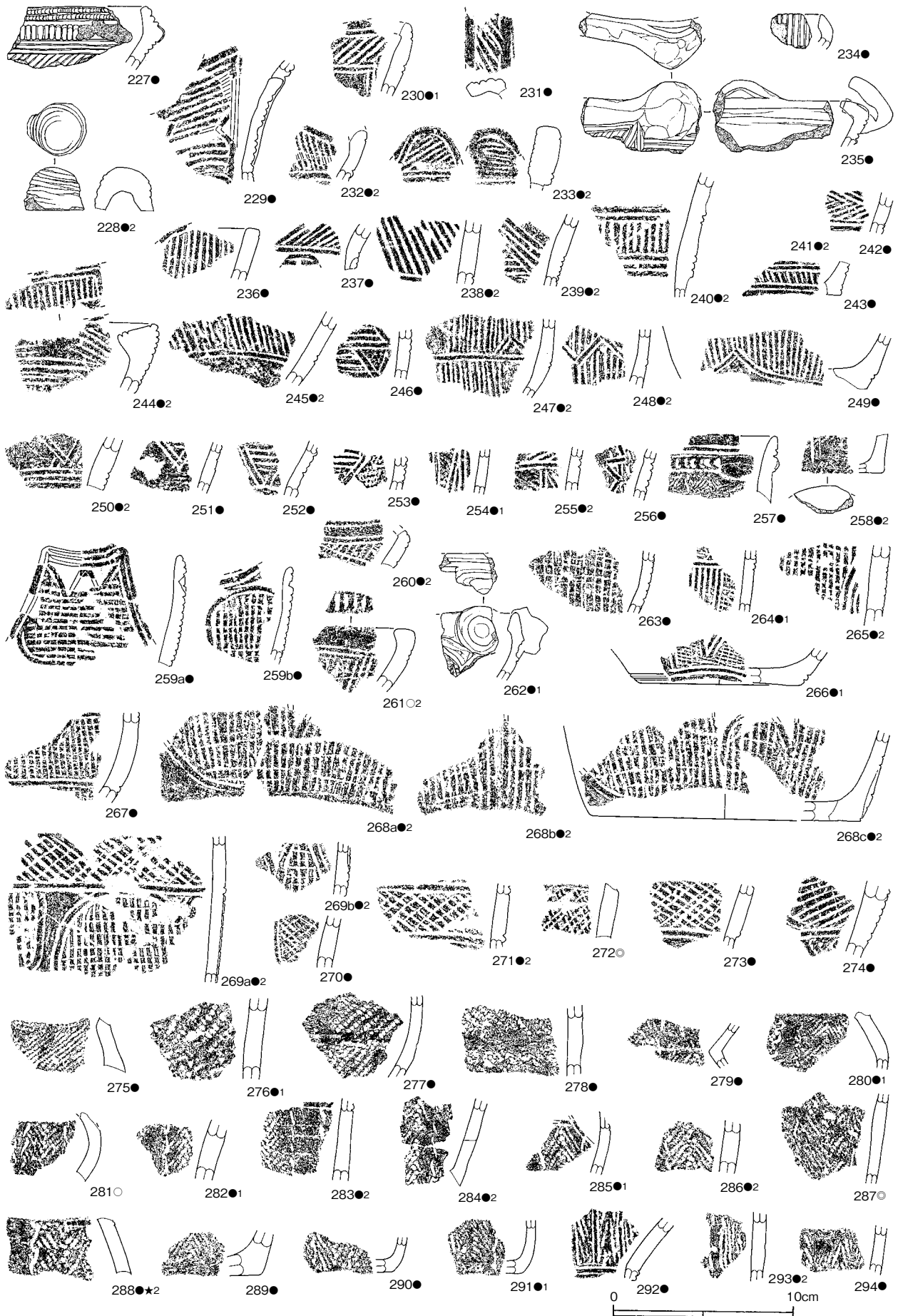


図6 重稲場第3遺跡(上田遺跡)南西地区の土器

古段階の設定を可能にさせる資料となる。

1 類 (第5図144~159)

144は帯状をなした浮線A 1種に波状文と見られるD 1種を複合する。本地区の中ではI群古段階に属す可能性が高い数少ない資料である。159は浮線E種に該当する唯一の例で、I群新段階に属す。

145~152は、浮線A 1種を文様要素とするII群土器。145~147・149は、やや間隔をおいて懸垂状または縦位に施文する。このうち149は、体部下端に浅い袢りを施す西日本的な土器である。148はA 1種による横位区画内に浮線斜行格子目文をラフなタッチで充填する。150~152はD 2種を複合施文する。口縁部資料の150は円錐形をなした突起全面に環状浮線文を貼付し、内面には円形の袢りを施す。153は単節斜行縄文を地文とし、D 1種を等間隔に垂下させる。

154は浮線B種に該当する本地区唯一の資料で、A 1種による弧状文とD 1種による等間隔の縦位浮線文を複合する。155~158はC種を文様要素とする。155・156はC種による横位区画内に浮線菱形文や不整形な鋸歯状文を充填する。前者は口端が前後に張り出し、端部にC種を密に施す。158は第3遺跡(上田遺跡)南西地区の第5図218に類似した珠文を配す。

3 類 (第5図160~179)

本地区の3類は第2遺跡(重稲場西遺跡)や第3遺跡(上田遺跡)南西地区に較べ占有率が下回り、第1遺跡(重稲場遺跡)南部地区に近い数値を示す。

160・161は、裁頭波状口縁の中間部。前者は口縁部無文帯にV字文を逆位に描く。161は緩やかに内屈する資料である。162は橋状把手の一部。結節状沈線文で縁取られた把手上に集合沈線を施し、把手下には斜位の竹管集合沈線が観察できる。163はドーナツ状の突起、164は橋状の小把手を配す。165・166は弧状沈線を境にして複数方向の集合沈線を施し、第1遺跡南部地区の第4図58に似た図柄をもつ。167~173は、縦位主体の竹管集合沈線文を施す。このうち167・168はV字文を複合する。175は弧状をなした区画内に斜行格子目文を充填する本地区唯一の資料である。

176~179は、文様帯の下端に連続山形文を施す。第1遺跡南部地区に類例があり、本地区を特徴づける資料となる。縄文を地文とする177・178はともに結束羽状縄文を施し、前者は横位・後者は縦位施文する。

体部縄文 (第5図180~189)

181~189は、端部に結節を付した結束羽状原体を縦位施文する。このうち189の体部下端には、149に類した袢りの一部が観察できる。横位施文による180は端部に結

節をもち、結節羽状縄文の可能性がある。

⑤第3遺跡(上田遺跡)南西地区

竪穴住居跡状遺構周辺を中心に414点以上の前期終末土器が出土しており、第5図190~226と第6図227~294に105点を示す。うち41点は新たに提示するものである。本地区出土土器は、第2遺跡とともにII群新段階の指標となる。資料番号末尾に示す1・2は、竪穴住居跡状遺構1・2の別を表す。

1 類 (第5図190~226・第6図288)

190~195は浮線A 1種のみを施すグループで、本地区の中では古様相を認める資料である。190・191は裁頭波状口縁の中間部。前者は緩やかに屈曲し、A 1種を帯状に施す。後者もこれに類した浮線文を施すが、横位施文による結束羽状縄文を地文とする。193は帯状の弧状文を施す。194~197・199は、2ないし1条のA 1種によって菱形文(194)・クランク文(195)・懸垂文(196)・弧状文(199)を描く。このうち197・199は、縦位施文による端部結節付結束羽状縄文を地文とする。以上はI群新段階に属す資料と考えられる。

201~205は浮線A 1種とD種を複合するグループである。201~203はA 1種に沿って浮線鋸歯状文を施す。このうち201は内面に張り出す口端上にD 1種を等間隔に貼付する。204・205はD 2種を口縁部に充填し、前者は沈線を加えた口端上にも同種の浮線文を貼付する。

198・200・217は、浮線A 2種に該当する数少ない資料である。前者は弧状をなした突起上面の縦位文様と突起下の横位文様にA 2種による極細の浮線文、口縁部区画内の鋸歯状文や体部文様にD 1種を用いる。217はA 2種による浮線文の裾を竹管背面でなぞる。本遺跡群唯一の資料であるが後述の南赤坂遺跡に類例があり(第8図92~95・97~99)、横位の浮線間にD 1種による菱形文を充填する。222は2条のA 2種を横位施文し、その下に断面三角形をなした隆帯を配す。

206~209は、D 1種に限定される可能性があるグループ。206は裁頭波状口縁土器の中間部資料で、内屈口縁の端部に横位浮線を施す。209はV字文、207・208は1ないし数条の垂下浮線を配す資料で、いずれもII群に属す。

210~216は浮線B種を文様要素とするグループで、本遺跡群の中で最もまとまった量が出土した。施文部位は、A 1種に接した横位または弧状浮線に限定されるケースが多い。213は口端の無文帯下に大きな円形突起、211は球胴器形の頸部に中空の突起を配し、後者の突起下には珠文や浮線V字文を施す。ともに結節付結束羽状縄文を体部に施す資料である。212は口端下の横位浮線

にB種を用い、鋸歯状文や口端の縦位浮線にD1種を配す。216はB種による横位浮線下に隆帯を設け、縦位のB種浮線文を貼付する。214はB種によってV字文を描く資料である。

217～226は浮線C種を用いるグループである。上記のB種とともに、本地区の1類を特徴づける文様となる。施文部位は、D1種による鋸歯状文以外の文様全般にわたる。218は上部文様全体がうかがえる球胴形土器。橋状把手と中間部の珠文が特徴的である。223はC種によってクランク文を施し、I群新段階のA1種(194)からII群土器への移行過程が理解できる資料となる。220の口端文様は竹管工具の背面を用いた沈線文で、粘土紐の貼付を省略したケースと言える。以上の中で、218・223・224の体部には端部に結節を付した羽状縄文を縦位施文する。

2類 (第6図227)

227は断面「く」の字状の口縁部に浮線D1種と集合沈線を複合する本遺跡群唯一の資料である。口端の結節状沈線文下に縦位の浮線D1種を密集施文し、それ以下に斜位の集合沈線を施す。

3類 (第6図228～274・283・285・292)

本地区の主体を占めるグループで、63%の占有率を示す。大半がII群新段階にあたる資料と考えられる。

228～249は竹管集合沈線文土器。229～232は裁頭波状口縁土器。229は波頂部付近、230～232は中間部にあたり、いずれも区画内に斜位の集合沈線を施す。229は外反器形をなした数少ない例で、竹管沈線で縁取られた三角形彫去文を区画沈線に沿って配す。233は内面がいく分肥厚した半円形突起をもつ。外面に斜位、内面に横位の集合沈線を施す。234・235は口端が「く」の字に内屈し、後者の端部には内面に挟りを加えた円形突起を付す。244は口端が内側に肥厚し、平坦な端部に縦位の集合沈線を施す。228は中空に作出された円形突起が粘土帯から剥落した資料である。これらの体部には、横位や弧状の区画内に縦位集合沈線を施すものが多い。この他少数資料ではあるが、矢羽根状の242や逆位のV字状文に似た246のような例も見られる。

259～274は格子目文または斜行格子目文を施す。259・260は裁頭波状口縁土器で、259aは波頂部、259bはその下端、260は中間部にあたる。前者は竹管沈線に縁取られた三角形彫去文を波頂の上下に配し、波頂部や体部の弧状の区画内に格子目文を施す。261・262は、内湾ぎみに立ち上がり、口端内面が肥厚する。前者の端部には1類220と似た竹管背面沈線を施し、後者には円錐形の突起が配される。体部の文様は、横位または弧状を

なした区画沈線内に格子目文や斜行格子目文を施し、各所に彫去を配す資料(259・266・268・269)が多い。

253～258・283・285・292は縄文を伴うもので、類似文様をもった小破片の250～252も便宜的にこのグループとして扱う。257は唯一の口縁部資料。口端下に竹管沈線と隆帯を配し、後者に刺突文を加える。254～256・258は、縦位・斜位の竹管沈線を施す。底部破片の258は、体部下端に第3遺跡北東地区149・189と同様の挟りを加える。250～253はV字文を配施す。後続の新保式に受け継がれる要素であり、本遺跡群最終段階の土器を特徴づける資料となる。

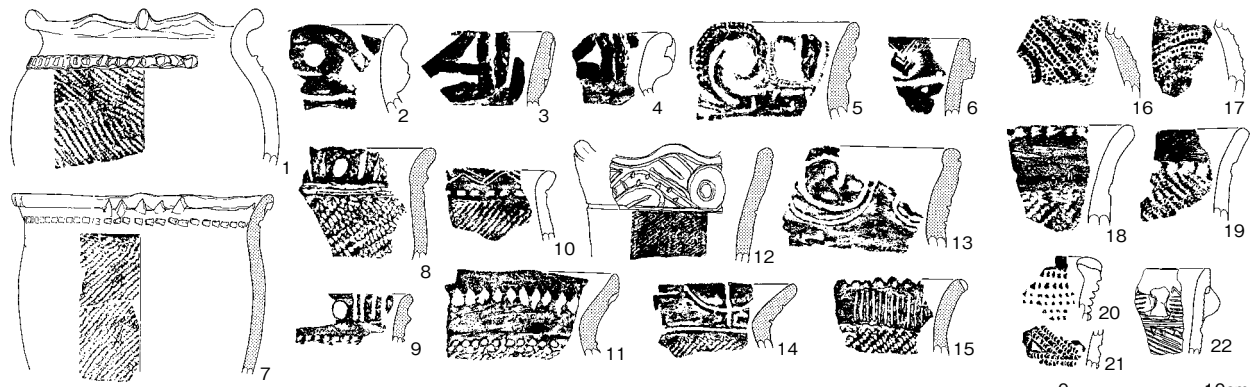
体部縄文 (第6図275～294)

275～277は単節LR、278はRLを横位施文し、277・278は端部に結節を付す。275は台付土器の下端部。279～291は端部に結節を付した結束羽状縄文原体を縦位施文する。北東地区と同様に、本地区の主体を占める地文である。292～294は木目状撚糸文。292・294は単軸に穿った二孔にそれぞれ2本のLを挿入し同一方向に巻くもので、北陸～新潟では最も古い原体にあたる。293は第4図143と同類の原体であるが、左右異方向に巻く少数資料にあたる。

B 土器から見た角田山麓の前期終末遺跡群

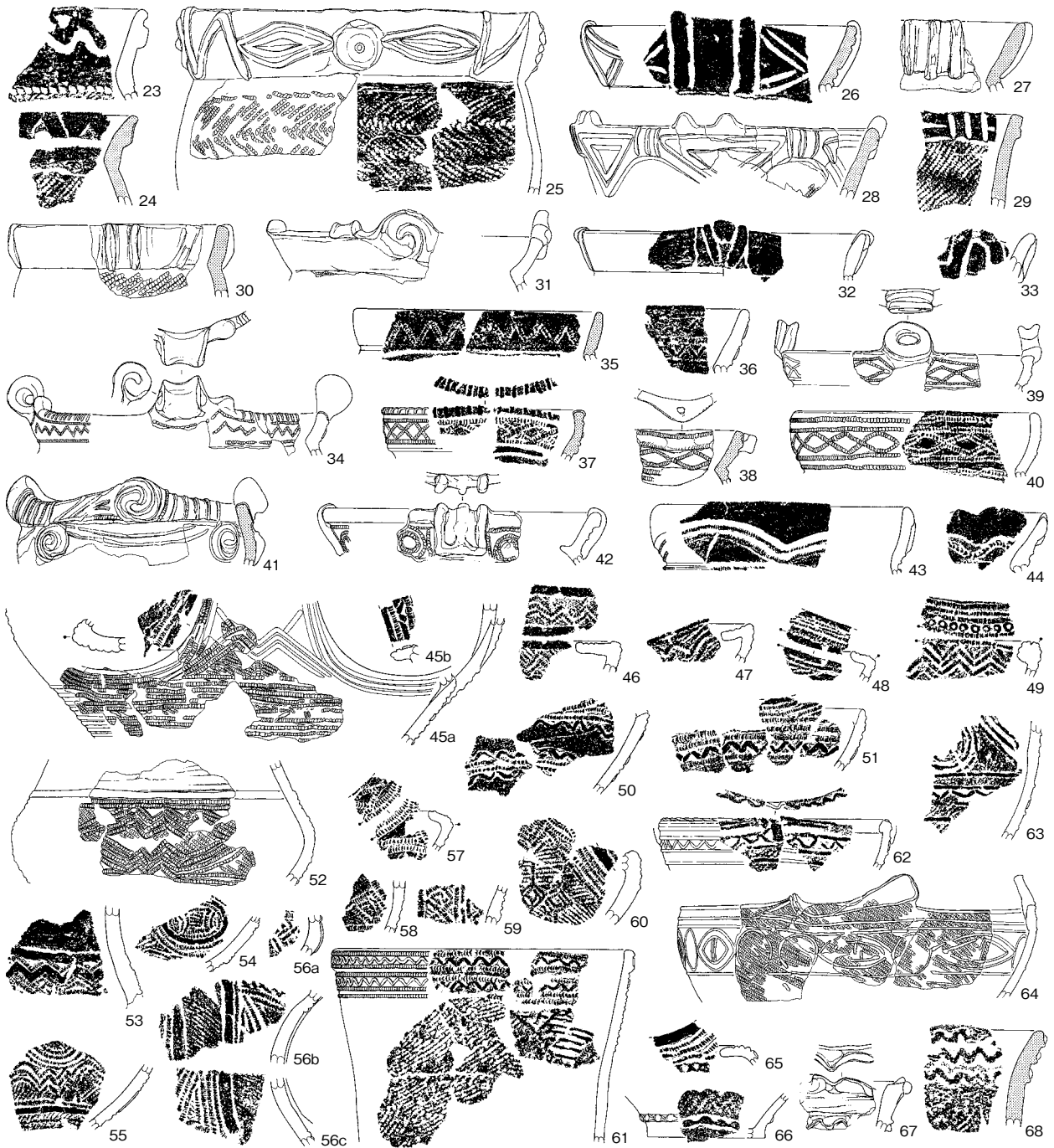
重稲場遺跡群の前期終末土器は、新潟県内における当該期の標識資料と位置づけられている〔寺崎1999・2019、金子1996〕。小破片が大半を占めるという資料的な制約はあるものの、本稿によって全容が提示できたものと考えている。前項で述べたように、第1遺跡(重稲場遺跡)の南部地区では前期終末前葉に遡る資料が存在する。しかしその量は限定されており、今回の再検討をつうじ前期終末中葉から後葉初期までの短期間に営まれた集落跡であることが確認できた。遺跡群の形成過程を見ると、集落成立期にあたるI群古段階では第1遺跡南部地区に中心をもつ。I群新段階に至り土器量は一時的に減少するが、第1遺跡(重稲場遺跡)の大半が既に失われる点を考慮すれば、ひき続き集落が存続していたことも考えられる。後葉に入ると、第2遺跡(重稲場西遺跡)と第3遺跡(上田遺跡)で土器量が急増する。二遺跡には若干の時期差があり、第3遺跡(上田遺跡)北東地区はII群古段階、第2遺跡(重稲場西遺跡)と第3遺跡(上田遺跡)南西地区は同新段階を主体とする。本遺跡群は全期間をつうじ北陸系土器が卓越し、東北南部系土器は客体的な存在にとどまる点の特徴である。

角田山麓では、本遺跡群の南西1.4kmに位置する豊原遺跡〔小野・前山ほか1989〕と北1kmに位置する南赤坂遺跡〔巻町教委2002〕から多量の前期終末土器が出土して



豊原遺跡IV群土器 2期

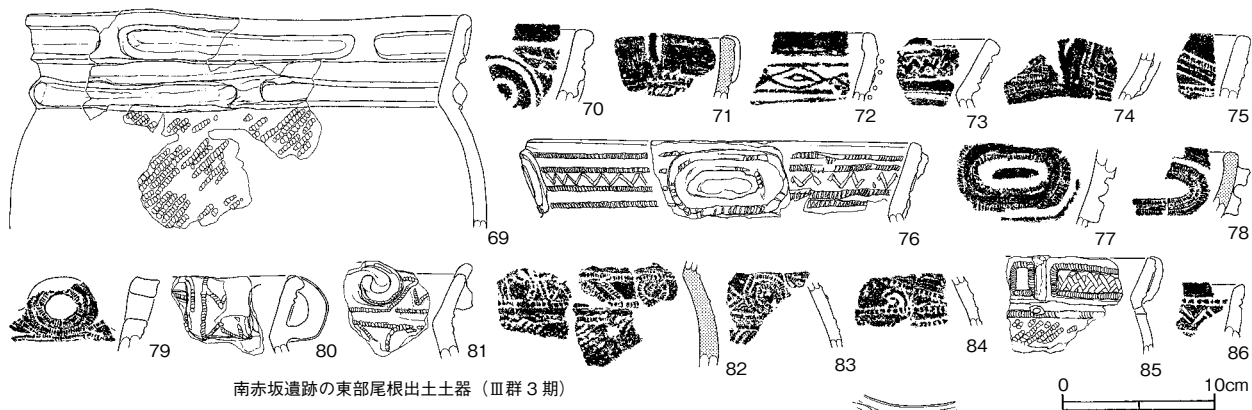
0 10cm



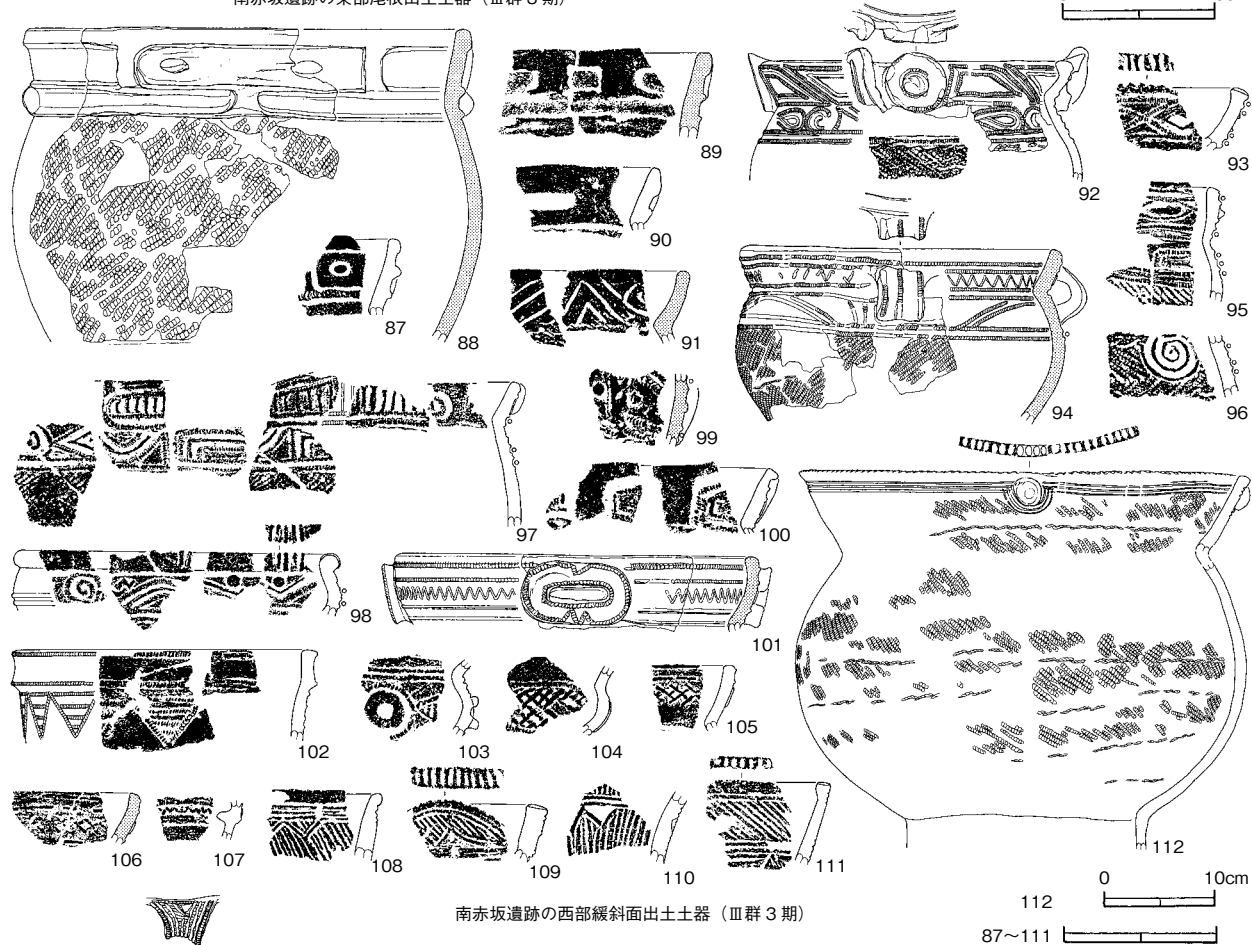
南赤坂遺跡III群土器 1期・2期

0 10cm

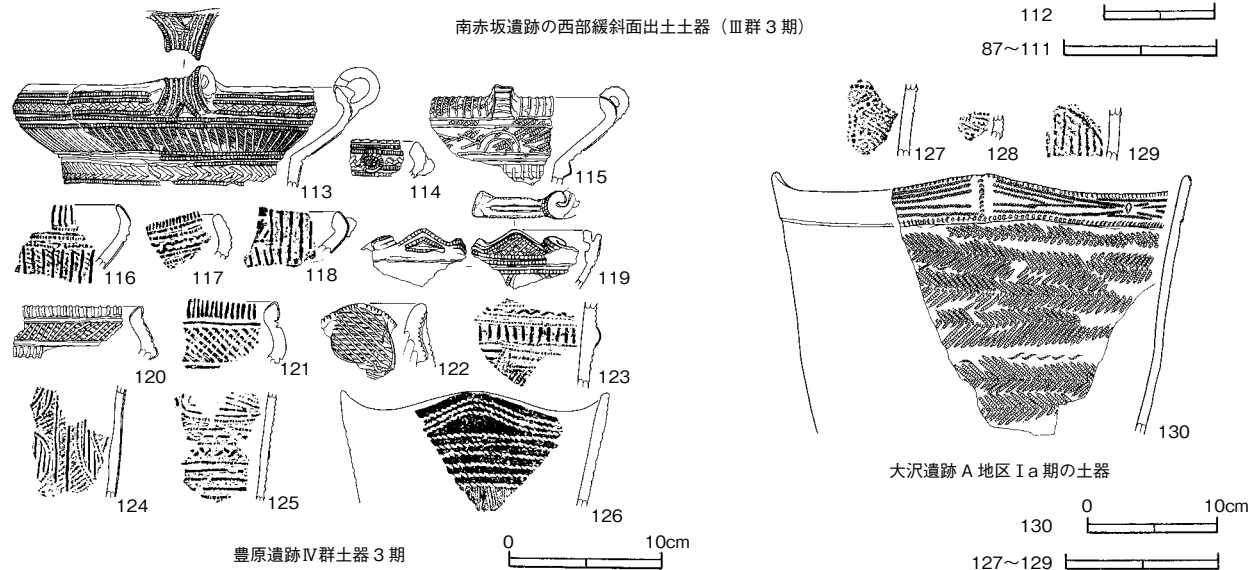
図7 豊原遺跡・南赤坂遺跡の前期終末前葉～中葉土器



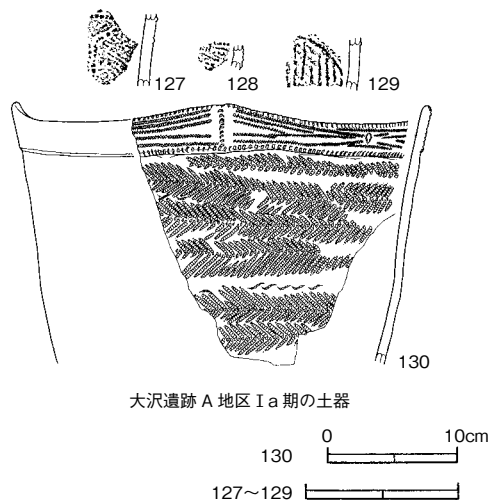
南赤坂遺跡の東部尾根出土土器 (Ⅲ群 3期)



南赤坂遺跡の西部緩斜面出土土器 (Ⅲ群 3期)



豊原遺跡Ⅳ群土器 3期



大沢遺跡 A 地区 I a 期の土器

図8 南赤坂遺跡・豊原遺跡・大沢遺跡 A 地区の前期終末後葉土器

おり、本遺跡群との平行関係を検討しながら土器様相を比較する。

豊原遺跡の前期終末土器は、前葉と後葉に中心をもつ。前葉段階の土器（第7図1～22）は東北南部系の隆帯・肥厚帯・沈線文土器（1～15）が卓越し、これに東北南部系の球胴形浮線文土器（16・17）や前期後葉「刈羽式」の系譜をひく在地土器（18・19）、北陸の鍋屋町系土器（20～22）が付随する。以上の中で、東北南部系土器には植物繊維が高い頻度で含まれる。

中葉に入り豊原遺跡の土器量は激減するが、これに代わって南赤坂遺跡から中葉～後葉古段階の土器が多量に出土した。主体をなすのは東北南部系の隆帯・肥厚帯・沈線文土器と球胴形浮線文土器で、前者が52%、後者が27%を占める。これに次いで多いのは7%の重稲場I群類似土器と6%の浮線E種で、朝日下層系土器や松原系土器、東北系と北陸系の折衷土器、東北系の竹管沈線文土器がそれぞれ1～2%の割合で付随する。報告書の中で筆者はこれらを3時期に区分したが、今村啓爾氏の見解〔今村2006b〕をふまえながら再検討を行う中でいくつかの誤りに気付いたため、次のように訂正する。

前期終末前葉を1期とする。資料数は僅少で、豊原遺跡に類例がある第7図23・24などが該当するのみである。同図25～68を2期とする。このうち重稲場遺跡群との比較が可能な資料は、45～68である。これらは重稲場I群土器と類似度が高い45～51・62～64と重稲場で欠落もしくは少数資料にとどまる52～61・65～68に二分できる。後者の52～56は浮線A1種による帯状文様に太目の粘土紐を並走させ、斜行格子目文（56a）や菱形文（54）を複合施文するもので、東北南部系との折衷土器にあたる57にも同様の菱形文が描かれる。61は重稲場I群の指標となる浮線状文の下に朝日下層式で一般的なY字文を施す。南赤坂遺跡では重稲場遺跡群に乏しい浮線E種（65～68）も定量存在しており、波状口縁中間部にあたる65は緩やかに内折する。これらはいずれも重稲場I群段階の中では後出的な資料と位置づけられ、I群土器の新旧区分がこれによって可能になる。

前期終末の豊原遺跡と南赤坂遺跡は、補完的な関係で推移する。真脇式土器に関する今村啓爾氏の変遷観〔今村2006b〕に従えば、南赤坂遺跡の2期土器群は重稲場I群以前・I群古段階・同新段階平行期に細分できる可能性が高く、東北南部系の隆帯・肥厚帯土器（25～33）と球胴形浮線文土器（34～44）が各段階の主体をなしたと考えられる。この段階の東北南部系土器の変遷については明確でないが、前者の中で台形突起を配す31、縦位や菱形などの太い隆帯を配す25～28・30・32・33などはI

群古段階から新段階、後者の中で口縁部に浮線A2種による連続山形文や波状文を施す34～36・43・44は重稲場I群以前～I群古段階、太い隆帯を複合する42や口縁部に菱形文を配す37～40はI群新段階を中心とする可能性を指摘したい。

一方、南赤坂遺跡の東部尾根では重稲場I群類似資料をほとんど混じえることなく53個体の土器が出土した。これをもって3期とし、第8図69～86に主要資料を示す。85は朝日下層式に一般的な浮線斜行格子目文と東北南部系の隆帯文を複合する折衷土器である。周辺から出土した浮線文土器（72～84）は東北南部系の浮線A2種を多用するが、重稲場II群の指標となる浮線C種（72）や鋸歯状文（73）・橋状把手（80）が存在する。隆帯・肥厚帯土器（69～71）は占有率を低下させながら含繊維土器の割合も大幅に減少しており、これらが重稲場II群段階に並行することをうかがわせる。

西部緩斜面出土土器の中から同時期とみられる資料を第8図87～112に抽出した。このうち橋状突起（87～90・97・100）、珠文（98・99）、浮線C種（92～99）、朝日下層系土器（102～107）、松原系土器（108～111）は重稲場II群との類似性が指摘できる資料であるが、第2遺跡（重稲場西遺跡）や第3遺跡（上田遺跡）南西地区で高率を示す松原系土器が乏しい点は大きな相違点となる。

南赤坂遺跡では、朝日下層式新段階に至り土器量が減少する。角田山麓においてもこの段階の良好な一括資料に欠けるが、豊原遺跡で比較的まとまった土器が出土しており、その一部を第8図113～126に示す。本遺跡群の北方4kmに位置する大沢遺跡A地区が成立するのもこの時期で、断片的な資料ではあるが第8図127～130が出土した。ともに東北南部系の球胴形土器が姿を消し、東北北部の円筒下層d式系土器（126・130）が加わる点が特徴的である。

以上のように、角田山麓の前期終末遺跡群は一遺跡あたりの継続期間が短く、土器の様相も一様ではない。しかしこれを系列に基づき整理するとその在り方が鮮明になる。十三菩提式期前葉～中葉の当地では、東北南部系土器を主体とする豊原・南赤坂遺跡と北陸系土器が卓越する重稲場遺跡群の二者が存在した。中葉段階に集落として成立する重稲場遺跡群は今村啓爾氏が説くところの北陸集団の北上〔今村2006b〕によって生まれた遺跡と考えられ、東北色が強い当地に現れた外来集団とみなすことができる。「日本海のランドマーク」をなした弥彦・角田の山並みは、本遺跡群の成立に関わる重要な地理的特性となった。本遺跡群は朝日下層式古段階をもって終息する。直後に出現する大沢遺跡A地区は後述のよ

うに黒曜石利用においてもつながりがあり、重稲場遺跡群廃絶後の移動地とみられる。

出自を異にした二つの集団は、排他的な関係にあったわけではない。南赤坂遺跡では重稲場Ⅰ群新段階の土器がまとまって存在し、重稲場第1遺跡の含繊維土器は南赤坂遺跡との関連性を示す。重稲場Ⅱ群段階になると搬入品の可能性が指摘できる資料は互いに減少するが、重稲場第2遺跡(重稲場西遺跡)・第3遺跡(上田遺跡)を特徴づける球胴形土器や南赤坂遺跡3期の浮線C種などは両遺跡の密接な関係を物語る。前期終末において角田山麓が遺跡密集地帯をなす理由は、二つの集団が共存しながら短期間のうちに居住地を移動させたため、と考えられる。角田山の周辺に展開する多様な自然環境〔前山2005〕は、そうした活動を可能にさせる大きな背景となった。

(4) 黒曜石

A 重稲場遺跡群の黒曜石

本遺跡群の石器を最も特徴づけるのは、剥片石器の中に占める黒曜石の割合が越後平野周辺の縄文時代遺跡にあって極めて高い点にある。遺跡と地区ごとに占有率を求めると、数値が最も高いのは第2遺跡(重稲場西遺跡)で、290点中89%に達する。これに次いで第1遺跡(重稲場遺跡)でも高率を占め、57点中84%を記録する。その一方で第3遺跡(上田遺跡)では率が低下し、南西地区で1,901点中71%、北東地区で791点中56%にとどまる(第12図C)。黒曜石以外の使用石材は鉄石英・頁岩・流紋岩・泥岩・玉髓からなるが、遺跡や地区で明確な違いは見られない。

本遺跡群の黒曜石は、産地構成に大きな特徴がある。第3遺跡(上田遺跡)北東地区の10点を対象とした熱中性子放射化分析によれば、総てが長野県星ヶ塔産石材であることが判明した〔金山・前山・鈴木1995〕。これらは透明度の高い岩体に黒色の晶子が雲状または筋状に混じるものが多く、肉眼観察によっても同様の資料がほとんどすべてを占める。このほか、やや濁りをもち和田峠産石材の可能性が高い資料も存在するが、その数は第3遺跡(上田遺跡)南西地区の石核1点(第11図133)と剥片3点にすぎない。

第9～11図に本遺跡群の黒曜石を示す。第9図1と第10図113・114は第1遺跡(重稲場遺跡)採集資料。1は原石、113は石鏃、114はその未成品である。第9図2～35・第10図36～112・115～121は第2遺跡(重稲場西遺跡)採集資料。2～11は石核、12～112は剥片、115～120は石鏃、121はその未成品である。第12図は第3遺跡(上田遺跡)出土資料。122～135が石核、136～171が微細剥

離痕をもつ剥片、172～174が石鏃、175～178がその未成品、179～184が石鏃である。このうち石核125・127・129・131が北東地区、これ以外が南西地区からの出土である。図中の矢印は微細剥離痕の範囲、網点は自然面、砂目は欠損部を表す。なお、第1遺跡・第2遺跡と第3遺跡で作図法が異なるのは実測年が異なるため、前者は主として1991年作成の実測図をトレースした。

これらの中で本遺跡群に搬入された黒曜石の姿がわかるのは、第1遺跡(重稲場遺跡)採集の原石(第9図1)である。最大長6.4cm、最大厚4.2cm、重さ196gを測り、中部高地での黒曜石集積例の中では中型品クラスに相当する〔大工原2002〕。以下では、数量的にまとまった第2遺跡(重稲場西遺跡)採集資料と第3遺跡(上田遺跡)南西地区出土資料を中心に本遺跡群の剥片と石核を検討する。前者は黒曜石利用率のうえで高率遺跡、後者は準高率遺跡にあたる。両遺跡はⅡ群新段階の土器が大半を占めており、黒曜石についても同時期の資料とみなされる。

第12図A・Bは、最大長と最大幅が明らかな剥片をもとに、第2遺跡(重稲場西遺跡)101点・第3遺跡(上田遺跡)南西地区210点をプロットしたものである。剥片の大きさをLL～Sに区分し遺跡ごとに占有率を求めると、第12図Cのようになる。極小サイズのSSについては、回収率が二遺跡で異なる可能性があるため除外した。本遺跡群の黒曜石は、主として石鏃の石材として使用されていた。石鏃製作に適した剥片は、Mサイズ以上である。図のように、第2遺跡(重稲場西遺跡)の剥片は長さ2.0cm～2.4cm台、幅1.5cm～1.9cmにピークをもち、Mサイズに中心がある。これに対し、第3遺跡(上田遺跡)南西地区では長さ1.5cm～1.9cm台、幅1.0cm～1.4cm台にピークをもち、Sサイズが60%台の高率を占める。図示した資料は、第2遺跡(重稲場西遺跡)採集の第9図12・15・25・29がLL、13・14・16～24・26～28・30～35がL、第10図36～79がM、80～112がS。第3遺跡(上田遺跡)南西地区出土資料では、第11図136～140がL、141～159がM、160～171がSである。

二遺跡での剥片サイズの異なりは、石核にも表れている。両遺跡の石核はいくつかのバリエーションをもち、幅広い単一の打面から連続的な剥離を行うA種、素材の形状がうかがえるB種、頻繁な打面転移によって小型化するC種、両極打法によるD種に大別できる。これを遺跡ごとに見ると、第2遺跡(重稲場西遺跡)ではA種(3)・B種(2・4～7)・C種(8～10)からなり、最終剥離面での作出剥片は10がLサイズ、3・4・7がMサイズである。一方、第3遺跡(上田遺跡)ではB種(122)・C種(123～129)・D種(130～135)からなり、A種はみ

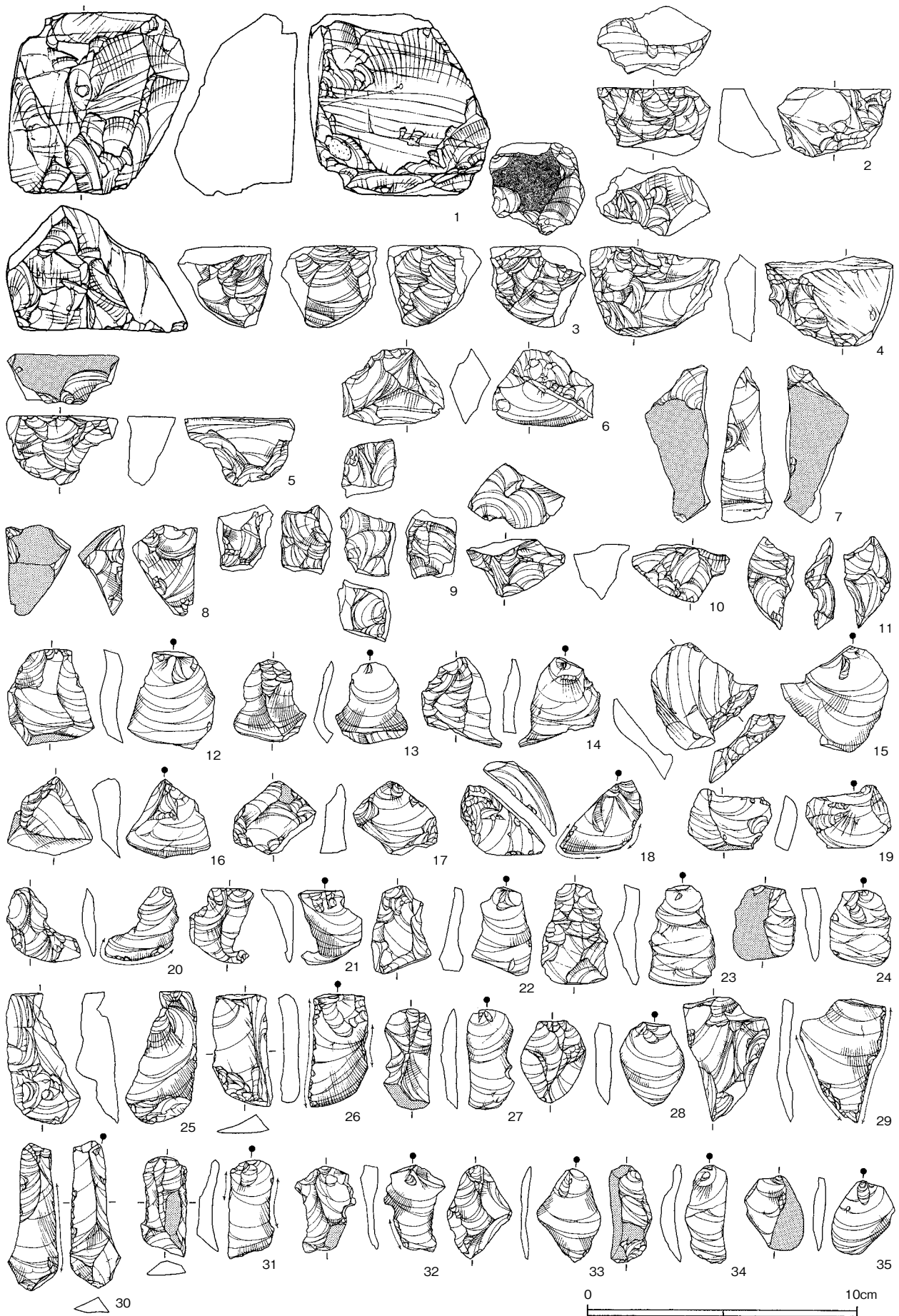


図9 重稲場第1遺跡(重稲場遺跡)の黒曜石原石と重稲場第2遺跡(重稲場西遺跡)の黒曜石製石核・剥片

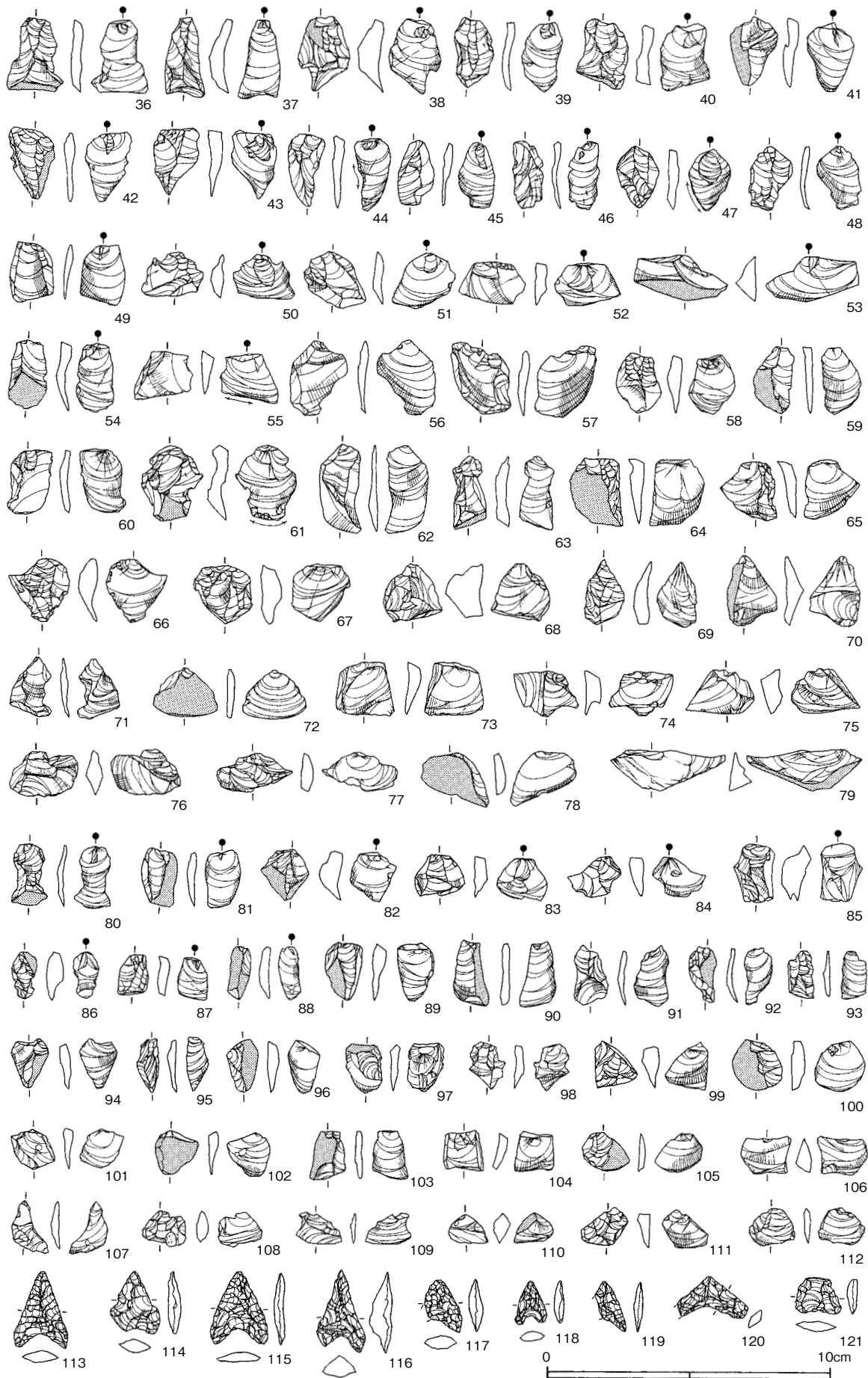


図10 重稲場第2遺跡(重稲場西遺跡)の黒曜石製剥片・石核と重稲場第1遺跡(重稲場遺跡)の黒曜石製石鏃

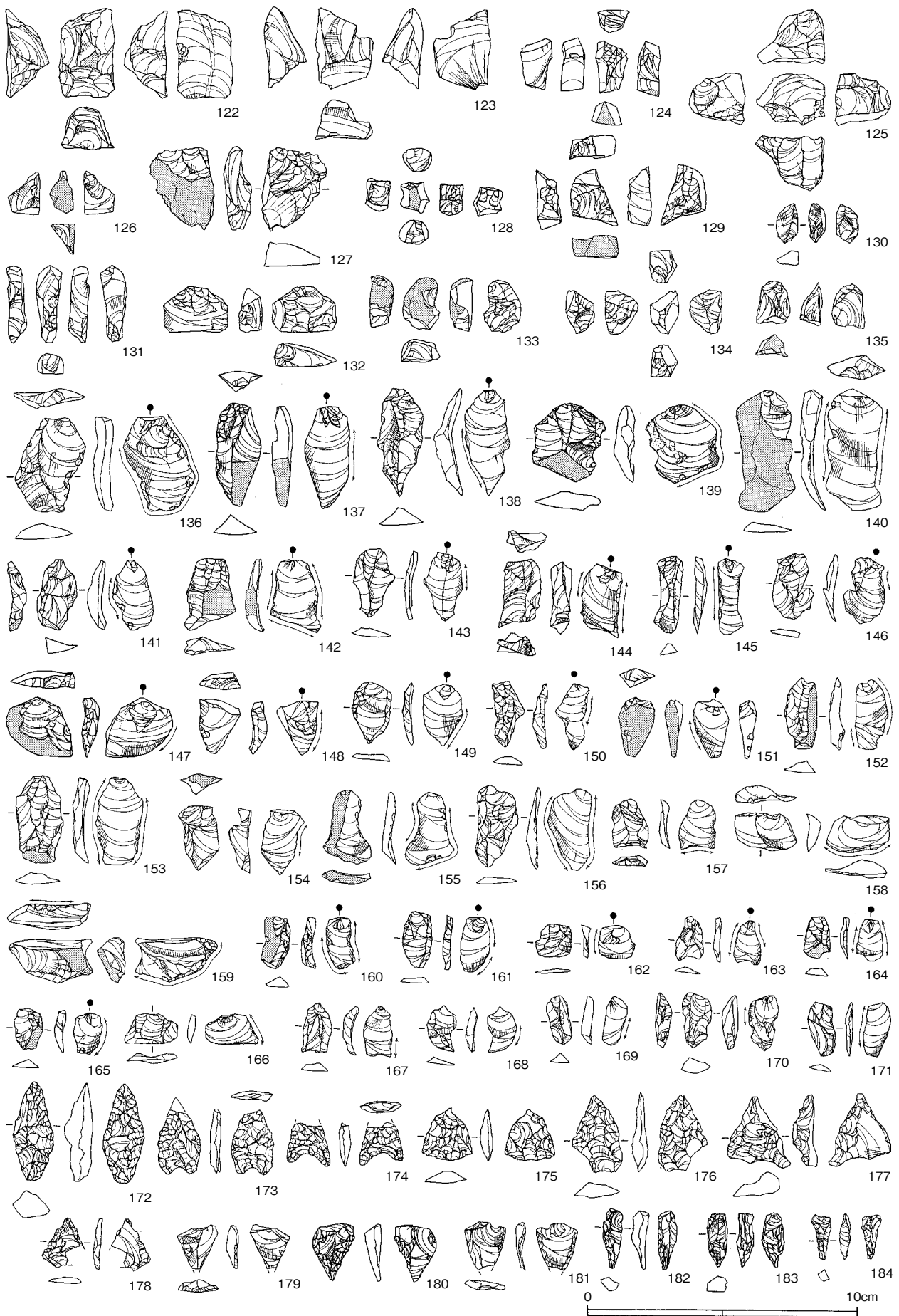


図11 重福場第3遺跡（上田遺跡）の南西地区の黒曜石製石核・使用痕剥片・石鏃・石錐

られない。最終的な作出剥片は、いずれもSやSSサイズである。Sサイズでの自然面保有率が第2遺跡で44%、第3遺跡南西地区で34%を示し後者の率がいくぶん低い点は、剥片剥離の進行に由来した現象と言える。

遺跡間での石核・剥片サイズの異なりに関連し、剥片の腹面に残る「バルバースカー」に着目したい。これは剥片作出にあたり打点直下のバルブ上に生じた小剥離痕で、実測図右上に示すドットは保有資料を表す。両遺跡における「バルバースカー」をもつ剥片は、サイズが小型化するにつれて出現率が低下する傾向にあり、その有無がハンマーや加撃法の違いに由来することをうかがわせる。バルバースカー保有率を比較すると、第2遺跡(重稲場西遺跡)ではLサイズ83%・Mサイズ48%・Sサイズ28%である。これに対し第3遺跡(上田遺跡)南西地区では、Lサイズ67%・Mサイズ79%・Sサイズ46%となり、Mサイズで30%、Sサイズで20%あまりの高い数値を示す。ちなみに、本遺跡群の北3kmに位置する前表遺跡でも多量の黒曜石製剥片が採集されている。この遺跡は朝日下層式直後の新保式I期に中心をもち、黒曜石の利用率や剥片サイズが第3遺跡と類似する(第12図C)。前表遺跡でのSサイズのバルバースカー保有率は48%を示し、第3遺跡(上田遺跡)南西地区の数値に近似する。したがって、第2遺跡(重稲場西遺跡)と第3遺跡(上田遺跡)南西地区の間に認めるバルバースカー保有率の異なりは、両遺跡における小型石核の多寡にも関連し、剥片剥離手法の違いに由来する可能性が高い、と考えることができる。

第3遺跡(上田遺跡)南西地区では、使用痕とみられる連続的な微細剥離をもつ剥片が91点確認できた。この中にはSサイズ(160~171)が最も多く、その割合は64%に達する。182・183はSサイズの両極剥片を素材とした石錐で、石核D種と対応する資料である。第2遺跡(重稲場西遺跡)と比べ、小型剥片の利用率が高い点も大きな特徴となる。

筆者は以前、黒曜石利用率が低い遺跡における大型剥片の乏しさを石器素材に適した剥片の多くを消費したため、と解釈したことがあった〔前山2014〕。しかしそれだけでは十分な説明と言いがたく、低利用率遺跡での小型剥片への偏りは、それらの量産と有効利用が相まって生じた現象であろう、と考えるに至った。旧稿での解釈をここに訂正する。

B 信州産黒曜石の流通

角田山麓における黒曜石の利用は、前期終末に本格化する。それ以前は剥片石器自体の出土量が少なく〔小野・前山ほか1987〕、本遺跡群での信州産黒曜石の大量出

土は角田山麓において大きな画期をなしている。

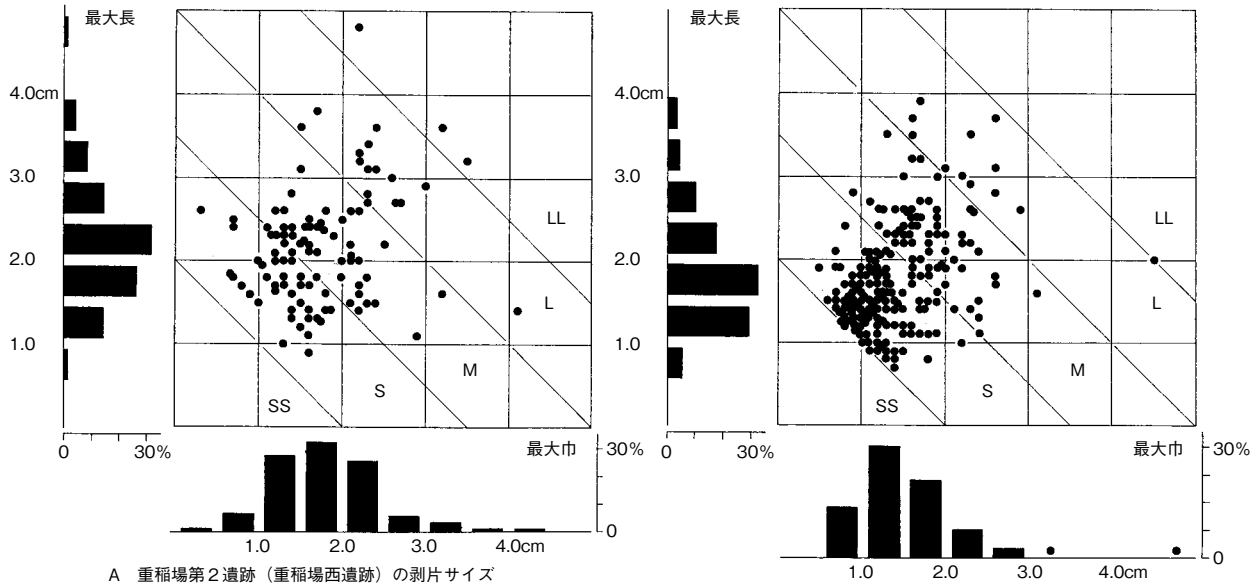
当地で黒曜石の高率利用遺跡が存在するのは中期前葉までの期間であるが、この時期の黒曜石利用率は遺跡間での変異が著しく、重稲場遺跡群の他に80%を上回るケースは本遺跡群廃絶後の移動地とみられる大沢遺跡A地区の前期終末~中期初頭段階に限られる。前述のように、重稲場遺跡群ではほとんどすべてが星ヶ塔産石材によって占められる。大沢遺跡A地区の成立期にあたるIV層出土資料は星ヶ塔を主としながら和田峠が付随する内容で(第12図C)、信州産石材に集中する本遺跡群の特徴と合致する。同地区出土の石核はA種(第14図5)やB種(同図1・2)を主体とし、剥片サイズにおいても第1遺跡(重稲場遺跡)や第2遺跡(重稲場西遺跡)に近似する(同図C)。

これに対し、豊原遺跡の黒曜石利用率は前期終末~中期前葉層準で3~9%にとどまり〔小野・前山ほか1988〕、本遺跡の北1kmに位置する峰岡城山遺跡(中期前葉)でも4%にすぎない〔新潟市教委2015〕。その一方で、南赤坂遺跡と前表遺跡での占有率は50~60%台にのぼるが、いくつかの点で第1遺跡(重稲場遺跡)・第2遺跡(重稲場西遺跡)や大沢遺跡A地区と特徴を異にする。南赤坂遺跡では、星ヶ塔産黒曜石を主体としつつも山形県月山や阿賀北の板山産石材が加わる。南赤坂遺跡から出土した第12図6は、原石の大きさがわかる剥片剥離初期の石核である。第1遺跡(重稲場遺跡)の原石に比べそのサイズは明らかに小さく、この遺跡に供給された黒曜石の姿を示唆している。剥片サイズを見ると、南赤坂遺跡や前表遺跡ではSサイズに中心をもつ。これと対応するように両遺跡の石核は南赤坂遺跡(第12図6~11)でA種が欠落し、前表遺跡(同図12~16)ではC種に限定される。

以上述べてきたように、角田山麓では信州産黒曜石を多量に保有する遺跡とその量が制約される遺跡が共存していた。前者は第1遺跡(重稲場遺跡・真脇式期)から第2遺跡(重稲場西遺跡・朝日下層式期古段階)を経て大沢遺跡A地区(同新段階~新崎式期)へと連なる一連の黒曜石多量保有集団の存在を意味しており、このグループによって黒曜石の入手と供給が行われていたのであろう。

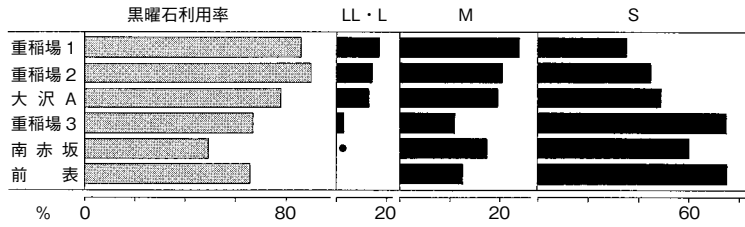
ちなみに角田山麓では、前期前葉以来西頸城産の蛇紋岩を石材とする磨製石斧の製作が行われていた。前期終末~中期前葉の南赤坂遺跡と豊原遺跡では、製作時に生じた未成品や砥石がまとまって出土し、自給量を超えた石斧作りがなされた可能性が高い。出自を異にした二つの集団は、石器石材や製品の入手にあたり、相互補完的な役割を担っていたことをうかがわせる。

本遺跡群において黒曜石の利用率・剥片サイズ・石核

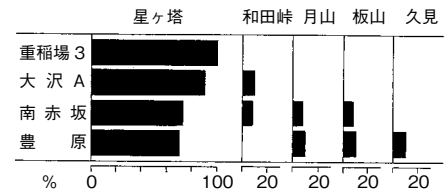


A 重稲場第2遺跡（重稲場西遺跡）の剥片サイズ

B 重稲場第3遺跡（上田遺跡）の剥片サイズ



C 黒曜石の利用率と剥片サイズの構成



D 黒曜石の産地構成

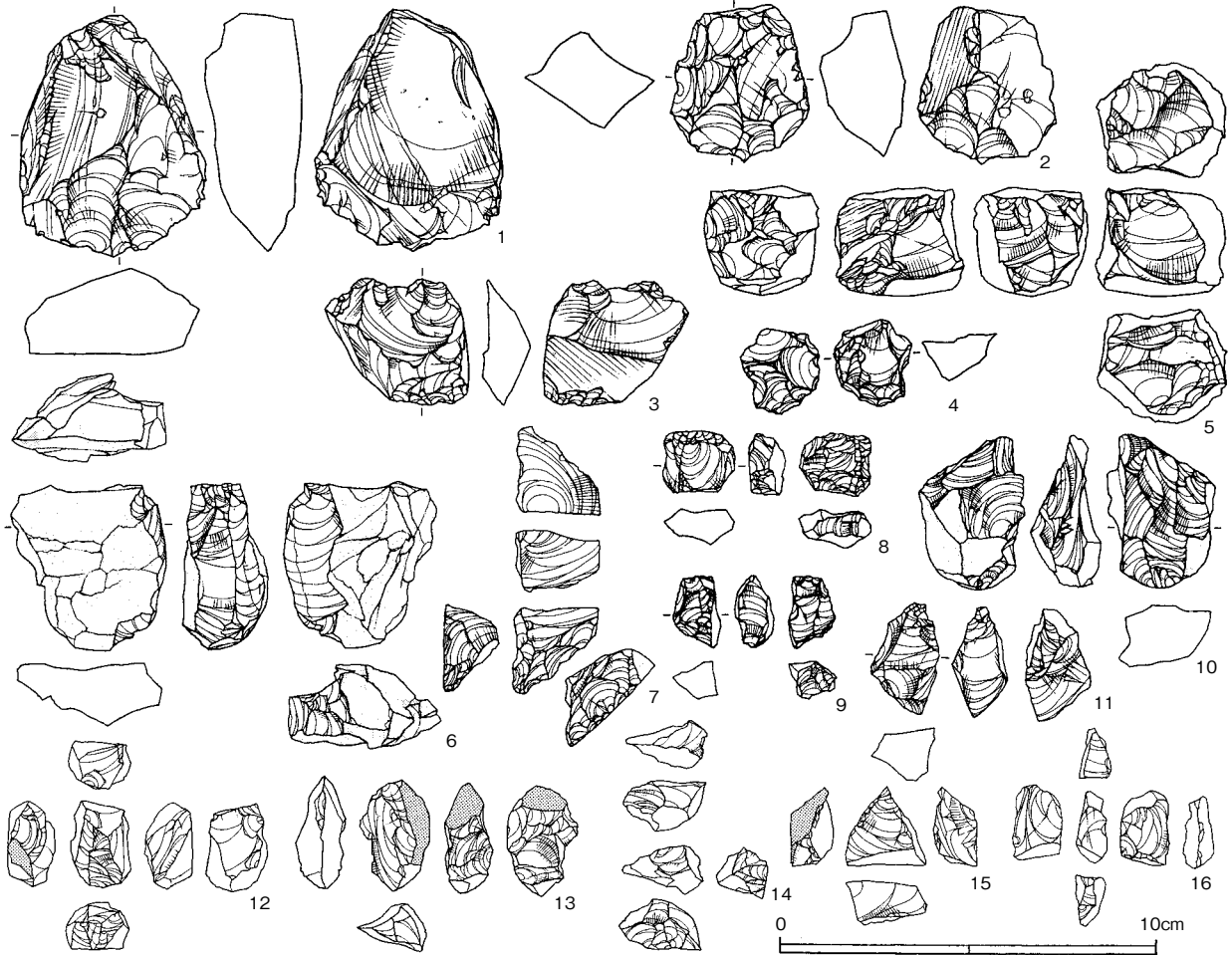


図12 角田山麓縄文遺跡群の黒曜石製剥片と石核

の在り方が遺跡間で異なることを前項で指摘した。そうした事象が意味するところを最後に考える。重稲場遺跡群や大沢遺跡A地区居住集団を中心とした黒曜石の流通範囲は、角田山麓にとどまるものではなかった。対岸佐渡の吉岡惣社裏遺跡（前期終末主体）では、佐渡島内産の黒曜石と共に信州産黒曜石が出土している。後者の内訳は星ヶ塔85%、和田峠15%からなり〔藁科・東村1988〕、大沢遺跡と近似した在り方を示す。大沢遺跡の西3kmたらずに位置する角田岬は、越後の中で佐渡との最短地点にあたる。角田山麓は信州産黒曜石を多量に出土した北限の地でもあり〔大工原2002〕、佐渡への供給地は当地以外に考えられない〔前山1996〕。

重稲場遺跡群や大沢遺跡A地区で多量に出土した信州産黒曜石は良質石材で、ブランド品として広範囲にわたり流通していた。青森県三内丸山遺跡の黒曜石の中に3%の割合で確認された同地産石材〔藁科2005〕は、その好例となる。秋田県内では中期前葉を中心とした北陸系土器が一般的に出土する現象が知られており〔富樫1984〕、日本海を経由した活発な地域間交流を物語る。このうち秋田市下堤D遺跡は重稲場I群古段階の土器が出土した小規模遺跡で、北陸集団が残したコロニーの可能性が高い同市周辺最古の事例となる〔今村2006b〕。この遺跡の成立には重稲場第1遺跡が関与したことも考えられ、本遺跡群や大沢遺跡A地区に備わる交易従事集団としての性格を想起させる。

渡辺仁氏によれば、「航洋交易」を行う狩猟採集民は経済的なゆとりをもった階層化社会の人々で、近世アイヌや北米西海岸の交易実施者は、地域社会の首長ないし上部階層者に限られた〔渡辺1990〕という。こうした民族例からの類推が適切であるとすれば、重稲場遺跡群には二つのグループが存在し、信州産黒曜石の調達・流通にあたり中核的な役割を担った第1・第2遺跡と従属的な立場にあった第3遺跡に分かれる、という図式が想定できるのではなかろうか。

重稲場遺跡群の移動先とみられる大沢遺跡では、似た現象をより鮮明な形で見ることができる。遺跡の広がりには東西600m・南北300mにおよび、尾根や高度を異にして4つの地区に分かれる。中期前葉の段階で各地区はそれぞれ小集落をなしたと考えられるが、黒曜石が卓越するのはA地区だけで、他の地区では10%以下にすぎない。石器組成にも大きな違いがあり、A地区の石鏃出現率は他の地区を圧倒する。筆者は以前こうした現象について、複数集落から編成される集団がこの時期の角田山麓で行われ、A地区居住集団がその主導的役割を果たした可能性を指摘したことがある〔巻町教委1990〕。黒曜

石の保有量に認める不均等な在り方を含め、縄文時代における重層化した社会の一端を示す事例と考えたい。

文献

- 今村啓爾 2006a 「松原式土器の位置と踊場系土器の成立」『長野県考古学会誌』第112号
- 今村啓爾 2006b 「縄文前期末における北陸集団の北上と土器の動き」『考古学雑誌』第90巻第3・4号
- 上原甲子郎 1956 「弥彦角田山周辺古文化遺跡概観」『弥彦角田山周辺総合調査報告書』新潟県教育委員会
- 小野昭・前山精明ほか 1988 「巻町豊原遺跡の調査」『巻町史研究』IV 巻町
- 金山喜昭・前山精明・鈴木正男 1995 「縄文時代の日本海沿岸部における黒曜石の交流」『日本考古学協会第61回総会研究発表要旨』
- 金子拓男 1996 「重稲場式土器」『日本土器辞典』雄山閣
- 新発田市教育委員会 2003 『二子沢A遺跡発掘調査報告書』
- 大工原豊 2002 「黒曜石の流通をめぐる社会」『縄文社会論上』同成社
- 寺崎裕助 1999 「新潟県における縄文時代前期の土器」『縄文土器論集』縄文セミナーの会
- 寺崎裕助 2019 「第2章縄文時代 第2節土器 第3項前期」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会
- 富樫泰時 1984 「秋田県における北陸系土器について」『本庄市史研究』第4号
- 新潟県 1983 『新潟県史考古資料編』
- 新潟県教育委員会 1995 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 猿額遺跡』
- 新潟市教育委員会 2013 『峰岡城山遺跡 第2次調査』
- 新潟大学考古学研究部 1995 「角田・弥彦山東麓及び佐渡周辺の遺跡調査報告書」『FIELD NOTE』第7号
- 前山精明 1995 「重稲場遺跡群」『巻町史 資料編1 考古』巻町
- 前山精明 1996 「角田山麓の縄文文化」『巻町史 通史編上』巻町
- 前山精明 2005 「水辺の営み—新潟県角田山麓縄文時代遺跡群の事例から—」『地域と文化の考古学』I 六一書房
- 前山精明 2014 「石器の材料・製作・使用」『講座日本の考古学 縄文時代下』青木書店
- 前山精明・龍田優子 2017 「チューブ・デコレーション技法の再現実験」『新潟市文化財センター年報』第4号
- 巻町教育委員会 1990 『大沢遺跡』
- 巻町教育委員会 2002 『南赤坂遺跡』
- 山口栄一 1981 「重稲場・道上両遺跡の土器文様について」『まきの木』第12号
- 渡辺 仁 1990 『縄文式階層化社会』六興出版
- 藁科哲男 2005 「三内丸山遺跡出土の黒曜石製石器・剥片の原材料産地分析」『特別史跡三内丸山遺跡年報』8
- 藁科哲男・東村武信 1988 「佐渡島内遺跡出土の黒曜石遺物の石材産地同定」『佐渡考古歴史会報』第12号

2 試掘・確認調査からの旧地形復元

長谷川 眞志

(1) はじめに

本書のⅡ、Ⅲ章でも記載がある通り、埋蔵文化財保護行政が行う遺跡調査には本発掘調査、試掘・確認調査、工事立会などが存在する。試掘・確認調査の目的は遺跡の有無や広がり、その深さを明らかにすることであるため、小規模な試掘坑を複数調査するものである。調査地全体を面的あるいは線的に発掘する本発掘調査に比して、試掘・確認調査は点的な調査であり、その調査精度が劣る点は否めない。一方で本発掘調査と異なり、広大な面積を対象範囲として調査するケースもあるため、遺跡周囲の自然地形を考えると、限られた範囲で行う本発掘調査よりも多くの情報を提供してくれる可能性がある。

そのため、多年にわたり複数の試掘・確認調査が行われている遺跡では、遺跡自体の情報だけでなく、周囲の自然地形などの情報も多数蓄積されていると考えられる。そうした調査結果は、周辺で本発掘調査が行われた場合には発掘調査報告書での検討に加えられている。

一方で、試掘・確認調査ののちに保護層確保等がなされて本発掘調査が行われてこなかった遺跡の場合は、蓄積された試掘・確認調査の結果をまとめて検討する機会が得られない場合もある。

そこで本稿では、新潟市内の遺跡のうち試掘・確認調査が数多く行われ、かつ近年発掘調査報告書が刊行されていない遺跡であり、筆者自身が令和3年度の確認調査に参加していた緒立遺跡を対象として、本発掘調査及び試掘・確認調査の結果をもとに旧地形の復元を試みる。

調査方法としては、本発掘調査の履歴は発掘調査報告書から、試掘・確認調査については新潟市から県教委に提出している発掘調査終了報告の資料を参考とした。これらの資料を照合し、遺物の出土層位の比較から、各地点の包含層上端の標高を求め、旧地形を考える。

なお、当時の地形を復元するには遺物包含層よりも遺構確認面の標高から検討するのがふさわしいが、緒立遺跡周辺では遺構確認面に相当する砂丘形成層が深すぎて試掘坑で検出されない場合や、遺跡の保存を優先して包含層上面で掘削を止めている調査も複数あるため、今回の検討では遺物包含層から地形を推定するに留める。

(2) 緒立遺跡の概略

緒立遺跡は新潟市西区黒鳥の緒立八幡宮周辺に所在する弥生時代～古代を主とする遺跡である。埋蔵文化財包蔵地としては、緒立八幡宮を中心とし、緒立八幡宮古墳(註1)を含む緒立A遺跡、南西部の道路改良工事で発

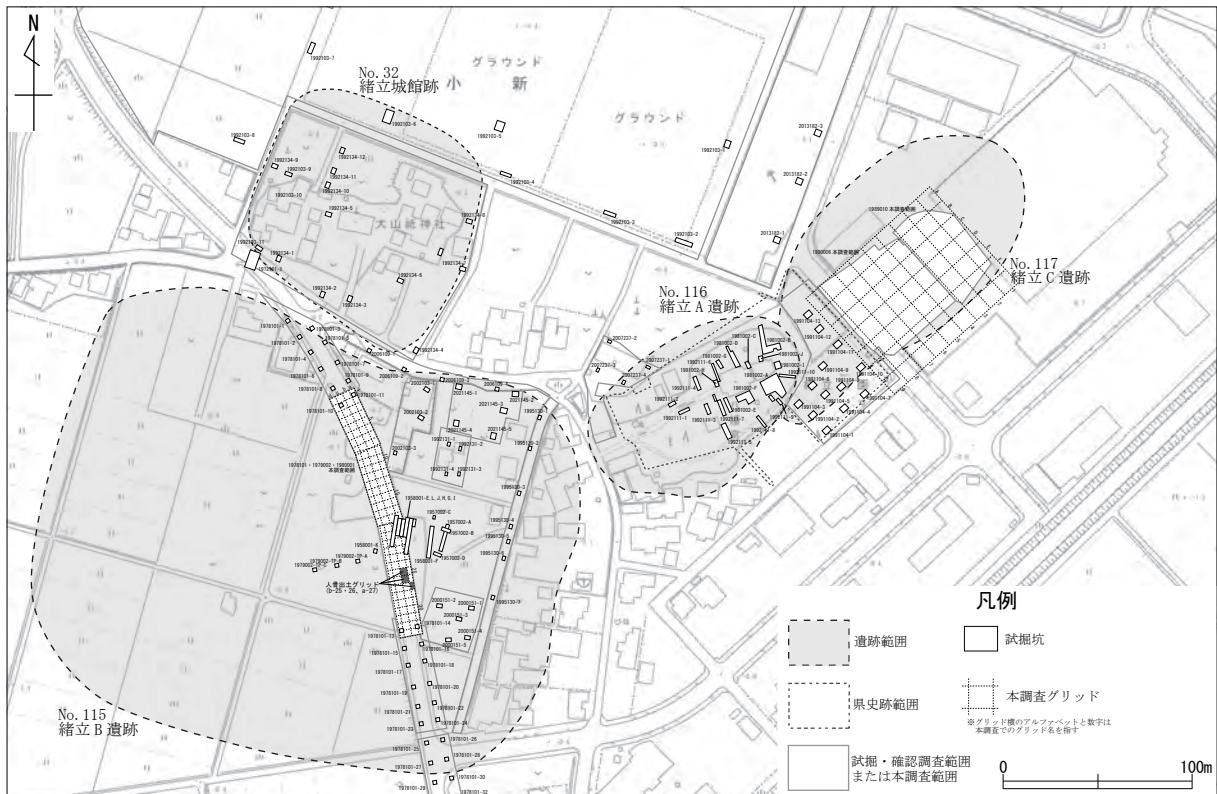


図1 周辺の遺跡範囲と調査位置 (1:4,000)

掘調査が行われた緒立B遺跡、北東部の土地区画整理事業で本発掘調査が行われた緒立C遺跡から構成される。また、これらの北西に、大山祇神社周辺が中世の城館跡である緒立城館跡として登録されている(図1)。

緒立遺跡の立地については、過去の複数の発掘調査報告書で埋没砂丘と述べられている。また、砂丘の規模については1979年の報告書で、南西から北東に幅約56mで延びる地形という指摘がなされている。この砂丘の北東端部は、緒立C遺跡の本発掘調査で確認されている。

同書では、砂丘頂部の平坦面でなく、傾斜面から人骨が出土している点について、「傾斜面以下一定の範囲を沼沢地と考えるかあるいは陸地化していたと考えるかは、本遺跡の自然環境論上まったく相反した結論を導き出すこととなり、遺跡形成の原因について表裏2面のうちの誤った1面のみを抜き出す危険性につながるであろう。」〔文献②、p44〕と述べられている。

また、1994年の緒立C遺跡の発掘調査報告書では、調査地北東部で出土した祭祀遺物から想定される、古代の水辺の祭祀が行われた場所と、掘立柱建物の立地の変遷から、汀線の変化について触れられている〔文献⑨、p84〕。

以上のように、緒立遺跡が立地する砂丘の規模や周辺環境についての言及は見られるが、砂丘全体の形状や広がりについては未だ明らかにされていない。

(3) 調査の方法

今回の検討では、過去の発掘調査報告書で公開されたデータに加え、近年の試掘・確認調査の成果、明治時代の陸軍測地部による地形図、昭和22年の米軍による航空写真から旧地形を探る。また、1957年・1958年の調査範囲と人骨の出土地点については、文化財センター年報第3号の渡邊氏の記した企画展「新潟県最古の弥生文化緒立遺跡展」の図を参照した〔文献⑩、p54〕。

緒立遺跡周辺の調査として、本発掘調査7件、試掘・確認調査17件、工事立会7件が行われている。このうち土層などのデータを利用できた本発掘調査7件、試掘・確認調査15件について調査対象とした。各調査の詳細が表1、調査範囲や試掘坑の位置については図1を参照いただきたい。なお、調査番号は新潟市での発掘調査管理のための番号である。

緒立遺跡は弥生～古代を主体とし、縄文時代や中世の遺物も出土する遺跡であるが、各時代の遺物包含層を層的に識別できた報告は少ない。今回は遺物包含層として報告されている黒褐色系統の砂質土(ただし再堆積土と評価されている層を除く)を一括して考える。検討に用いた各トレンチの標高を表2に示す。地点の名称は、試

表1 対象調査一覧

	発掘調査番号	調査種別	遺跡名	文献
1	1957002	本発掘調査	緒立B遺跡	⑩
2	1958001	本発掘調査	緒立B遺跡	⑩
3	1972101	確認調査	緒立城館跡	-
4	1978101	本発掘調査	緒立B遺跡	①・⑤
5	1979002	本発掘調査	緒立B遺跡	②・⑤
6	1980001	本発掘調査	緒立B遺跡	③・⑤
7	1981002	確認調査	緒立A遺跡	④
8	1986109	確認調査	緒立C遺跡	⑥
9	1989010	本発掘調査	緒立C遺跡	⑦・⑨
10	1990006	本発掘調査	緒立C遺跡	⑦・⑨
11	1991104	確認調査	緒立C遺跡	-
12	1992103	確認調査	緒立城館跡	-
13	1992111	確認調査	緒立A遺跡	⑧
14	1992131	確認調査	緒立B遺跡	-
15	1992134	確認調査	緒立城館跡	-
16	1993109	確認調査	緒立B遺跡	-
17	1995130	確認調査	緒立B遺跡	-
18	2000151	確認調査	緒立B遺跡	-
19	2002103	確認調査	緒立B遺跡	-
20	2005137	確認調査	緒立城館跡	-
21	2006109	確認調査	緒立B遺跡	-
22	2006264	工事立会	緒立A遺跡	-
23	2006316	確認調査	緒立A遺跡	-
24	2007156	工事立会	緒立A遺跡	-
25	2007237	確認調査	緒立A遺跡	-
26	2011208	工事立会	緒立A遺跡	-
27	2013182	試掘調査	-	-
28	2018242	工事立会	緒立A遺跡	-
29	2018252	工事立会	緒立C遺跡	-
30	2021145	確認調査	緒立B遺跡	-

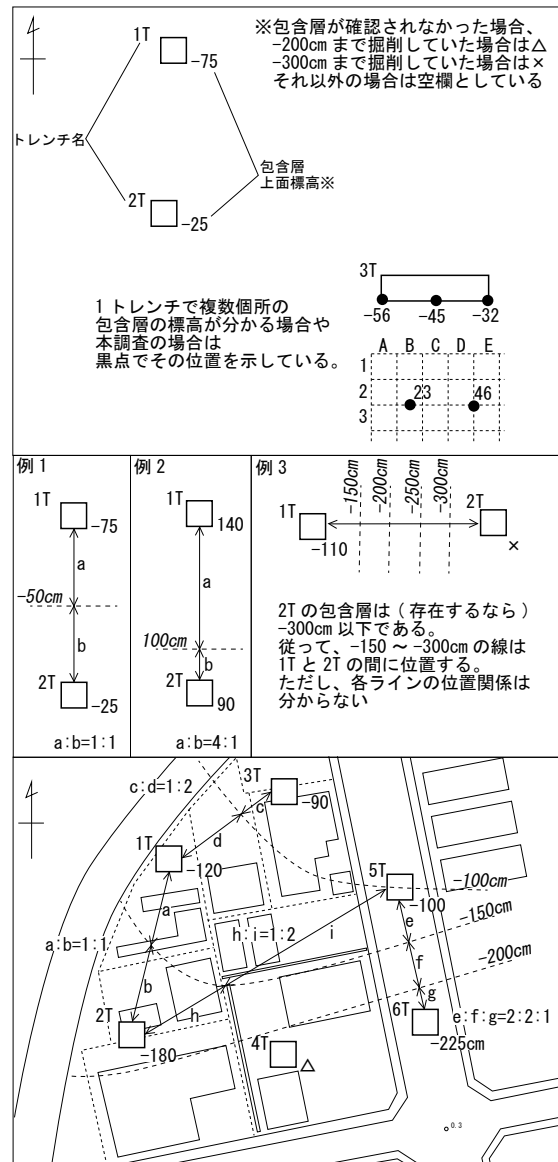


図2 模式図と包含層等高線の例

掘・確認調査の場合は“調査番号”+“トレンチ名”の形で、本発掘調査の場合は“調査番号”+“グリッド名”で表す。同一トレンチで複数個所の標高が分かる場合には、末尾に方向を追加して表している。

遺物が出土し明確に遺物包含層と認定できる層序のほか、遺物が出土していない場合でも、土質や層序から遺物包含層相当と考えられる層序も検討に加えた。

これらの数値から推定される包含層標高の等高線は、図2に示した考え方で導き出した。既知の包含層の標高から機械的に導いたため、地形のおおまかな起伏は捉えられると考えられるが、細かな凹凸等までは反映できないので、注意が必要である

周辺の米軍航空写真に遺跡範囲を加えたものが図3である。緒立遺跡の北側を流れる小河川が、的場遺跡の北の的場淵に流れ込む様子や、現在も使われている横江排水幹線が確認できる。

図4は陸軍測地部作成の地形図である（明治43年測図、昭和6年修正）。米軍空撮写真と見比べると、用排水路や小河川の有無などの差異があるほか、周囲の耕作地の全てが湿田として記してある。

(4) 結果

上記の方法で検討した結果の図面が図5である。南東から北東方向にかけて幅60～70mの舌状に伸びる砂丘の形状を推定できた。

なお、調査を進める中で、文献⑤に記載されている1978～1980年本発掘調査d列の柱状図データは、文献②・③で記載されたa列の標高と大きな差があった。遺物包含層や遺構確認面の標高と比較しても、正確な数値を導けなかったため、今回の検討には当該報告書の数字は用いなかった。

現段階で判明した点を以下に示す。

イ. 緒立B遺跡の南西部分（本調査部分の西隣接地）には、砂丘頂部の平坦面の延長部分が存在する。この範囲の包含層は標高-50～+10cm程度の非常に浅い深度で確認されると予想されるため、今後の開発には注意を要する。

ロ. 緒立B遺跡では、包含層標高-50～+50cmの砂丘頂部の平坦面で古墳～古代の遺構が確認されている。一方で緒立C遺跡の古墳～古代の遺構の確認された範囲は、包含層標高が-300～-150cmである。この範囲は砂丘頂部から約100cm下がったテラス状の平坦面と言え



図3
米軍撮影空中写真 (R226-162)
と遺跡の位置 (1:20,000)
昭和22年撮影

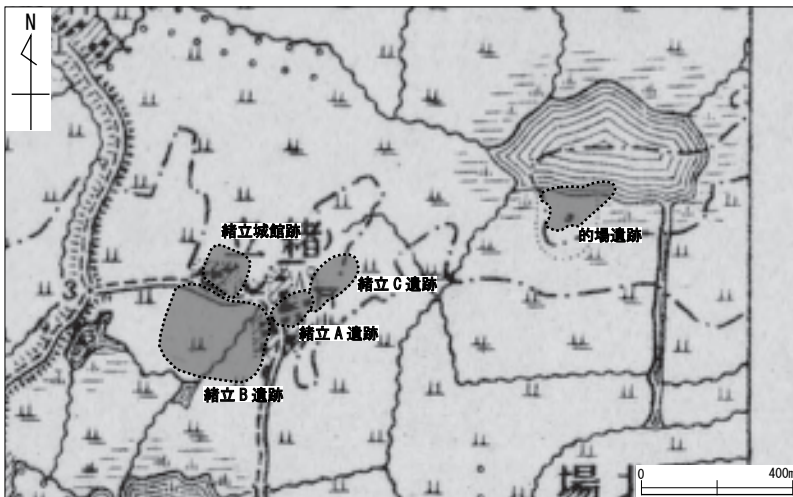


図4
明治期の地図と
遺跡の位置 (1:20,000)
陸軍測地部作成五万分一地形図
(内野・新潟) 明治43年測図・
昭和6年修正より

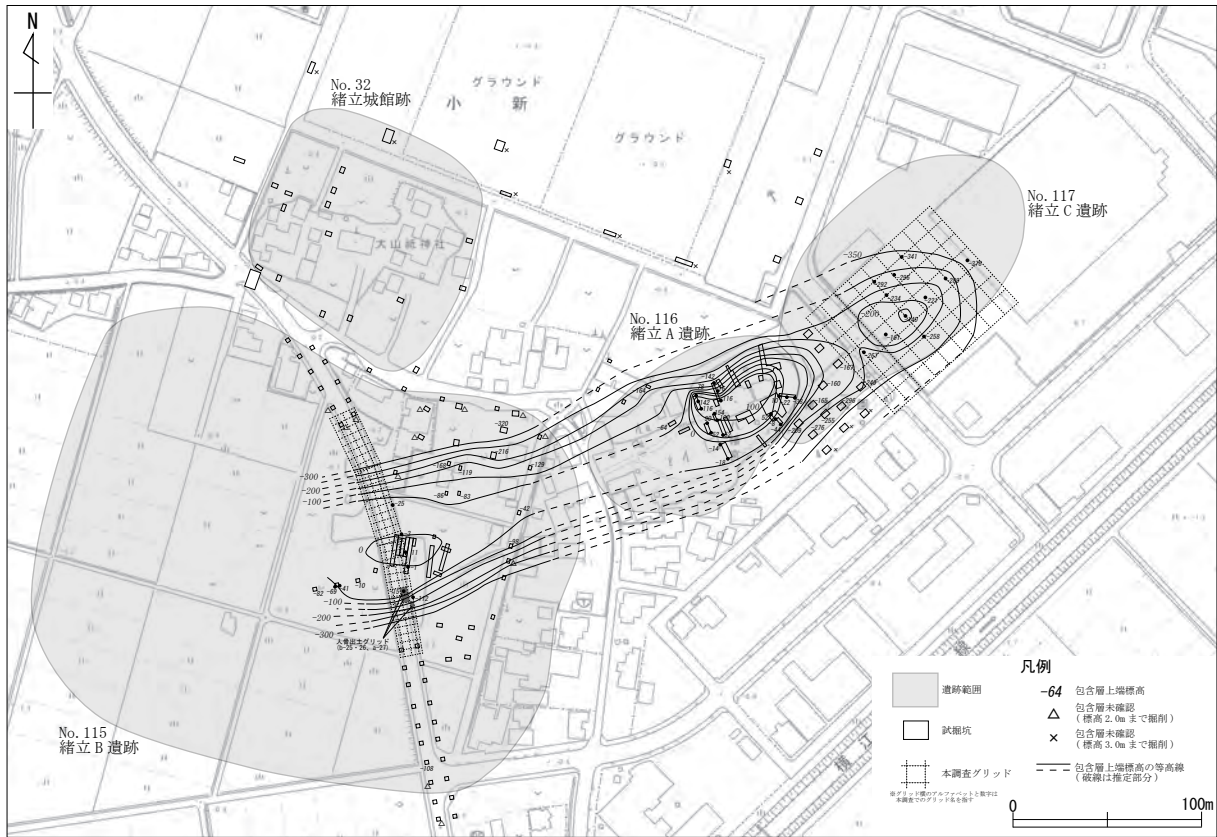


図5 包含層上端標高の等高線図 (1:4,000)

る。この範囲に遺構が存在するため、少なくとも包含層の標高が-300cm以上の範囲は陸地化していたと考えられる。

ハ. 1979年の緒立B遺跡の報告書で述べられた、人骨出土の傾斜面 (b-25・26及びa-27グリッド) が沼沢地であるか、陸地化していたかは、口をふまえると陸地化していた砂丘斜面と推定される。

ニ. 口は調査のなされていない範囲、もしくは試掘坑の深度がここまで達していない調査地に、同様のテラス状の平坦面が存在し、遺構が見つかる可能性が考えられる。そのため、標高-300cm程度まで掘削するのが望ましい。周辺の地表高 (-80~-10cm (水田面)) を考えた時の掘削深度の目安はGL-250~-300cm程度となる。

ホ. 推定される砂丘南側にはガツボ層をはじめ湿地性の堆積が厚く堆積している。一方北側では、複数の調査で河川性堆積と考えられる砂層が検出されている。明治期の地形図には記載がないが、米軍写真には的場潟に注ぐ小河川が写っている。この砂層から遺物が出土していないため時期は不明だが、砂丘南側と北側では水辺の環境が異なっていた可能性がある。今後、近隣の的場遺跡との間の自然環境を考えるとときに改めて考えたい。

ヘ. 推定した砂丘形状を検証するため、包含層標高-300cmのラインを米軍の空撮写真に重ねたものが図6



図6 包含層標高-300cmのラインと昭和22年の空中写真の比較

になる。ライン内側は標高差か、土質の違いかは不明だが、土地利用の違いで周囲の水田と写りが異なることが分かる。この図からも、砂丘形状のある程度は反映できたのではないかと考える。

(5) まとめ

今回は緒立遺跡という埋没砂丘上の遺跡について自然地形の復元を試みた。遺構や遺物を直接的に観察・検討したわけではないため、考古学とは言えない拙稿ではあるが、埋蔵文化財保護行政を進めていくための一視点として今回掲載させていただいた。

現地踏査や現地地形の観察から遺跡や旧地形を知ることが可能なケースがある一方で、新潟平野のような沖積地

では、砂丘や自然堤防が埋没して分からない場合も少なくない。そうした土地で旧地形を把握して、将来的な開発事業や本発掘調査の際の参考とするためには試掘・確認調査の結果も重要な意味を持つ。

遺構や遺物の確認されなかった調査は、単独では「遺跡がなかった」という意味しか持たない場合が多い。だが、適切に記録を残し、管理していくことで、周囲の埋蔵文化財の保護に役立てられるデータとなることもある。

今後は他の遺跡についても同様の検討を行いつつ、遺構分布や遺物の出土状況も踏まえながら、遺跡とその周辺の旧地形について考えていきたい。

なお、今回の検討では、遺物包含層の標高から包含層の広がり方を推定したものであり、旧地形をそのまま反映したデータとは言い難い。利用するデータや手法についても改善していきたい。

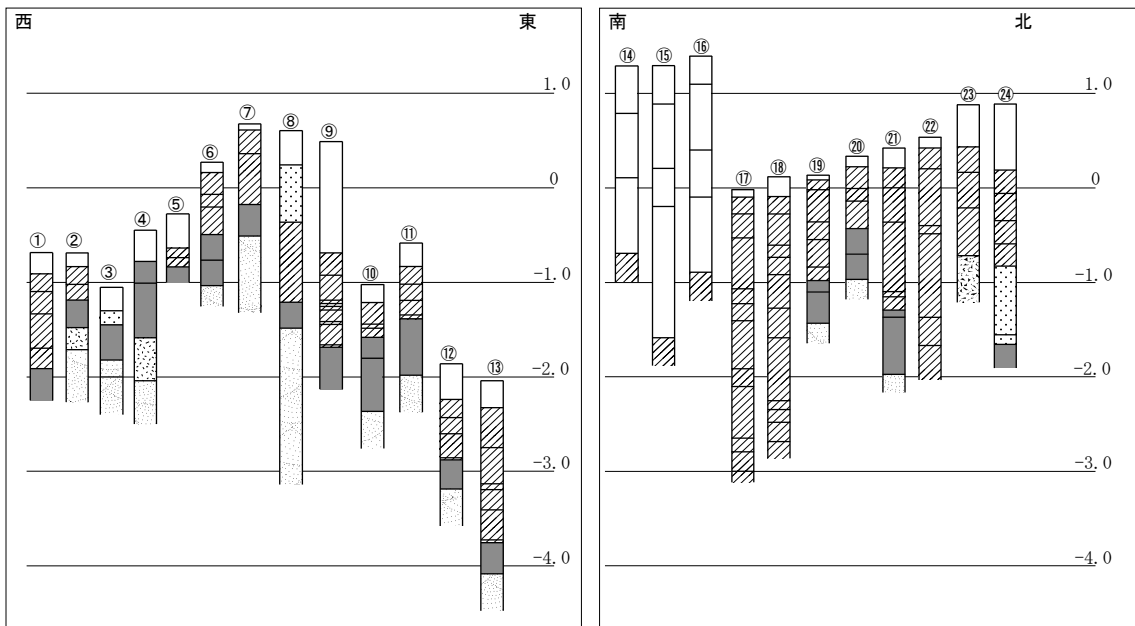
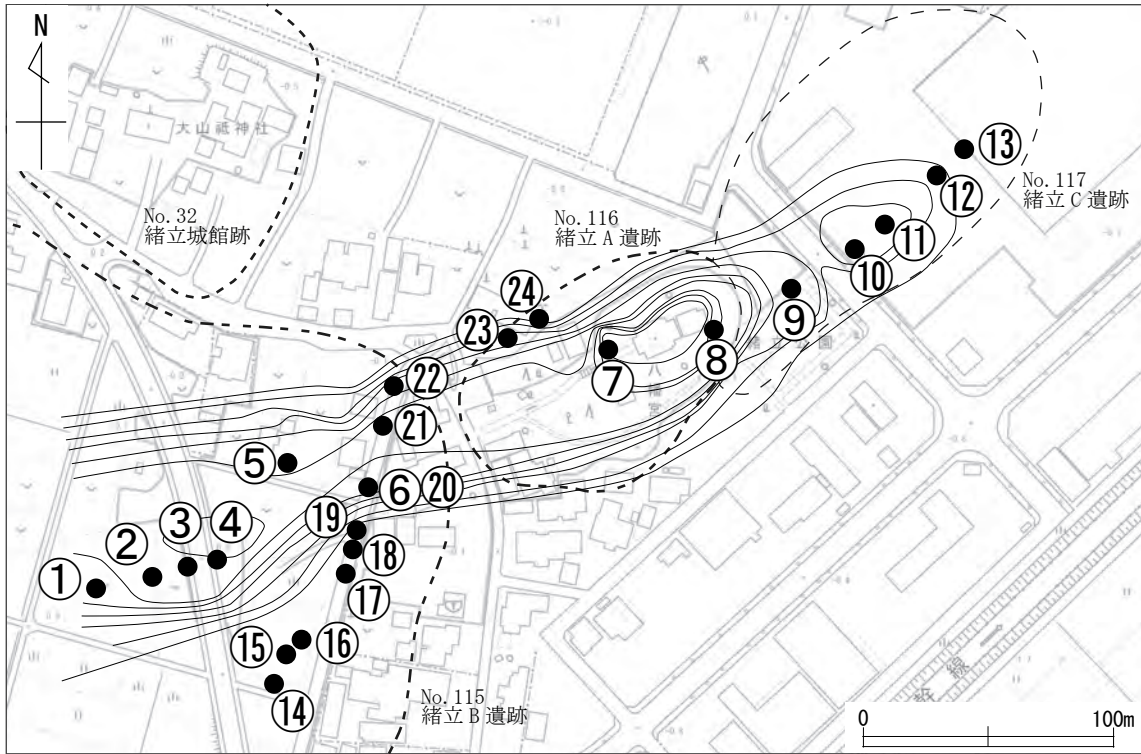
註1：緒立A遺跡に所在する、現在の緒立八幡宮を中心とする古墳の名称については、文献や資料により「緒立八幡宮古墳」と「緒立八幡神社古墳」の2つの表記が見られる。本稿では「緒立八幡宮古墳」として統一した。

参考文献

- ①磯崎正彦 1979 『新潟・燕線特殊改良工事にかかわる緒立遺跡第1次発掘調査実績報告』黒埼町教育委員会
- ②磯崎正彦編 1979 『緒立遺跡 新潟・燕線特殊改良工事にかかわる緒立遺跡第2次発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- ③北村亮ほか 1979 『新潟・燕線特殊改良工事にかかわる緒立遺跡第3次発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- ④吉田恵二編 1982 『緒立八幡神社遺跡』黒埼町教育委員会
- ⑤金子拓男編 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- ⑥和田寿久ほか 1987 『緒立C遺跡範囲確認調査報告』黒埼町教育委員会
- ⑦渡辺ますみ 1993 『緒立C遺跡発掘調査概報』黒埼町教育委員会
- ⑧渡辺ますみ 1993 『緒立A遺跡発掘調査報告』黒埼町教育委員会
- ⑨渡辺ますみ 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会
- ⑩渡辺朋和 2016 「Ⅲ 5(3) 企画展2「新潟県最古の弥生文化 緒立遺跡展 緒立遺跡と黒埼地方史研究会の活動 ―縄文の終末と弥生の始まりを求めて―」『新潟市文化財センター年報 一平成26(2014)年度版一』第3号 新潟市文化財センター

表2 各トレンチ・グリッドの数値一覧

発掘調査番号	調査種別	包含層土質	トレンチ名 グリッド名	包含層標高 (cm)			
1972101	確認調査	-	1	未確認			
1979002	本調査	IV層 黒褐色細砂	a-14	-25			
			a-18	-3			
			a-20	11			
			a-22	-1			
			a-26	-112			
			b-25	-15			
			TP-A	-10			
			TP-B-E	-41			
			TP-B-W	-69			
			TP-C	-82			
			1989010	本調査	VII層 黒褐色砂質土	B-4-W	-341
B-4-SW	-296						
B-5-W	-292						
C-5-W	-234						
D-1-C	-376						
D-2-SW	-289						
D-4-C	-221						
D-5-SW	-140						
D-7-C	-161						
D-8-SW	-267						
F-5-W	-258						
1991104	確認調査	VI層 黒褐色砂質土				1・4・7	×
						2	-276
			3	-209			
			5	-255			
			6	-165			
			8	-296			
			9	-160			
			10	-249			
			11	-167			
			12・13	カクラン			
			1992103	確認調査	-	1・8	△
						2~7	×
						9~11	未検出
1992111	確認調査	IV層 黒褐色砂質土	1	未検出			
			2	-64			
			3-N	90			
			3-S	52			
			4-N	78			
			4-C	142			
			4-S	116			
			5-N	-14			
			5-S	-18			
			6-N	-252			
			6-C	-46			
			6-S	-80			
			7-N	154			
			7-C	100			
			7-S	52			
			8	不明			
			9-N	52			
9-C	-8						
9-S	-44						
10-W	10						
10-C	-22						
10-E	-38						
1992134	確認調査	-	1~12	未検出			
1993109	確認調査	-	1~3	未検出			
1995130	確認調査	Vab層 黒褐色砂質土	1・5	△			
			2	-129			
			3	-42			
			4	-98			
2000151	確認調査	なし	1~5	未検出			
			2002103	確認調査	なし	1~3	△
			2006109	確認調査	-	1~4	未検出
			2007237	確認調査	VIII層 黒褐色砂	1	-164
2~4	未検出						
2013182	試掘	なし	1・2	未検出			
2021145	確認調査	Va層 黒色粘土質中粒砂 Vb層 黒色中粒砂中粒砂	1	△			
			2	△			
			3	-320			
			4	×			
			5	-216			



- 表土・耕作土・盛土
- 粘土層
- 砂層及び砂と粘土の互層
- ガツボ層
- 黒褐色砂質土 (遺物包含層)
- 包含層・地山漸移層
- 青灰色砂 (砂丘地山)

- | | |
|----------------|------------|
| ①1979101-TP-C | ⑭2000151-5 |
| ②1979101-TP-A | ⑮2000151-3 |
| ③1979101-d22 | ⑯2000151-1 |
| ④1979101-a22 | ⑰1995130-6 |
| ⑤1992131-3 | ⑱1995130-5 |
| ⑥1995130-3 | ⑲1995130-4 |
| ⑦1992111-4-S | ⑳1995130-3 |
| ⑧1992111-10-W | ㉑1995130-2 |
| ⑨1991104-11 | ㉒1995130-1 |
| ⑩1989010-D-7-C | ㉓2007237-4 |
| ⑪1989010-D-5-S | ㉔2007237-1 |
| ⑫1989010-D-2-S | |
| ⑬1989010D-1-C | |

位置の表記は表2の
トレンチ名およびグリッド名
に準じている。
また、⑥と㉔は同一である。

図7 柱状図(一部)とその位置図
(柱状図は縦方向のみ1:20)

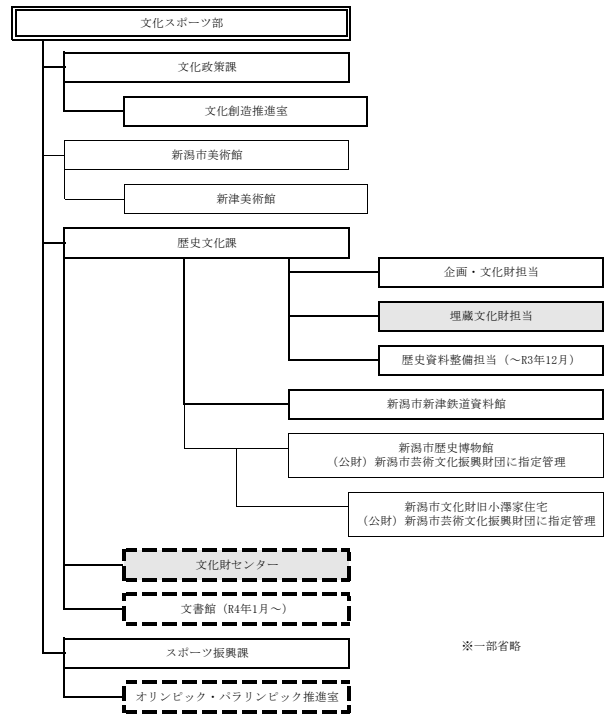
【引用・参考文献】

(Ⅰ～Ⅳのみ。Ⅴは各節ごとに記載)

- 今井さやか 2014 「Ⅲ 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報—平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 澤野慶子 2021 「Ⅲ 2 令和元年度の本発掘調査 (1) 曾我墓所遺跡 第2次調査 (2019001)」『新潟市文化財センター年報—令和元 (2019) 年度版—』第8号 新潟市文化財センター
- 龍田優子 2022 「Ⅲ 2 令和2年度の本発掘調査 (3) 曾我墓所遺跡 第3次調査 (2020003)」『新潟市文化財センター年報—令和2 (2020) 年度版—』第9号 新潟市文化財センター
- 新潟市教育委員会 2013 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存整備事業報告書—2000年の時を越え よみがえる弥生の丘—』
- 新潟市教育委員会 2015 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存整備事業報告書—1600年の時を越え よみがえる蒲原の王墓—』
- 新潟市教育委員会 2017 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存活用計画』
- 新潟市文化財センター 2014 『新潟市文化財センター年報—平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版—』第1号
- 新潟市文化財センター 2022 『令和3年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集』
- 渡邊朋和 2014 a 「Ⅲ 6 資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報—平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014 b 「Ⅲ 7 教育普及活動 (1) 展示」『新潟市文化財センター年報—平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014 c 「Ⅴ 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報—平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版—』第1号 新潟市文化財センター

令和3年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	板垣 正人	統 括
主幹 (学芸員)	遠藤 恭雄	埋蔵文化財
係長 (学芸員)	立木 宏明	埋蔵文化財
係長	飯塚 和美	事 務
主査 (文化財専門員)	今井 さやか	埋蔵文化財
主査 (学芸員)	相田 泰臣	埋蔵文化財
主査	岩佐 美紀	事 務
主査 (文化財専門員)	龍田 優子	埋蔵文化財
主査 (文化財専門員)	相澤 裕子	埋蔵文化財
主事 (文化財専門員)	高橋 保雄	埋蔵文化財
主事 (文化財専門員)	平山 千尋	埋蔵文化財
主事 (文化財専門員)	西山 美那	埋蔵文化財
会計年度任用職員 (考古)	新井 順	弥生の丘展示館
会計年度任用職員 (民俗)	久住 直史	民俗文化財
会計年度任用職員 (考古)	田中 耕作	弥生の丘展示館
会計年度任用職員 (考古)	奈良 佳子	埋蔵文化財
会計年度任用職員 (考古)	前山 精明	埋蔵文化財
会計年度任用職員 (考古)	八藤後 智人	埋蔵文化財
会計年度任用職員 (考古)	山嵜 一貴	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財担当		
主幹 (文化財専門員)	朝岡 政康	埋蔵文化財
主査 (文化財専門員)	諫山 えりか	埋蔵文化財
副主査 (文化財専門員)	金田 拓也	埋蔵文化財
副主査 (文化財専門員)	牧野 耕作	埋蔵文化財
主事 (文化財専門員)	長谷川 眞志	埋蔵文化財
会計年度任用職員 (考古)	古澤 貴子	埋蔵文化財



文化スポーツ部の組織機構図 (令和3年度)

新潟市文化財センター年報 第10号
—令和3（2021）年度版—

2023年3月30日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25